
魔法少女リリカルなのはS t r k e r S 世界の破壊者の最後の旅

キラー

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはStrikers 世界の破壊者の最後の旅

【Nコード】

N5135I

【作者名】

キラー

【あらすじ】

ディケイドはライダー大戦に終止符を打った。だが、それはディケイドの最後の旅の始まりを意味していた。世界の破壊者ディケイド、最後の旅を此処に迎える。

2つの始まり（前書き）

主人公は門矢士ですが、仮面ライダーディケイド本編の門矢士とは一切関係ありません。

それではスタートです。魔法少女リリカルなのはS t r i k e r s世界の破壊者の最後の旅、始まります。

2つの始まり

少年は9人の仮面ライダーに囲まれていた。少年『かどやつかさ門矢士』はディケイドライバーを取り出すと腰に装着してライドブッカードからディケイドと書いてあるカードをバツクルに入れてバツクルを閉じる。

「K A M E N R I D E D E C A D E !」

士は残像に包まれてその残像にライダープレートが刺さるとマゼンタ色に包まれて士はディケイドに変身する。

鳴滝

「ディケイド！これが貴様の最後だ！」

ディケイド

「此処で終わるかよ！」

マゼンタ色の仮面ライダー……ディケイドは鳴滝の背後のクウガ・アルティメットフォーム、アギト・グランドフォーム・龍騎、ファイズ、ブレイド・キングフォーム、響鬼、カブト、電王・ソードフォーム、キバ・キバフォーム、ディエンドの10人の仮面ライダーに追い詰められていた。

ディケイド

「危険だけど、こいつに賭けるか」

するとディケイドはケータッチを取り出してライドブッカードからコンプリートカードを取り出してケータッチに入れるとクウガからキバまでのライダークレストをタッチする。

「KUUGA AGITO RYUKI FAIZ BLADE
HIBIKI KABUTO DEN-O KIVA!」

ライダークレストを全てタッチするとディケイドのライダークレストをタッチする。

「FINAL KAMEN RIDE DECADE!」

電子音とともに携帯電話の着信音が鳴ると次の瞬間、ディケイドの仮面にディケイド・コンプリートフォームのライダーカードを模した『ディケイドクラウン』出現してその瞬間、ディケイドの胸と両肩にクウガからキバのライダーカードを模した『ヒストリーオーナメント』が現れてカラーが銀と黒に変わって複眼がマゼンタ色に変化する。そしてバックルを右腰に付けてケータッチをベルトに付ける。ディケイドは本来の姿である『仮面ライダーディケイド・コンプリートフォーム』にファイナルカメンライドをする。

ディケイド・コンプリートフォーム

「俺は世界の破壊者だ！全てを破壊してやる！！」

そう言うディケイド・コンプリートフォームはケータッチのクウガのライダークレストをタッチしてFのマークをタッチする。

「KUUGA KAMEN RIDE ULTIMATE!」

するとケータッチが光ってヒストリーオーナメントがクウガ・アルティメットフォームのカードになってディケイド・コンプリートフォームの隣に4つの角に赤い複眼、迅雷のような金色の線、漆黒に染まる闇の鎧をまとった意志を持った究極の闇『凄まじき戦士』の

『仮面ライダークウガ・アルティメットフォーム』が召喚される。

目の前にいる仲間の士郎が操られて変身したクウガ・アルティメットフォームを見ると戦うのを躊躇ってしまうが、ディケイド・コンプリートフォームはライドブッカーからクウガのライダークレストを描かれているファイナルアタックライドカードを取り出し、クウガ・アルティメットフォームも同じしぐさをする。ディケイド・コンプリートフォームは腰のバックルにカードを回転させながら装填してバックルを叩く。

「FINAL ATTACK RIDE ku ku ku KU
UGA!」

ディケイド・コンプリートフォーム

「これで終わりだアアアアアアアアッ!!!」

ディケイド・コンプリートフォームとクウガ・アルティメットフォームはキックの態勢に入って大きくジャンプするとディケイド・コンプリートフォームとクウガ・アルティメットフォームの右足は劫火に包まれてそのままクウガ・アルティメットフォーム、アギト・グランドフォーム、龍騎、ファイズ、ブレイド・キングフォーム、響鬼、カブト、電王・ソードフォーム、キバ・キバフォーム、ディエンドのいる中心にキックを炸裂してその直後巨大な煉獄の炎ともに巨大な爆発が起こって、爆発と炎が消えると残っていたのはアギト・グランドフォームからキバ・キバフォームの仮面ライダーの死体と変身を強制で解かれた士郎が重傷を負っているという光景だった。ディケイド・コンプリートフォームの亡骸は残っておらず、ディケイドの所持品で残っていたのは大切にしていたトイカメラだけが残されていた。士の行方は分からなかった。

別世界のミッドチルダ・時空管理局部隊『機動六課』ではアラートが鳴り響いて一級警戒態勢に入っていた。

この警戒態勢を茶髪のサイドポニーの少女『高町なのは』は機動六課の副隊長のグリフィス・ロウランに聞く。

なのは

「グリフィス君！」

グリフィス

「はい、教会本部から出動要請です！」

とそこに部隊長の『八神はやて』から通信が入る。

はやて

「なのは隊長！フェイト隊長！グリフィス君！こちらははやて！」

そこから金髪の女性『フェイト・テストロッサ・ハラウオン』からも通信が入る。

フェイト

「状況は！？」

はやて

「教会騎士団の調査部で追ってたレリックらしき物が見つかった！」

場所を伝えたはやてはすぐに出勤を命じる。

そこから物語は始まった。

はやてが伝えたりニアレールが走っている場所、そこに血だらけで倒れている士が突然現れる。士となのはたち機動六課は必然的な出会いをする。

次回予告

士

「ライダー大戦に終止符を打った俺は突然異世界に来てしまう。俺はそこで必然的な再開をする。次回、『突然の再会』。テイク・オフ、全てを破壊し、全てを繋げ！」

主人公設定

名前：門矢士

年齢：19歳

性別：男

変身ライダー：ディケイド（この小説のディケイドは腰にあるディエンドライバーにカードをスライドすることで仮面ライダーを召喚することができる。ディエンドのカードも所持しているため、ディケイドライバーを使ってイクサやドレイクに変身もできる。ファイナルフォームライドで最強フォームにも変身できる）

設定

この小説の主人公。決め台詞は「通りすがりの仮面ライダーだ、憶えておけ!」「通りすがりの世界の破壊者だ、憶えておけ!」。ディエンドライバーはライダー大戦の世界に居る時、クウガ・アルティメットフォームとともにファイナルアタックライドで攻撃をしたとき奪った。9つの世界、ネガの世界、ディエンドの世界、シンケンジャーの世界、RXの世界、ブラックの世界、アマゾンの世界、なのはA'sの世界、ライダー大戦の世界を巡った。性格は冷静だが優しい。だが、キレると冷酷な性格になってしまう。容姿は本人曰く「普通」だが実際は超が付くほどカッコいい。なのは、フェイト、はやて、ヴォルケンリッターなどの魔導師やアリサ、すずかとも仲がいい。ちなみにA'sの世界に来た時は小学3年生の姿になっていた

た。その時、なのは、フェイト、はやてに容姿と性格から恋愛対象として好かれてしまった。シグナムは師匠。

突然の再会（前書き）

前回までの『魔法少女リリカルなのはStrikers 世界の破壊者の最後の旅』

鳴滝

「デイケイド！これが貴様の最後だ！」

クウガ・アルティメットフォーム、アギト・グランドフォーム、龍騎、ファイズ、ブレイド・キングフォーム、響鬼、カブト、電王・ソードフォーム・キバ・キバフォームに追い詰められてしまうデイケイド。

デイケイド

「危険だけど、こいつに賭けるか」

デイケイドはコンプリートフォームになって危険な賭けに出る。

デイケイド・コンプリートフォーム

「俺は世界の破壊者だ！全てを破壊してやる！！」

クウガ・アルティメットフォームとの連携必殺技『アルティメットキック』を放って大爆発が起こってデイケイドは消えてしまい、アギト・グランドフォームからキバ・キバフォームは死亡してクウガ・アルティメットフォームは変身を解かれて気絶する。デイケイドはライダー大戦に終止符を打って旅は終焉したと思われたが………デイケイド…門矢士は最後の旅に出る。

突然の再会

士

「此処…は？」

目覚めた士は起き上がるうとするが、傷だらけの状態だったために倒れる。そこに爆発音が鳴る。士は痛みを堪えながら立ちあがって、デイケイドライバーを取り出して腰に付けるとベルトについているライドブツカーを支えにして歩き始める。

少し歩くと自分が居たりニアレールの上に戦闘用の機械と思われるもの『ガジェット・ドローン』が数体出現する。それを見た士はライドブツカーからデイケイドのカメンライドカードを取り出すとバツクルが開かれたデイケイドライバーに装填して閉じる。

士

「変身……………」

「KAMEN RIDE DECADE！」

電子音が鳴ると残像が現れて士に残像が重なって黒とグレーのライダースーツの姿になっており、上空からライダープレートが出現してそれが複眼のある仮面に刺さると複眼と鎧の部分がマゼンタ色になって士は仮面ライダーデイケイドに変身する。そしてデイケイドはライドブツカーからカードを取り出して腰の銃型の召喚機『デイエンドライバー』を出して差し込み口にカードをスライドしてカードをスライドさせた銃口部分をスライドさせる。

「KAMEN RIDE IXA！」

ディエンドライバーに付いているトリガーを引くと赤、青、緑のシグナルのような残像が現れてそれが重なると白を基調として顔のシルエットが開いている状態のイクサのフォーム『仮面ライダーイクサ・バーストモード』が召喚される。

イクサ・バーストモード

「その命、神に返しなさい！」

イクサ・バーストモードは決め台詞を言うとイクサカリバー・ガンモードをガジェットに乱射する。ディケイドもライドブッカーをソードモードにして近づいてきたガジェットを斬り伏せる。だが、数かしだいに多くなつてきて攻撃を何度も受けたイクサ・バーストモードは消える。

ディケイド

「機械ならこいつらだ！それと、変身……」

ディケイドはディエンドライバーに2枚カードをスライドさせてディケイドライバーにもカードを装填するとディエンドライバーの銃口をスライドさせてすぐにディケイドライバーのバツクルを閉じる。

「KAMEN RIDE G3X・REY！」

「ATTACK RIDE ORE SANJOU！」

電子音が鳴つてディケイドの前に人が作った対アンノウン戦闘用に作られた機械風の仮面ライダー『仮面ライダーG3X』と人工的に作られたがG3Xとは違って機械風じゃないイエティのような仮面ライダー『仮面ライダーレイ』が召喚されてディケイドは電王が変

身する時の音楽が鳴った時、格好がオーラアーマーをまとっていないプラットフォームになってそのあと、ディケイド電王・プラットフォームの周りに赤色のオーラアーマーが装着されて桃のような電仮面が開くとディケイドは電王・ソードフォームに変身する。

ディケイド電王・ソードフォーム

「俺、参上」

ディケイド電王・ソードフォームは2回手を払いながらカードの能力で電王・ソードフォームに変身するイマジンのモモタロスの決め台詞を言う。するとGXはコンバットナイフ『GK-06ユニコーン』を、レイはギガンティック・クローを、ディケイド電王・ソードフォームはライドブッカーソードモードを構えるとガジェットに向かって斬りかかる。

そのころ機動六課の隊員はリニアレールのガジェットを全機破壊してリニアレールの動きを止めたが、士が戦闘している所に新たにガジェットの反応が起きたために一番近いのはとフェイトが現場に向かったが、着いた時にはイエティのような白い身体の人間と人型のようなロボットと赤いアーマーを纏った戦士。レイとG3Xとデイクイド電王・ソードフォームの周りにガジェットの残骸が多く散らばっていて、レイとG3Xはその瞬間に消えてデイクイド電王・ソードフォームは突然倒れてデイクイドの姿になって次の瞬間、士に戻ってしまう。2人は士の姿を見ると士の許に走っていく。

なのは

「士君、大丈夫!？」

士

「その声……なのはか。フェイトも一緒なのか……ッ!」

フェイト

「士!」

士

「あれは………!？」

士が近くを見ると巨大なガジェットドローン『ガジェットドローン3型』が出現する。それを見たのはとフェイトはレイジングハートとバルディッシュを構えて士は痛みをこらえながらデイクイドに変身する。

ディケイド

「2人とも…援護を頼む」

なのは

「でも…」

ディケイド

「頼む。すぐに終わらせて休みたい……」

フェイト

「わかった。なのは！」

なのはとフェイトは魔方陣を展開する。

なのは

「アクセルシューター、シュート!!」

なのはは約20個の魔力弾を放ったがガジェットの機械の身体に穴をあけただけだった。

フェイト

「プラズマランサー、ファイア!!」

フェイトも槍のような魔力弾を放つ。

その隙にディケイドはケータッチのライダークレストを押す。

「KUUGA AGITO RYUKI FAIZ BLADE
HIBIKI KABUTO DEN-O KIVA!」

そしてディケイドのライダークレストを押す。

「FINAL KAMEN RIDE DECADE!」

ディケイドの鎧が分子レベルに分解されて黒と銀を基調としてディケイドクラウンとヒストリーオーナメントを追加した仮面ライダーディケイド・コンプリートフォームにファイナルカメンライドして龍騎のライダークレストをタッチしてFのマークをタッチする。

「RYUKI KAMEN RIDE SURVIVE!」

するとヒストリーオーナメントのクウガからキバのカードが龍騎サバイブのカードに変わるとディケイド・コンプリートフォームの隣に龍騎サバイブが召喚される。ディケイド・コンプリートフォームはライドブッカーから龍騎のファイナルアタックライドカードを取り出して腰のバックルにカードを投げ入れるとバックルを叩く。龍騎サバイブも同じしぐさをする。

「FINAL ATTACK RIDE RYU RYU RYU
RYUKI!」

電子音が鳴るとディケイド・コンプリートフォームと龍騎サバイブは業火に包まれた剣を宙に薙いで炎の刃を発生させてガジェット3型にディケイド・コンプリートフォームと龍騎サバイブの連携必殺技『バーニングセイバー』を放つ。直撃したガジェット3型は爆散して破片が当たりに散らばる。

変身を解いた士はその場に倒れ込む。なのはとフェイトは士に駆け寄る。

なのは

「土君！土君！」

フェイト

「土！」

そこにはやてから通信が入る。

はやて

「なのはちゃん、フェイトちゃん、ガジェットの反応なし！」

なのは

「はやてちゃん、怪我人いるんだけど…」

はやて

「あ…って土君！？」

フェイト

「大怪我だからヘリで機動六課の隊舎まで送らないと」

その数分後、土はヘリで機動六課の隊舎まで行った。

「研究所」

何処かの研究所、次元犯罪者『ジエイル・スカリエッティ』がガジエットを通して先ほどの戦闘を見ていた。そこに通信が入る。

「??？」

「追撃の戦力を送りますか？」

スカリエッティ

「やめておこう。レリックは惜しいが彼女たちのデータが採れただけでも十分さ。それにあの男から聞いたディケイドの能力…別の姿への変身、別個体の召喚か…興味深い。それに…この子たち生きて動いているプロジェクトFの成功例を手に入れるチャンスがあるのだからね」

スカリエッティはモニターに映っているフェイトと赤髪の槍型のデバイスを持った少年とディケイドに変身した士を見ながら言う。

次回予告

なのは

「傷だらけで倒れていた土君を治療室に運んで土君と久しぶりに会う私たち」

士

「だが、この出会いは新たな物語に繋がっていく」

士・なのは

「次回、『世界の破壊者と機動六課』。テイク・オフ、全てを破壊し、全てを繋げ！」

突然の再会（後書き）

次回から本格的なスタートです。次回も楽しみにしててください。

世界の破壊者と機動六課（前書き）

前回までの『魔法少女リリカルなのはStrikers 世界の破壊者の最後の旅』

ディケイド

「機械ならこいつらだ!」

G3X、レイを召喚して自分も電王・ソードフォームに変身してG3X、レイと共闘するディケイド電王・ソードフォーム。

ディケイド

「2人とも、…援護を頼む」

再開したのは、フェイトに助けてもらい、2人と共闘してディケイド・コンプリートフォームになって龍騎サバイブを召喚してバーニングセイバーをガジェットにはなって倒す。

スカリエッティ

「あの男から聞いたディケイドの能力…別の姿への変身、別個体の召喚か…興味深い」

謎の男・スカリエッティはディケイドの姿を見ながら凶器の笑みを浮かべる……………

世界の破壊者と機動六課

機動六課の隊舎の医務室、そこで土は目覚める。

土

「此処…は……？」

???

「やっと起きたのね」

土

「シャ、シャマル！？此処はどこなんだ？」

シャマル

「土君、久しぶりね」

と、土が声が聞こえた方に振り向くとシャマルと呼ばれた女性はここがはやての新部隊『機動六課』の隊舎の医務室で土は任務中に倒れたところを保護されて次元漂流者という名目でこの機動六課に保護されているとシャマルから聞いてそのあとシャマルはすぐにはやて達を呼びに行つて出て行つた。

ふと土は近くに置いてあつたディケイドライバーとライドブッカーを持って損傷がないかを見る。

土

「よかった、破損はないな。ん、なんだこのカードは」

ライドブッカーからカードが出たから土はカードを見るとピンボケ

した3枚のカードを持ちながらつぶやく。とそこになのは、フェイト、はやてが部屋に入ってくる。

士

「よお、久しぶりだな……」

なのは

「それよりなんであんな傷で戦ってたの!？」

士

「え」と……」

フェイト

「あんな傷を負って戦ってたら倒れるにきまつてるじゃない」

士

「すいません……」

士は責められたために謝る。

はやて

「それより士君、なんであんな傷を負ってたんや？」

士

「それは……ライダー大戦の世界で戦争が起きて……」

それから士は3人に傷を負った経緯を話す。

はやて

「なるほど。経緯はわかった。それで士君、次元漂流者扱いになっ

てるけどうちの部隊で保護することになってるんだけど、大丈夫か？」

士

「大体わかった。これから俺はどうすればいいんだ？」

なのは

「協力者として六課の前線メンバーにあいさつしてくれるかな？」

士

「わかった」

4人は機動六課のロビーに向かう。

〈機動六課 ロビー〉

ロビーには機動六課の前線部隊のなのはが率いる『スターズ』のメンバーと思われる青髪のボーイッシュな感じの女『スバル・ナカジマ』とオレンジの髪の女『ティアナ・ランスター』とフェイト率いる『ライトニング』のメンバーの赤髪の少年『エリオ・モンディアル』と桃色の髪の少女『キャロ・ル・ルシエ』と白龍『フリードリ

ヒ』とスターズ部隊の副隊長『ヴィータ』とライトニング部隊の副隊長で士の剣術の師匠『シグナム』がすでにそろっていた。とそこになのは、フェイト、はやて、士がロビーに入ってくる。

はやて

「皆、今日から民間協力者として機動六課で働くことになった門矢士さんです！」

士

「はやて、五月蠅いって。俺は門矢士、通りすがりの仮面ライダーで通りすがりの世界の破壊者だ。知っている奴は師匠とヴィータくらいか。ちなみに俺は魔法は使えないしデバイスも持っていないからな。まあ、よろしくな」

士が自己紹介を終えるとスバル、ティアナ、エリオ、キャラが士に自己紹介をする。

スバル

「あたし、スバル・ナカジマって言います。士さん、よろしく願いします！」

ティアナ

「ティアナ・ランスターです。よろしく願いします」

エリオ

「エリオ・モンディアルと言います。よろしく願いします」

キャラ

「キャラ・ル・ルシエとっています。この子はフリードリヒ、フリードって呼んであげて下さい」

士

「4人ともよろしくな」

士は微笑みながら挨拶をする。次にシグナムとヴィータが話しかけてきた。

士

「師匠、ヴィータ、久しぶりだな」

ヴィータ

「よう。士久しぶりだな」

シグナム

「調子はどうだ？」

士

「大丈夫。それより、手合わせをしてくれないか。久しぶりに師匠と戦いたい」

シグナム

「受けて立とう」

はやても模擬戦をやっていると許可してくれて皆は海に浮かぶ施設に行く。

士

「此処でやるのか？」

フェイト

「違うよ。この場所に戦闘エリアを展開するの」

士

「へえ」

士はフェイトの説明に関心をする。とその間に施設が廃墟が並ぶ街が姿を現す。

シグナム

「士、行くぞ」

士

「おう」

2人は廃墟の真ん中に立つ。シグナムはすでにデバイス『レヴァンティン』をセットアップしている。士はディケイドライバーを取り出すと腰に付けてライドブッカーから1枚カードを取り出して構える。士がディケイドであることを知らないスバル、ティアナ、エリ

オ、キャラは土が何をしているのかがわからなかった。

士

「変身！」

士はバックルにカードを装填してバックルを閉じる。

「K A M E N R I D E D E C A D E !」

電子音が鳴ると土の周りに残像が浮かび上がってライダースーツを構築すると上空からライダープレートが顔に刺さるとライダースーツにマゼンタ色が付いて複眼も緑に変化して士はディケイドに変身してライドブッカードをソードモードにして構える。シグナムもレヴァンティンを構えるとお互いに突進して剣で打ち合う。ディケイドはシグナムの剣撃を受け止めるとライドブッカードからカードを取り出してディエンドライバーにカードをスライドさせて銃口をスライドさせる。ディケイドライバーにもカードを装填してバックルを閉じる。

「A T T A C K R I D E B L A S T !」

「A T T A C K R I D E S L A S H !」

電子音が鳴るとディエンドライバーから『ディエンドブラスト』の効果でビームホーミング弾が無数にシグナムに向かって放たれる。

レヴァンティン

『P R O T E C T I O N 』

レヴァンティンが喋るとシグナムの周りに防壁ができてディエンド

ブラストは防がれるが防壁が消えるとディケイドは素早くシグナムにライドブッカードモードで『ディケイドスラッシュ』でいくつもの刃の残像がシグナムに直撃してダメージを与える。

シグナム

「やるな、士」

ディケイド

「散々師匠にしごかれたからね。剣士には剣士が。変身！」

ディケイドはライドブッカードからブレイドが描かれたカードを取り出すとディケイドライダーに装填してバツクルを閉じる。

「KAMEN RIDE BLADE！」

電子音が鳴るとブレイドに変身する時のメロディが流れてディケイドはディケイドブレイドに変身する。

ディケイドブレイド

「師匠、此処からが本番だぜ！」

シグナム

「ああ！思いつきり来い！」

ディケイドブレイドはライドブッカードモードを、シグナムはレヴァンティンのカートリッジをロードして炎をまとったレヴァンティンを構えるとお互いに斬りかかる。

とある場所」

士

「此処何処だ？」

お、士君！

士

「作者さんか、これなにさ？」

実はコラボ企画をやるうと思って。

士

「なるほど」

じゃあ、あとよろしく。

士

「あ、逃げやがった！あーもう、次回からコラボ企画をしたいと思います。コラボしたい方は感想と一緒に送ってきてください。次回は師匠と俺の模擬戦の続きです」

世界の破壊者と機動六課（後書き）

次回は土の予告通り、模擬戦の続きです。コラボの方も待っています。

謝罪

前回の後書き？でコラボのことを発表したのですが、説明不足でした。すいません。

内容的にはコラボした小説の作品紹介とトークです。

本当に説明不足ですいません。なお、コラボする小説は仮面ライダー、リリカルなのはの小説です。

決着（前書き）

士の設定を追加します。

大シヨツカーの大首領。

と言うことで最後の方に大シヨツカーの幹部が出ます。

それでは始まります。

決着

炎をまとったレヴァンティンを構えたシグナムとライドブッカーソードモードを構えたディケイドブレイド、少しの沈黙の後に2人はその場から走り出してディケイドブレイドは走りながらバックルにカードを入れる。

「ATTACK RIDE SLASH！」

電子音の後、ライドブッカーソードモードの刃の部分が青白く光る。

ディケイドブレイド

「喰らえエエエエッ！！」

シグナム

「紫電…一閃ッ！！」

ディケイドブレイドはアンデッドのスピードスートのカテゴリ2『リザードアンデッド』力をまとった『リザードスラッシュ』を、シグナムは得意技である『紫電一閃』を放つ。だが、互いの剣が防ぎ合っていて直撃はしなかった。

ディケイドブレイド

「流石に当たらなかったか。変身！」

ディケイドブレイドはバックルを開いてカードを装填するとバックルを閉じる。

「KAMEN RIDE NEW DEN-O！」

電子音の後、低音の待機メロディが鳴ってディケイドブレイドの周りに光が集まって電王・プラットフォームとは異なる電王のプラットフォームに変身してオーラアーマーを纏うとデンカメンが複眼のように開くとディケイドブレイドは『ディケイドNEW電王・ストライクフォーム』に変身してさらにバックルにカードを装填してバックルを閉じる。

「ATTACK RIDE MACHE TEDDY！」

すると突然何処からかNEW電王・ストライクフォームが使った銃剣『マチエーテディ』がディケイドNEW電王・ストライクフォームの前に召喚されるとディケイドNEW電王・ストライクフォームはマチエーテディを持ってマチエーテディの銃口をシグナムに向けて銃弾を放つ。だが、シグナムは簡単にかわす。

シグナム

「ふっ、今の攻撃は未熟だな」

ディケイドNEW電王・ストライクフォーム

「当たり前だって、今の攻撃は牽制だしな」

シグナム

「なるほどな」

と言うとお互いの武器を構える。レヴァンティンはカートリッジを口にして連結刃の形態『シュランゲフォルム』に変化する。そしてシグナムはシュランゲフォルムのレヴァンティンを薙ぎ払うようにふるう。ディケイドNEW電王・ストライクフォームはマチエーテ

ディで防ぐが次々に襲ってくる連結刃が直撃して倒れ込む。ディケイドNEW電王・ストライクフォームはマチエーテディを支えにして立ちあがる。そしてライドブッカードをソードモードにしてマチエーテディとライドブッカードを双剣のようにして斬り付ける。ライドブッカードモードはレヴァンティンの鞘に防がれるがマチエーテディでの攻撃はシグナムのバリアジャケットにわずかながら当てた。

ディケイドNEW電王・ストライクフォーム

「師匠、次で終わりだ！」

シグナム

「良いだろう！」

その言葉とともにシグナムはシュランゲフォーム形態のレヴァンティンを通常形態の『シュベルトフォルム』に戻してカートリッジをロードしてレヴァンティンの刀身に炎をまとわせる。ディケイドNEW電王・ストライクフォームはライドブッカードから電王のファインアルタックライドカードを取り出してディケイドライバーに装填してゆつくりとバツクルを閉じる。

「FINAL ATTACK RIDE DE DE DE DE
N・O！」

電子音が鳴るとディケイドNEW電王・ストライクフォームとシグナムは同時に駆けだしてその瞬間、マチエーテディの刃が赤く発光する。

シグナム

「紫電……！」

ディケイドNEW電王・ストライクフォーム

「カウンター……！」

シグナム

「一閃……！」

ディケイドNEW電王・ストライクフォーム

「スラッシュ……！」

シグナムの紫電一閃とディケイドNEW電王・ストライクフォームの必殺技『カウンタースラッシュ』を放つとその瞬間、巨大な爆発が起きる。爆風と煙が消えると立っていたのは

ディケイドNEW電王・ストライクフォームだった。

ディケイドNEW電王・ストライクフォームはディケイドの姿に戻るとディケイドライバーのバックルを開いてディケイドのカメンライドカードを取り出して変身を解除する。そして士はシグナムの許に駆け寄る。

士

「師匠、大丈夫か？」

シグナム

「…大丈夫だ」

と言うとシグナムはバリアジャケットを解除して土と一緒にフィールドを出る。

フィールドから出た土とシグナムは少し話してからシグナムはなのはたちのところに行く。土は近くにあるベンチに腰をおろしてライドブッカーからカードを取り出してピンボケした3枚のカードを取り出して眺めているとスバル、ティアナ、エリオ、キャロ達フィールド陣の4人が土の方に来る。それに気づいた土はぶっきらぼうに「何の用だ?」と言う。

ティアナ

「質問してもよろしいでしょうか？」

士

「まあ、答えられる範囲ならいいけど」

最初にエリオが質問する。

エリオ

「あのカードやバツクルってなんですか？魔法でもないですし」

士

「あれはこの世界でいう質量兵器だろ。カードはこのライドブッカーから無限に取り出せてディケイドライダーとディエンドライダーにカードを装填して効果を発揮するんだ。カードは変身、召喚できるカメンライドカード、攻撃や武器を使うことができるアタックライドカード、フォームチェンジができるフォームライドカード、他の仮面ライダー…俺が変身した奴のようなを変化させるか、その仮面ライダーの最強フォームにフォームチェンジをするファイナルフォームライドカード、必殺技を使うファイナルアタックライドカードがあるな」

次にキヤロが質問する。

キヤロ

「カードを無限に取り出せるってどういうことですか？」

士はキヤロの質問の答えを簡単に説明する。

ティアナ

「その手に握っているカードは何ですか？」

士

「ああ、これはまだ分からない。世界を巡っていてカードのピンボケが治るのは適当だからな……」

とティアナの質問に答えながらカードに書いてある英語を目に通す。

士

「（なのはって書いてある。仮面ライダーじゃないのに……まあいつか）これ以上質問がないなら行ってもいいか？なのはたちに聞きたいことがあるし」

と言うと士はその場を後にする。ティアナは士を見て何かを思う……

……

そのころ士ははやてに呼ばれて部隊長室に来た。部屋にははやてのほかになのは、フェイト、はやてのユニゾンデバイス『リインフォース2（ツヴァイ）』、機動六課のメカニック『シャリオ・フィニール』が居た。

士

「リイン、久しぶりだな！」

リイン

「はい。士さん、お久しぶりです」

士とリインは久しぶりに再会をする。そこにフェイトが話に割り込む。

フェイト

「士、リインと再会できてうれしいのはわかるけどまずははやての話を聞きなさい」

士はとりあえず逆らったらヤバいと思いフェイトの言う通りにする。

なのは

「にやはは、フェイトちゃん……」

なのははその時フェイトから黒いオーラを感じたという……

はやて

「じゃあ土君、フォワード陣の訓練を手伝ってほしいんやけど、ええか？」

土

「ああ、構わないぜ」

はやて

「なら正式に機動六課に民間協力者として保護する形になってるんだけど、IDカードを発行せなあかん…「IDカードならあるぞ」え！？」

土ははやてが喋り終わる前にポケットからIDカードを取り出す。持っている理由はこの世界に来た時にポケットに入っていたらしい。

はやて

「ならその話は終わりや。それと紹介したい人があるんや。シャーリー、土君に自己紹介を頼むわ」

シャーリー

「機動六課メカニックのシャリオ・フィニーノです。皆からはシャーリーって呼ばれてるのでそう呼んでください」

土

「シャーリー、よろしくな。俺は門矢士だ」

その後、土はシャーリーにディケイドライバー、ディエンドライバー、ライドブッカー、ケータッチを調べられそうになったとか。

そのあと、土はなのはとフェイトに部屋に案内されて疲れが出たのか、すぐにベッドに入って寝た。

士が、目覚めると目の前に歪みが現れてその歪みから士の部下である地獄大使が現れる。

地獄大使

「大首領、衛宮士郎を保護しました」

士

「本当なのか!？」

地獄大使

「はい。しかし怪我が激しくてまだ目覚めませんが命に別条はありません」

士

「良かった……………!」

士は仲間が無事に生きていてホッとした。

地獄大使

「それと鳴滝がこの世界に居ます」

士

「何だつて!？」

ホッとした後に告げられた真実に驚きを隠せない士。

地獄大使

「これから調査を行うので追って情報を伝えます」

士

「頼む」

会話が終わると地獄大使は歪みとともに消えて士はすぐに寝る。

決着（後書き）

今回出た地獄大使は映画で出た地獄大使とは別の人物です。

コラボも待ってます。詳しくは前話で。

土のある日の休日（前書き）

投稿遅れてすいません！遅れた理由はおととい熱を出してしまって執筆ができなかったので遅れました。

とりあえず、本編始まります。

士のある日の休日

士は辺りを散歩しているとフォワード陣の訓練を見ているシグナムが見えたので、士はシグナムに話しかける。

士

「師匠、何やってるんだ？」

シグナム

「士か。見てわかるだろう、フォワードたちの訓練を見ている」

士

「大体そうだな。そういえば師匠は訓練に参加しないのか？」

シグナム

「私は古い騎士だからな。スバルやエリオのようにミッド式と混じった近代ベルカ式とは勝手が違うし、剣を振るうしかない私がバックス型のティアナやキャロ教えられるようなこともないしな。ま、それ以前に私は人にものを教えるという柄ではない。戦法など『届く距離まで近づいて斬れ』くらいしか言えん」

士

「ははは………すげー奥義ではあるんだけどな」

すると士は訓練場に足を運ぼうとする。

シグナム

「士、何処に行くんだ？」

士

「ああ、訓練場にね。試したいことがあるからな」

と言って士は訓練場に行く。

く訓練場く

なのは

「はい、訓練終了」

フォワード陣の4人はなのはの号令の後疲れたのか、その場にすぐに座る。

なのは

「はいお疲れ。個別スキルに入るとちょっとキツイでしょ」

ティアナ

「ちょっと…というか…」

エリオ

「その…かなり」

と元氣のない声でなのはの問いにティアナとエリオが答える。

ヴィータ

「フェイト隊長は忙しいからそうしょっちゅう付き合えねえけど、あたしは当然お前らに付き合ってやるからな」

スバル

「あ…ありがとうございます……」

ヴィータの少し脅したような発言にスバルは大変だなと思いながら返事をする。

フェイト

「それからライトニングの2人は特にだけど、スターズの2人もまだ身体が成長してる途中なんだからくれぐれも無茶はしないようにね」

フォワード陣

「はい」

フェイトのアドバイスにフォワード陣の4人は答える。

そこに士が来る。

士

「訓練は終わったか？」

ヴィータ

「士。とつくに終わっ たぜ」

士

「なら此処使わせてもらっ ぜ」

と士が言つとディエンドライバーを取り出してカードを1枚スライ
ドをすると銃口もスライドする。

「K A M E N R I D E」

電子音が鳴ると士はディエンドライバーを上空に向ける。

士

「変身」

「D I - E N D !」

そしてディエンドライバーのトリガーを引くと上空に無数のディケ
イドとは異なるシアン色のライダープレートが現れて緑、赤、青の
残像が士に重なつてその瞬間に上空からライダープレートが顔に刺
さつてライダースーツがシアン色に染まると士は『仮面ライダーデ
イエンド』に変身する。

フェイト

「じゃあ、私たちは行つてゐるね」

ディエンド

「ああ。じゃあ、こいつでいいや」

フォワード陣の4人となのは、フェイト、ヴィータが訓練場から出

ていくと呟いてディエンドはディエンドライダーにカードをスライ
ドさせてトリガーを引く。

「KAMEN RIDE DEN・O！」

先ほどディエンドが変身したように残像が現れると赤いデンカメン、
赤いオーラアーマーを纏った唯一、自我があるディエンドに召喚さ
れた『仮面ライダー電王・ソードフォーム』が召喚される。

電王・ソードフォーム

「俺、参じよ……」

「FORM RIDE DEN・O GUN！」

電王・ソードフォームが決め台詞を言う前にディエンドがディエン
ドライダーのトリガーを引いて電王・ソードフォームに光の弾が当
たるとオーラアーマーがドラゴンジェムが追加されて電王・ソード
フォームとは異なる紫色のオーラアーマーが装着されてデンカメン
が龍を模したのに代わって電王・ソードフォームは『仮面ライダー
電王・ガンフォーム』にフォームチェンジをする。

電王・ガンフォーム

「お前、倒してもいいよね？答えは聞いてない！……って誰もいない
よー！……」

電王・ガンフォームがそんなことを言っているとディエンドは変身を
解いて士の姿に戻る。

士

「とりあえずは成功だな」

と言うと士は機動六課の隊舎に向かってディエンドライバーを持ちながら歩いていく。

士は隊舎に着くと近くの壁によっかかっているとスバルが近付いてきた。

士

「お、スバルか」

スバル

「士さん、お昼まだ食べてませんよね？」

士

「ああ」

スバル

「なら一緒に食べましょう！」

と士はスバルに無理矢理食堂へ連れてかれる。その時士は「女の癖にバカ力…」と思ったとか。

士はスバルに無理矢理食堂に連行されてティアナ、エリオ、キャロが居る席に連れてかれるとそのテーブルの中央にはありえないくらい山の盛りパスタにサラダ、ジュースが置かれていた。士は山の盛りパスタを見ると驚く。

士

「いくらなんでも……この量は多すぎだろ……」

と言っしかなかった。

スバル

「皆、士さんを連れてきたよ！エリオ、士さんの分やってくれる？」

エリオ

「はい。……どうぞ」

士

「エリオ、ありがとな」

士はエリオに礼を言うと席に座ってパスタを食べる。ふとフオワードたちを見るとスバルとエリオの食事に声が出なかった。多めに持ったパスタをすぐに食べておかわりしてという繰り返しにさっきより驚く。ティアナとキャラは2人の食事の量を見慣れたようにあまり驚かずに食べる。

士

「な、なあティアナとキャラ、スバルとエリオの食事っていつもこうなのか…？」

ティアナ

「だいたいそうですね」

キャラ

「最初に見た時は結構驚きましたよ。始めに見ると流石に驚かない人はいないですね」

ティアナとキャラは士の問いに答える。少し経つと話す話題が出てきて出身地の話になった。

ティアナ

「そう言えばうちの部隊って関係者つながりが多いですね。隊長たちも幼馴染だったんですよね」

士

「そうだな。なのは、フェイト、はやて、師匠たちヴォルケンリッターは昔から仲がいいしな。あの時は楽しかったな」

キャラ

「士さんも隊長たちと知り合いなんですか？」

士

「ああ。俺がいろいろな世界：お前たちでいう管理外世界97番地球の平行ワールド：並行世界を旅していたときに知り合って俺が高校生くらいの時にあいつらと別れてそのままなんだよな」

エリオ

「あの、旅の話聞かせてもらってもよろしいでしょうか？」

士

「いいぜ。最初は……」

そのあと、士は異世界を巡ってクウガの世界の衛宮士朗、キバの世界のアレン・ウォーカー、龍騎の世界の辰巳真、ブレイドの世界の長瀬準一、ファイズの世界の坂井悠二、アギトの世界のアーチャー、電王の世界のモモタロス、カブトの世界のシャオラン、響鬼の世界の沢田綱吉たちと共闘したり、ネガの世界でコンプリートフォームになったりディエンドの世界で14（フォーティーン）を倒したりRX、ブラックの世界で南光太郎と大ショッカーに立ち向かったりアマゾンの世界のアマゾンとある少年の心を救ったりなのはA'sの世界でなのはたちと一緒に遊んだり戦ったりとそんなことを話した。流石に自分の世界と今のことで大ショッカーのこと、ライダー大戦の世界で仲間を傷つけたり多くの命を奪ったということは話さなかった。

士

「で、今はこの世界に来てるんだ」

そこで士の話は終わる。

スバル

「そう言えば地球ってうちのお父さんのご先祖様のいた世界なんだよね」

エリオ

「そうなんですか？」

キャロ

「そういえば土さんや八神部隊長達の名前と名前の響きが似てますね」

そのあと、土とスバルはエリオとキャロの出身地を聞く。

土

「エリオはどこ出身なんだ？」

スバル

「それも気になる！」

エリオ

「僕は本局育ちなんです」

スバル

「管理局の本局？」

エリオ

「はい、管理局の特別保護施設で8歳までそこに居ました」

今のエリオの発言で質問した土とスバルは申し訳なさそうな顔をす

る。

スバル

「エリオ、ごめん……」

士

「悪い… エリオ」

エリオ

「あの、2人とも気にしないでください。優しくしてもらってましたし全然普通に、幸せに暮らしてたんで」

士

「ま、お前がそれでいいならいいだろ」

エリオ

「士さん…」

士は皿のパスタをすぐに食べ終わると立ち上がる。

士

「あ、そうだ。4人とも、俺のことは呼び捨てでいいよ。敬語で話されるのって苦手だからさ。呼び方も何でもいいぜ」

エリオ

「なら僕は兄さんって呼ばせてもらつよ」

キャロ

「私も兄さんって呼ぶね」

スバル

「士兄いつて呼ぶよ」

ティアナ

「私はこのままで」

士

「オッケー。じゃあ、またな」

と士は食堂を出る。

エリオ

「兄さんっていい人ですね」

スバル

「普通に接してくれるしね」

キャロ

「それに優しいです」

ティアナ

「でも、あの人なんでこんなところに…魔力も持っていないし戦闘したところはあまり見たことないし。何者かしら…」

とティアナだけは士のことを快く思っていない。

士は部屋に戻ると部屋に歪みが現れて地獄大使が歪みから出現する。

地獄大使

「大首領！大変です！」

士

「どうした！地獄大使、落ち着け」

士は焦る地獄大使を落ち着かせる。地獄大使は落ち着くと士に用件を伝える。

地獄大使

「鳴滝が配下のライダーを使ってラボを壊して試作品型のディエンドライバーを盗まりました……すいません」

士

「大丈夫だ。あまり落ち込むな。あまり深追いもやめておいたほうがいいしな」

地獄大使

「それと鳴滝は次元犯罪者のジェイル・スカリエツティと結託しているようです」

士

「そうか」

そのあと、地獄大使は歪みに入って大ショッカー本部に戻る。

士

「試作品とはいえ、あれはカイジンライドがあるからな…用心しておくか」

そのあと士はシャーリーにディケイドライダー、ライドブッカー、ケータツチ、ディエンドライダー、カードホルダーを調べられてしまったとか。

次回予告

士

「試作品のディエンドライダーを奪われてしまい、敵の手に渡ってしまった。そして機動六課の新たな任務でそれを使われることに……次回、『ホテル・アグスタ』。テイク・オフ、全てを破壊し、全てを繋げ！」

ホテル・アゲスタ（前書き）

やっと投稿です。それではどうぞ。

ホテル・アグスタ

士が機動六課に来て1週間がたつその日、ホテル・アグスタでの任務が入って隊長たちとフォワード陣、シャルとザフィーラとともにヘリで目的地に向かっていく途中、はやてが今回の任務について説明を始める。

はやて

「ほんなら改めて、此処までの流れと今日の任務のおさらいや。これまで謎やったガジェット・ドローンの製作者およびリックの収集者は現状ではこの男」

とはやてが一旦喋るのをやめるとモニターの画面に紫の髪に金色の目をした男が映し出された。

はやて

「違法研究で広域指名手配されている次元犯罪者、『ジェイル・スカリエッティ』の線を中心に捜査を進める」

はやてが言い終わると次にフェイトが説明をする。

フェイト

「こつちの調査は主に私が進めるんだけど、皆も一応憶えておいてね」

スバル・ティアナ・エリオ・キャロ

「はい！」「」

フェイトからも説明が終わるとラインがモニターの前に出る。その

時、モニターもスカリエッティからホテルのような場所に画面が切り替わる。

リン

「今日これから向かう先はここ、ホテル・アグスタ」

なのは

「骨董美術オークションの会場警備と住人警護それが今日のお仕事ね」

とリンの後になのはも説明を加える。

リン

「取引許可の出ているロストロギア等もいくつか出品されるので、その反応をレリックと誤認したガジェットが出てきちゃう可能性が高いということで私たちが警備に呼ばれたですう」

リンが話し終わったあと、大まかな説明を隊舎に居た時に説明を聞いていた士も話し始める。

士

「この手の大型オークションだと密輸取引の隠れ蓑になったりするからな、色々と油断は禁物だぜ。それと現場には昨夜から師匠……シグナム副隊長とヴィータ副隊長のほか、数名の隊員が俺たちより一足早く現場に着いた」

なのは

「私たちと士君は建物の警備に回るから、前線メンバーは副隊長たちの指示に従ってね」

スバル・ティアナ・エリオ・キャロ

「はい！」「」

士の説明の後、なのはもフォワード陣の4人に役割を言うと4人は返事をする。ふとエリオはシャルルの座っている近くに4つも箱があるのに気付いて質問する。

エリオ

「シャルル先生、その4つの箱はいったい何ですか？」

シャルル

「ああ、これ？隊長たちと士君のお仕事着よ」

シャルルはエリオの問いに笑いながら答える。

士

「って、俺も着るのかよ！………なんでさ」

と士は某正義の味方を目指す奴のように呟く。

ホテル・アグスタに着いてフォワード陣とザフィーラ、シャマルは外の警備を始める。士、なのは、フェイト、はやてはケースの服に着替える。その間に通信用としてもらった小型通信機を耳に付ける。士は着替え終わるとホテル・アグスタの入り口近くで待っている。すぐに3人が来る。士の服装はディケイド本編のライダー大戦で来ていたような燕尾服、3人はドレスという格好だった。

士

「よう」

はやて

「よう、じゃないわ！どうや、この格好」

士

「皆にあつてるぜ。綺麗だしな…！／／／」

と士は顔を赤らめながら言う。なのは、フェイト、はやての3人は綺麗だと言われたから士のように顔を赤くしながら

なのは

「にやはは、ありがとう士君／／／」

フェイト

「士、ありがとう／／／」

はやて

「士君、ありがとうな／／／」

と士に感謝をする。すぐに歩き始めるが、フェイトがバランスを崩

して倒れそうになるが、士がとつさにフェイトを抱きかかえる。

士

「大丈夫か？」

フェイト

「…うん／＼／」

フェイトは抱きかかえられたという理由からまた顔を赤く染める。

士

（なんだ……この殺気は……？）

士は後ろを振り返るとドス黒い殺気^{オーラ}を放っていたのはとはやてに威圧だけで殺されそうになったとか（笑）

そのころ、ホテル・アグスタ付近の郊外にある森でローブのようなものを羽織っている男性『ゼスト・グランガイツ』と隣にいる紫の髪にキャラのデバイスのケリュケイオンと同型のデバイスを持った

少女『ルーテシア・アルピーノ』が話していた。

ゼスト

「あそこか……お前の探し物は……此処にはないのだろうか？」

ルーテシア

「……………」

ルーテシアはゼストの問いには答えずにただ、ゼストのローブの裾を握っているだけだった。

ゼスト

「何か気になるのか」

ゼストの問いにルーテシアは黙ってうなづく。そこに昆虫が飛ぶ音になる。ルーテシアが人差し指を出すとそこに止まったのは機械昆虫のようなものだった。

ルーテシア

「……ドクターの玩具が、近づいてきてるって……」

それから少し経ってシャマルのデバイスのクラーヴイントが何かに反応する。反応の正体はガジェット・ドローンの群れだった。

シャマル

「クラールヴィントのセンサーに反応……………シャーリー！」

シャーリー

『はい！着ました、陸戦型ガジェット・ドローン1型35機！陸戦型ガジェット・ドローン3型4機です！』

そのことを聞いたシグナム、ヴィータ、ザフィーラ、スバル、ティアナ、エリオ、キャロはそれぞれ副隊長の指示に従って行動を始める。シャマルは現場の指揮を務めることになった。そのころ士もヴィータから通信をもらって3人と別れるとディエンドライバー（ちなみにディケイドライバーは自室に忘れてきた）を取り出して腰のホルスターにしまうと急いで現場に向かう。

士

「あの光は師匠とヴィータ！？何か嫌な予感がするぜ…もしかしたら！チツ！ヤバいな……………」

士はすぐに現場に急行した。

士が現場に向かうとすでにシグナムとヴィータがガジェット・ドロ

ーンをそれぞれ破壊していた。だが、それでも数はあまり減らない。士はディエンドのカメンライドカードを取り出すとディエンドライダーに急いでスライドする。

「KAMEN RIDE」

士

「師匠！ヴィータ！加勢するぞ。変身っ！」

「DI-END！」

ディエンドライダーをガジェット・ドローンに向けてトリガーを引くと飛び出したライダープレートに当たって数機が爆発する。それと同時に3色の人間の残像のようなシグナルが士に重なってライダープレートが顔にくっつく。士はディエンドに変身する。そしてすぐさまディエンドライダーをガジェット・ドローンに向けて引き金を引いて何機も破壊する。

「ATTACK RIDE BLAST！」

さらにはブラストのカードを使ってホーミング光弾を発射する『ディエンドブラスト』を発動して無数の光の弾がガジェット・ドローンに向けて放たれて光弾がガジェット・ドローンの体を貫通すると無数の爆発が起こる。

ヴィータ

「士か！よし、行くぞアイゼン！」

ヴィータは足元に赤い古代ベルカ式の魔方陣を展開させて鉄球を8個出現させると鉄球をハンマー形のデバイス『グラーファイゼン』

で弾く。

ヴィータ

「ぶち抜けえええ!!」

シュワルツフリーゲンを発動させて光を纏った鉄球が正確にガジェット・ドローンに直撃して爆発をする。

多くの爆発でできた煙幕で視界が悪くなってガジェット・ドローンは3人の姿が見えなくなり、シグナムはその隙について白い古代ベルカ式の魔方陣を展開する。

シグナム

「あいつらもやるな……レヴァンティン！」

レヴァンティン

『EXPLOSION!』

レヴァンティンの音声の後、レヴァンティンのカートリッジをロードする。そして炎を刀身に纏わせたレヴァンティンを鞘から引き抜いてガジェット・ドローンに向ける。ガジェット・ドローンがシグナムを見つけて触手で攻撃しようとするが、ジャンプしてかわされてしまう。

シグナム

「紫電……………一閃ッ!!」

シグナムはガジェット・ドローンに向けて一気にレヴァンティンを振り下ろして、触手ごと破壊する。

そのころ、ゼストとルーテシアはガジェットの戦闘を見ているとスカリエッティから通信が入る。

スカリエッティ

『ごきげんよう、騎士ゼスト、ルーテシア』

ルーテシア

「ごきげんよう……」

ゼスト

「何のようだ……？」

ルーテシアはスカリエッティにあいさつをして、ゼストは警戒するように喋る。

スカリエッティ

『冷たいねえ。近くで状況を見ているんだろう？あのホテルにレリックは無さそうなんだが、実験材料として興味深い骨董が1つある』

んだ。少し協力してはくれないかね？君たちなら実に造作もないこののはずなんだが？」

ゼスト

「断る。レリックが絡まぬ限り、互いに不可侵を守ると決めたはずだ」

とゼストは断言する。

スカリエツティ

『ルーテシアはどうだい？頼まれてはくれないか？』

スカリエツティは次にルーテシアに聞く。

ルーテシア

「…いいよ」

と、ルーテシアは無表情のままで告げる。

スカリエツティ

『優しいなあ。ありがとう。今度お茶とお菓子でも奢らせてくれ。』

君のデバイス……アスクレピオスに私の欲しい物のデータを送ったよ……』

ルーテシア

「うん。ドクター」

スカリエツティ

『何かな？』

スカリエッティがルーテシアに質問すると彼女は土の所持している
ディエンドライバーより少し小さいサイズの同機の銃である『試作
品型ディエンドライバー』を取り出す。

ルーテシア

「これ……使ってもいい？」

スカリエッティ

『ああ。丁度戦闘データが欲しかったしね』

とスカリエッティが言い終わると通信が切れる。

2人のディエンド（前書き）

今回は試作ディエンドの登場です。

2人のディエンド

ディエンド

「いきなり戦い方が変わった!？」

さきほど、ディエンドが銃撃を放ったがまるで人が操作しているようにいとも簡単に防がれてしまう。

シグナム

「有人操作に切り替えたか。ヴィータ、士、新人たちの方に敵が回りこむ可能性がある。そっちに行け」

ヴィータ

「わかった」

ディエンド

「了解!」

ディエンドはマシンディケイダーに乗って、ヴィータは飛行してフォワードたちの方に向かう。

そのころ、フォワード陣の4人はシャマルの指示のもと、ガジェットに攻撃をしていた。そこに紫のミッドチルダ式でもベルカ式でも

ない魔方阵がいくつも出現してそこからガジェットの援軍が召喚される。

エリオ

「あれって…召喚魔方阵!？」

エリオが驚く。

スバル

「召喚ってこんなこともできるの!？」

キャラ

「すぐれた召喚師は転送魔法のエキスパートでもあるんです」

とスバルの問いにキャラが冷静に答える。ティアナはクロスミラージュを構えながら指示を出す。

ティアナ

「何でもいいわ……迎撃行くわよ!」

エリオ、キャラ、スバルはそれに答える。

ティアナ

（今までと同じだ。……証明すればいい。自分の能力と勇気を証明して……私はそれで…何時だってやってきた）

ティアナはそう思いながらクロスミラージュをガジェットに向けて構える。すると足元にミッドチルダ式の魔方阵を展開させる。

そのころ変身を解いた士はマシンディケイダーでフォワード陣の方に行こうとすると忍者のような人型の召喚獣がディエンドライバーを持っているのを確認する。

士

「てめえ！ディエンドライバーは返してもらっぞ！変身！」

「KAMEN RIDE DI-END！」

士はディエンドライバーにカードをスライドさせて銃口をポンプアクションの要領でスライドさせてディエンドライバーの引き金を引くとディエンドに変身する。それを見た召喚獣『ガリユー』は呻き声を上げながらカードを試作品ディエンドライバーにスライドさせてディエンドライバーの銃口をスライドさせる。

「KAMEN RIDE」

ガリユー

「変……身……」

「DI-END」

低音で電子音が鳴ると目の前に異形の姿があった。それはガリユーがディエンドに変身した姿だった。

ディエンド

「くっ、とつとと終わらせてやる！」

そう言うとき、ディエンドはカードをディエンドライバーに装填する。
ガリユー・ディエンド変身体も同じようにカードをディエンドライバーにスライドさせる。

「ATTACK RIDE BLAST！」

「カイジンライド オウルオルフェノク」

電子音が鳴るとガリユー・ディエンド変身体の前にオウルオルフェノクが召喚される。それと同時にディエンドはディエンドブラストを2体に向けて発砲する。しかし、ガリユー・ディエンド変身体はオウルオルフェノクで自分の身を守る。

ディエンドはさらにカードを取り出す。カードはファイナルアタックライドのカードだった。それをディエンドライバーにスライドさせる。

「FINAL ATTACK RIDE D I D I D I
- END！」

電子音が鳴るとディエンドの前に無数の3Dカードがガリユー・ディエンド変身体に向けられるとディエンドはそれをエネルギーに変換させてディエンドライバーのトリガーを引いてファイナルアタックライド『ディメンジョンシフト』放ってその場所が爆発する。そこにはガリユー・ディエンド変身体はいなかった。

ディエンド

「無駄な時間食っちゃった。急がないとな……」

そう言うとディエンドはマシンディケイダーに乗って走り出す。

ティアナはガジェットに向かって魔力弾を放つが有人操作のために簡単に避けられてしまう。

ティアナ

「クッ……………」

その隙に大型ガジェットがティアナにミサイルを撃つ。とっさにティアナは魔力弾をミサイルに放って破壊するが、1つだけ撃ちそこなってしまう。だが、ティアナに当たる寸前で駆け付けたディエンドがディエンドライバーでミサイルを発砲して破壊する。

ディエンド

「ティアナ、大丈夫か！」

ティアナ

「土さん！？…はい、大丈夫です」

2人のやり取りが終わるとその場にいる5人は協力して正確にガジェットを破壊する。そこにシャルルから通信が入る。

シャルル

『防衛ライン、もう少し持ちこたえてね。ヴィータ副隊長がすぐに

戻ってくるから!」

ディエンド

「了解」

ディエンドはそれだけ言うとディエンドライダーにカードを2枚スライドさせる。

「K A M E N R I D E K U U G A !」

「F I N A L F O R M R I D E k u k u k u K U U G A !」

ディエンドライダーの引き金を引くとクウガが召喚される。

ディエンド

「痛みは……一瞬だ!」

い目ザリフト同時にディエンドはクウガに発砲すると、クウガが変形してクウガのサポートメカのゴウラムを模した『クウガゴウラム』に変形させるとクウガゴウラムはガジェットに突進する。

ティアナ

「守ってばかりじゃ行き詰ります!ちゃんと全機落とします!」

シャマル

『ちよつとティアナ!?!』

ディエンド

「無茶するなよ!」

ティアナ

「大丈夫です」

ティアナはそういうとエリオとキャロを引かせるとスバルに指示を出す。

ティアナ

「スバル、クロスシフトA！行くわよ！」

スバル

「おうっ！」

スバルはウイングロードで空中を行き来しながらガジェットたちをひきつける。

ティアナ

（証明するんだ）

ティアナは足元に魔方阵を展開してクロスミラージュのカートリッジを4つロードする。足元の魔方阵は強く光る。するとティアナの周りに魔力弾が何個も生成される。

ティアナ

「私は……ランスターの弾丸はちゃんと敵を撃ち抜けるんだって！」

カートリッジを4つロードしたところを見たディエンドはティアナに叫ぶ。

ディエンド

「（これじゃああの時のなのはみたいになんて時は……）ティアナ、無駄すぎだ！しかもカートリッジを4つもロードするなんて体に負担がかかるぞ！！お前もクロスミラーージュも……！」

ティアナ

「撃てます！」

クロスミラーージュ

『yes』

クロスミラーージュから電子音が鳴るとティアナは2丁のクロスミラーージュを構える。

ティアナ

「クロスファイアー……シュート！！」

ティアナの叫びとともにいくつもの魔力弾がガジェットに向かって行きガジェットを貫いて爆散させて自身もクロスミラーージュで魔力弾をガジェットに放つ。しかし、コントロールが利かなくなった魔力弾がまっすぐにティアナの方に向かって行く。近くまで来ていたヴィータもそれを見るが間に合わずにスバルに当たる……

ディエンド

「クウガゴウラム！」

ディエンドがクウガゴウラムに指令を出すとスバルの目の前に立ちふさがって堅い鎧で魔力弾を弾くがそこでクウガゴウラムは消える。弾き飛ばした魔力弾はディエンドが撃ち抜く。そこにヴィータが来る。

スバル

「ヴィータ副隊長！」

ヴィータ

「ティアナこの馬鹿野郎！士、防いでくれて悪いな」

デイエンド

「それくらいは別にいいさ。ティアナ、あれはあぶねえぞ！！俺が気づかないでクウガゴウラムに指示を出して無けりゃスバルに直撃してたぞ！」

ヴィータ

「無茶やった上に、味方まで撃つてどうすんだよ！！」

ヴィータとデイエンドはティアナに激しく怒鳴る。ティアナは啞然とする。

スバル

「あの……ヴィータ副隊長、今のもその……コンビネーションのうちで……」

ヴィータ

「ふざける、タコ……！直撃コースだよ今は！」

スバル

「違うんです！今のは私がうまくやらなかったから……」

ヴィータ

「うるせえバカども！」

スバルはティアナのミスを必死で弁解しようとするがヴィータは何にも聞こうとしない。

ディエンド

「もういいよ。あとは俺だけでやる。ティアナ、スバル、お前らまとめて…すっ込んでろ!!」

そう言うディエンドはカードホルダーからカードを取り出してディエンドライバーにスライドさせる。

「FINAL ATTACK RIDE di di di DI
- END!」

電子音が鳴るとディエンドの前に3dカードが出現するとディエンドライバーをその中心で構えてトリガーを引いて必殺技『ディメンジョンシユート』を放つとガジェットは一気に全滅した。それを見たティアナは圧倒的なディエンドの力にただ見ているしかなかった。

そのあと、変身を解いた士はオークション会場内に入った。そこに考古学者が紹介されたその人物は……

士・なのは・フェイト

「「「え!?!」」」

なのは

「あ、ユーノ君」

士

「なんでユーノが!？」

と驚く士であつた。

2人のディエンド（後書き）

今回のサブタイトルに反してあまりガリユーディエンドが活躍して
ない……

次回もお楽しみに。

ティアナの過去（前書き）

今回は短いです。

ティアナの過去

ホテル・アグスタによる事件の処理の後、士はマシンディケイダーで、六課のメンバーはヘリで機動六課の隊舎に戻る。

「機動六課 隊舎」

フォワード陣はなのはとフェイトに集合を掛けられて士はそれを見る。

なのは

「皆お疲れ様。じゃあ、今日の午後の訓練はお休みね」

フェイト

「ちゃんと身体を休めて明日に備えてね」

ティアナ・スバル・エリオ・キャロ

「……はい!」「……」

そのあと解散してそれぞれ分かれる。士たち3人は隊舎に戻って食堂に行こうとするとヴィータに声をかけられる。

ヴィータ

「ちよつと良いか?」

何か話があるようでシグナム、シャーリーも一緒に休憩室で用件を言う。

ヴィータ

「訓練中から時々気になってたんだよ。ティアナのこと。強くなりたいと思うのは若い魔導師だし、無茶も多少はするけど時々ちょっと度を超えてる」

士

「今日のミスも何か原因がありそうだしな。あいつ、此处に来る前に何かあったのか？」

士は話し終わるとなのはにティアナの経歴を問う。なのはは暗い表情を浮かべながらモニター画面に局員のプロフィールを出すとティアナの過去を話します。

なのは

「ティアナのお兄さん……『ティード・ランスター』。当時の階級は一等空尉。所属は首都航空体。享年21歳……」

士

「結構なエリートだったのか」

フェイト

「そう、エリートだったから……なんだよね。ティード一等空尉が無くなった時の任務……逃走中の違法魔導師に傷を負わせたんだけど取り逃がしちゃって」

なのは

「まあ、地上の陸士部隊に協力を仰いだおかげで、犯人はその日の

うちの取り押さえられたそうなんだけど……」

フェイト

「その件についてね、心無い上司がちょっと酷いコメントをしてね…… 一時期問題になったんだけど……」

ヴィータ

「コメントって…なんて？」

なのは

「犯人を追いつめながらも取り逃がすなんて、死んでも捕まえるべきだったってね……」

士

「役立たずでいても無意味とかか？」

なのは

「うん…… ティアナはまだその時10歳、たった1人の肉親を亡くしてしかもその最後の仕事が無意味で役に立たなかったって言われて…… きっとものすごく傷ついて、悲しんで……」

ヴィータ

「だからティアナは……」

士

「証明したかっただけなのかも… 兄が教えてくれた魔法は役立たずじゃないって…… そういうことが」

フェイト

「うん。お兄さんの残された夢… 執務官になるっていう夢をティア

ナはお兄さんの代わりにやろうとしてるのかもしれない……」

士

「大体わかった。じゃあこの話は終わりだ」

そう言うと士は外に出る。

1人自主訓練をしていたティアナは4時間以上もやっているから疲れが出たのか、倒れてしまう。

士

「お前：こんなところでまだやってるのか」

ヴァイス

「もう4時間もやってるんだぜ、いい加減倒れるぞ」

士とヘリパイロットのヴァイス陸曹がティアナに声をかける。

ティアナ

「士さん……ヴァイス陸曹……見てたんですか？」

士

「ああ。途中からだ。ヴァイスは結構見てたようだがな。ヴァイス、ヘリの整備の途中なんだろ？行けよ」

ヴァイス

「じゃあ、お言葉に甘えて」

そう言うヴァイスはその場を去る。

士

「やりすぎで癖がついちまうぞ。なのはたちに4年くらい前に言われたしな」

ティアナ

「私は貴方とは違ってただの凡人なんです。だからこうしてでも強くないと……」

士

「お前は兄の夢をかなえたらどうするつもりだ？そんなことをしても意味はない」

ティアナは士の言葉に怒りを覚える。

ティアナ

「あんたみたいな強いやつに何がわかるのよ！」

士

「わからないさ。俺は何もわからないから……だから破壊するんだ……！」

士は辺りの木を思い切り殴るとその木は一部分だが碎かれる。それを見たティアナは驚く。

ティアナ

「あんた…何者!？」

士

「…通りすがりの世界の破壊者、仮面ライダーディケイドだ。覚えておけ…!」

それだけ言つと士はその場を立ち去る。士の背中をティアナはずつと睨んでいた。

それから数日、士はティアナと彼女の訓練に付き合つてゐるスバルの姿が見える。

士

「あいつら……結局は力でわからせてやるしかないか」

そう呟くと士はコンプリートカードのようなライダーカードを見る。

次の日、なのはとの模擬戦が行われることになった。そこに士も見

学する。

なのは

「2人とも、バリアジャケットを展開して」

ティアナとスバルはバリアジャケットに身を包む。そして模擬戦がスタートする。

願い、思いの衝突（前書き）

今回は魔王降臨の話です。

ディケイドも活躍します。

願い、思いの衝突

ティアナとスバルはクロスシフトで戦闘をする。

ティアナの周りには無数の魔力弾が生成される。

ティアナ

「クロスファイアー……シュート!!」

オレンジの魔力弾がなのはに向かって行く。その魔力弾はコントロールは良いが、キレがない。なのはは簡単に魔力弾を避ける。飛んでいくとウィングロードが現れてそこからスバルがりボルバーナツクルを構えてくる。なのはは桜色の4つの魔力弾を辺りに生成する。

なのは

「フェイクじゃない…本物!？」

なのはは一瞬スバルがフェイクだと思ったが、本物だとわかって驚き、魔力弾をスバルに向けて放つ。スバルはバリアを展開して魔力弾の攻撃を防ぐとジャンプしてリボルバーナツクルでなのはに殴りかかる。

スバル

「うおおおおおおっ!!」

しかし、スバルの攻撃はなのはがバリアを展開したことにより、防がれてしまう。スバルは力押しでバリアを破壊しようとする。が、なのはが隙についてスバルをウィングロードから落とす。

なのは

「ほらスバル、ダメだよそんな危ない軌道は！」

なのははオレンジの魔力弾を避けながらスバルに言う。

スバル

「すいません！でも、ちゃんと防ぎますから！」

スバルは持ち直してウィングロードを移動する。

なのは

「ティアナは？」

ティアナが居ないことに気が付いたなのはは周りを見渡すと砲撃を放とうとしているティアナが見えた。

ティアナ

クロスシフトC、行くわよスバル！

スバル

「おおっ！」

スバルはティアナの念話に答えるとリボルバーナックルのカートリッジをロードする。そしてウィングロードを素早く駆け抜けてなのはに突っ込んで行く。なのはは魔力弾をいくつも生成してスバルに向かつて放つ。だがスバルは魔力弾の攻撃を避けてドライブがかかったリボルバーナックルで攻撃するが、再びバリアを展開してスバルの攻撃を防ぐ。

士

「あれは幻影……偽物か。本物はどこだ？それよりそろそろやばいかもな」

士はそう言いながらディケイドライバーを腰に装着してライドブツカーからカードを取り出す。

本物のティアナはウイングロードを走ってクロスミラーージュのカートリッジを2回ロードするとクロスミラーージュの銃口にオレンジ色の魔力刃が生成される。

ティアナ

（バリアを切り裂いてフィールドを突きぬける！）

ティアナはなのはの真上にくる。

ティアナ

「一撃必殺！」

ティアナはそのままなのはに魔力刃を向けて突っ込む。

なのは

「レイジングハート……モードリリース」

レイジングハート・エクセリオン

『了解』

なのははレイジングハート・エクセリオンを待機モードにすると急に爆発が起こる。

士

「やっぱり！変身！」

「KAMEN RIDE DECADE！」

士はディケイドに変身するとカードを一枚、ディケイドライバーに装填する。

「FORM RIDE BLADE JACK！」

バックルを閉じて電子音が鳴るとディケイドは前方にオリハルコンエレメントが召喚されてそれを潜るとディケイドは黄金の鎧に背中にオリハルコンウイングを装備した『ディケイドブレイド・ジャックフォーム』に変身する。

爆発がおさまって煙が晴れるとそこにはなのはが左手でスバルのリボルバーナックルを素手で受け止めて、右手でクロスミラージュの魔力刃を素手で受け止めている姿があった。右手からは次々と血が出てくる。

なのは

「おかしいなあ。……………2人とも、どうしちゃったのかなあ？」

なのはが『魔王モード』になってしまっ。スバルはただ呆然としていてティアナは魔力刃を素手で受け止めていることに驚く。

なのは

「頑張ってるのはわかるけど、模擬戦は…喧嘩じゃないんだよ……！練習のときだけ言うこと聞いているフリして、本番でこんな危険な無茶するなら……練習の意味、無いじゃない。ちゃんとさ、練習通りやろうよ……ねえ？」

スバル

「……あ……あの……」

スバルはおびえながら喋る。

なのは

「私の言ってる事、私の訓練……そんなに間違ってる？」

ティアナは魔力刃を解いてウィングロードにジャンプする。そしてクロスミラージュを構えると2回カートリッジをロードする。そして砲撃の構えを取る。

ティアナ

「私は！もう誰も傷つけないから！無くしたくないから！」

ティアナは泣き叫びながら自分の思いをなのはにぶつける。

ティアナ

「だから……！強くなりたいんです……！」

なのは

「少し、頭冷やそうか」

そう言うとなのはは足元にミッドチルダ式の魔方陣を展開してティアナに指をさす。それを見たディケイドブレイド・ジャックフォームはカードをディケイドライバーに装填する。

「ATTACK RIDE MACH！」

電子音が鳴るとディケイドブレイド・ジャックフォームはオリハルコンウィングを展開してカブトのクロックアップやファイズ・アクセルフォームの高速移動に劣らない速さで飛ぶと、なのはとティアナの方に向かう。

なのは

「クロスファイアー」

なのはの周りに10個ほどの魔力弾が生成される。

ティアナ

「ファントムブレイ!!」

なのは

「シユート」

なのはが魔力弾を高速で放つ。その魔力弾はティアナに被弾して爆発する。

スバル

「ティア! ツ… バインド!」

スバルはティアナを助けに向かおうとするが、なのはにバインドで拘束されてしまう。

なのは

「じつとして。スバル、よく見てなさい」

冷徹な声でなのはがスバルに言う。爆風が晴れると戦意喪失しているティアナの姿があった。なのはは彼女に砲撃を放とうとする。

ディケイドブレイド・ジャックフォーム

「間に合え!!なのは、やめろよ...やめやがれ!!!」

「ATTACK RIDE METAL!」

電子音が鳴る。ディケイドブレイド・ジャックフォームの声もなのはには届かなかった。

スバル

「なのはさん!？」

スバルが叫ぶと同時に砲撃がティアナに放たれる。そして爆発が起こる。爆風が晴れるとそこにいたのは鉄のような体のディケイドブレイド・ジャックフォームだった。

スバル

「士兄!？」

ディケイドブレイド・ジャックフォーム

「なのは...てめえ、いい加減にしろよ」

なのは

「士君、邪魔しないで」

再びなのはは砲撃を放とうとする。

ディケイドブレイド・ジャックフォーム

「いい加減にしやがれ...!!この、わからずや!...!!」

「FINAL ATTACK RIDE b b BLADE
！」

電子音が鳴るとライドブッカーソードモードに青白い稲妻が走る。
なのはが砲撃を放つとディケイドブレイド・ジャックフォームも駆け出して必殺技『ジャック・ライトニングスラッシュ』でなのはの砲撃を切り裂く。なのはは砲撃を切り裂かれて驚く。ディケイドブレイド・ジャックフォームはそのまま突っ込んでジャック・ライトニングスラッシュはなのはに刃のついてないところを当ててなのはを気絶させる。

ディケイドブレイド・ジャックフォーム
「なのは……やりすぎだ」

ディケイドブレイド・ジャックフォームはなのは、スバル、ティアナの3人を地上に下ろすと変身を解く。

ヴィータ
「士！なのはは！？」

士
「ヴィータ。なのはは気絶させたから大丈夫だ。ティアナ」

バキッ！

士はティアナの顔を思い切り殴る。

士
「お前、何にもわかってないな。そんなに仲間を踏みにじってまで強くなりたいのか！？犠牲を出してまで強さを求めるならな、此処

から失せる！！」

士の言葉でティアナは泣く。

スバル

「士兄……なんでこんなこと………」

士

「ティアナは何にもわかってない。俺はそれをわからせたただけだ。だからこういうことがあったら俺はそいつを破壊してまでわからせるさ。俺は破壊者だから………」

そう言うと士は立ち去る。スバルは怒りながら士が視界から消えるまでずっと睨んでいた。

願い、思いの衝突（後書き）

感想待ってます。

大切なこと

模擬戦が終わった夜、なのはの許に士とフェイトが来る。

士

「なのは……」

なのは

「フェイトちゃん、士君……」

彼らは少し歩きながら話す。

フェイト

「ティアナが目を覚ましてね、スバルと一緒にオフィスに謝りに来てたよ」

なのは

「そう……」

フェイト

「なのはは訓練場だから明日朝一で話したらって伝えちゃったんだけど……」

なのは

「うん、ありがとう」

なのははフェイトに静かに感謝の言葉を述べる。

なのは

「でもごめんね。監督不行き届きで。土君、フェイトちゃんやライティングの2人まで巻き込んだじゃって……」

フェイト

「私は全然」

士

「俺もあまり気にしてないからさ。大丈夫だって」

なのは

「ティアナとスバル、どんな感じだった……？」

フェイト

「まだちよつとご機嫌斜めだったかな？」

フェイトの言葉になのはは俯く。

なのは

「まあ、明日の朝ちゃんと話すよ。フォワードのみんなと」

士

「そうした方がいいな」

3人は隊舎のロビーに入ると突然、警報アラームが鳴り響く。それにフォワードメンバーや他の隊員も気づく。

士、なのは、フェイトの3人ははやてに呼ばれて司令室に来る。

はやて

「テストロッサ・ハラウオン執務官、どう見る？」

フェイト

「犯人がスカリエッティなら、こちらの動きとか航空戦力を探りた
いんだと思う」

はやて

「この状況ならこっちは長距離砲撃を放り込めば済むわけやし……」

リイン

「一撃でクリアですよー！」

フェイト

「うん。でもだからこそ奥の手は見せない方がいいんじゃないかな
って」

はやて「まあ、実際この程度のことです隊長たちのリミッター解除つ
てわけにもいかへんしな。高町教導官と土君はどうやる？」

はやてが次になのはと士に問う。

なのは

「こっちの戦力調査が目的なら、なるべく新しい情報を出さずに今
までと同じやり方でかたづけちゃうかな？」

士

「俺は2人の意見に賛成だ。俺もディケイドやディエンドで召喚した仮面ライダーはあまり出す気はないしな」

2人の意見にはやてはグリフィスと顔を合わせてお互いうなずくとはやてが「それでいこう」と言つて、3人もうなずく。

（ヘリポート）

なのは

「今回は空戦だから、出撃は私とフェイト隊長、ヴィータ副隊長と士君の4人」

フェイト

「皆はロビーで出動待機ね」

ヴィータ

「そっちの指揮はシグナムだ。留守を頼むぞ」

スバル・エリオ・キャロ

「「「はい!」「」」

ティアナ

「はい……………」

ティアナを除く3人はちゃんと返事をするが、ティアナだけは元氣のない声で返事をする。

士

「それからティアナ……出動待機から外れとこう」

士はティアナのことを心配してか、出動待機から外す。4人は士の言葉に驚く。

ヴィータ

「その方がいいな。士の言う通りにしとけ」

ヴィータもティアナに向かって士の意見に賛成するように話す。

ティアナ

「言うことを……聞かない奴はいらないってことですか……？」

ティアナが士に怒りを込めて喋る。士は「当たり前だぜ、そんなことは」とティアナに言う。

ティアナ

「現場での指示や命令はちゃんと聞いてます！教導だって……サボらずにやってます。それ以外の努力だって、教えられた通りじゃないとだめなんですか？」

ヴィータはティアナの発言にティアナに怒ろうとするが、なのはとフェイトが止める。

ティアナ

「私は……なのはさんたちや士さんみたいにエリートじゃないし、

スバルやエリオみたいな才能だつてないし… キャロみたいなレアス
キルもない！ 少しくらい無茶したって、死ぬ気でやらないと… 強
くなれないじゃないですか！」

その時、シグナムがティアナを自分の方に顔を向かせてティアナの
顔を殴る。

士

「師匠！」

フェイト

「シグナム！」

なのは

「シグナムさん……」

シグナム

「心配するな。加減はしておいた。駄々を捏ねるだけのバカは……
なまじ付き合っているからつけあがる…… ヴァイス！ もう出られる
な？」

ヴァイス

「乗り込んでくれりゃ、いつでも！」

ヴァイスがそう言うのと4人はヘリの中に入る。そのあとヘリはすぐ
に飛び立つ。

シグナム

「目障りだ。いつまでも甘ったれてないで、さっさと部屋に戻れ」

シグナムはティアナに冷たく言い放つ。

エリオ

「あの、シグナム副隊長……そのへんで」

キャロ

「スバルさん、とりあえずロビーに……」

スバル

「シグナム副隊長……命令違反はダメだし、さっきのティアの物言いかそれを止められなかった私は確かに駄目だったと思います。だけど……自分なりに強くなろうとするのとか、キツイ状況でも何とかしようって頑張るのってそんなにいけないことなんでしょうか！？」

スバルは涙を浮かべながらシグナムに抗議する。シグナムはそれを黙って聞いている。

スバル

「自分なりの努力とか、そういうこともやっちゃいけないことなんでしょうか！？」

シャーリー

「自主練習も良いことだし、強くなろうとして努力するのもいいことだよ」

そこにシャーリーが声をかける。

エリオ

「シャーリーさん」

シャーリー

「皆、ちよつとロビーに集まって。私が説明するから。なのはさんのことなのはさんの教導の意味…そして土さんの言葉と彼の素性に付いて……」

現場に着いた4人はさきになのはとすでにデイケイドに変身した土が先行する。

なのは

「いくよ、レイジングハート」

レイジングハート・エクセリオン

『了解です、マスター』

デイケイド

「なのは、とつとと終わらせてティアナに言わなきゃいけないんだろ。俺だってそうだからな」

なのは

「うん。レイジングハートセットアップ！」

「FORM RIDE BLADE JACK!」

なのはバリアジャケットを身にまとい、ディケイドは前回のよう
にディケイドブレイド・ジャックフォームに変身するとガジェット
に飛び立つ。

数十分後、ガジェットも残り1機となった。

フェイト

「ヴィータ、ラスト1機お願い！」

ヴィータ

「あいよ。アイゼン！フォルムツヴァイ！」

グラーファイゼン

『EXPLOSION！』

グラーファイゼンの柄が伸びるとカートリッジをロードしてハンマ
ーにスパイクが追加されて突撃型の『ラケーテンフォルム』に変化
する。

ヴィータ

「ラケーテン……ハンマー！」

ラケーテンフォームのグラーファイゼンを振り回してヴィータは残りのガジェットに必殺技『ラケーテンハンマー』をガジェットに直撃させて爆散する。

アルト

『増援来ます!』

急な通信が入って内容は増援が来るという内容だった。増援は10機を超えていた。

デイクイドブレイド・ジャックフォーム

「なのは、俺に足場を作ってくれ。隣にもな」

なのは

「うん、わかった。でも、あんな数をどうやって?」

デイクイドブレイド・ジャックフォーム

「あの時みたいにやるのさ」

デイクイドブレイド・ジャックフォームは足場に着くとケータッチを取り出してコンプリートカードをケータッチの画面に装填すると、ライダークレストを押す。

「KUUGA AGITO RYUKI FAIZ BLADE
HIBIKI KABUTO DEN-O KIVA!」

最後にデイクイドのライダークレストをタッチする。

「FINAL KAMEN RIDE DECADE!」

電子音が鳴るとデイクイドブレイド・ジャックフォームはデイクイドライバーのバックルを取り外して右の腰にセットして、ケータツチをバックル部分にセットするとデイクイドブレイド・ジャックフォームはデイクイド・コンプリートフォームにファイナルカメンライドする。デイクイド・コンプリートフォームはファイズのライダークレストをタッチしてFのマークをタッチする。

「FAIZ! KAMEN RIDE BLASTER!」

ケータツチのライダークレストが光ると胸のヒストリーオーナメントのカードが全てファイズ・ブラスターフォームのカードになると隣にファイズの最強フォーム『ファイズ・ブラスターフォーム』が召喚される。そしてデイクイド・コンプリートフォームはライドブツカードからファイズのファイナルアタックライドカードを取り出してカードを腰のバックルに入れるとバックルをブッシュする。ファイズ・ブラスターフォームもデイクイド・コンプリートフォームと同じしぐさをする。

「FINAL ATTACK RIDE fa fa fa FAIZ!」

電子音が鳴ると、ファイズ・ブラスターフォームが手に持っている武器『ファイズブラスター』のフォトンバスターモードを、デイクイド・コンプリートフォームはライドブツカードモードをライフル銃のように構えると同時に巨大なフォトンバスターを放ってデイクイド・コンプリートフォームとファイズ・ブラスターフォームの連携必殺技『フォトンブラスターブレイカー』をガジェットに直撃させる。そしてガジェットは一機も残らずに爆散する。

デイクイド・コンプリートフォーム

「終わった…か」

そこにはやてから通信が入る。

はやて

『なのはちゃん、フェイトちゃん、ヴィータ、土君、もうガジェットの反応はあらへんから、待機しないで戻ってきてな』

なのは

「了解。皆、戻ろう?。」

フェイト

「そうだね」

ヴィータ

「おお」

ディケイド・コンプリートフォーム

「それよりさ、俺此処から移動できないからだれでもいいから助けてよ!」

そのあと、ディケイド・コンプリートフォームだけおいていかれたとか……（嘘です♪）

隊舎に戻ってきた士たち4人はシャーリーに謝罪されていた。

なのは

「ダメだよシャーリー、人の過去勝手にばらしちゃ」

シャーリー

「ごめんなさい！なんか見てられなくて…」

ヴィータ

「ま、いずればれることだしな」

こんなことを言われてもヴィータはのんきに返した。

士

「しかも俺のことまで……素性までばらしやがって……シャーリー！」

シャーリー

「本当にごめんなさい！」

なのは

「まあまあ、士君、許してあげなよ。シャーリー今ティアナは何処にいるかな？」

シャーリー

「ええと、確か……」

そのころ、ティアナは訓練場の近くで思いつめていた。その時、なのはと土が来る。

2人はティアナの隣に座ってティアナが話し始める。

ティアナ

「シャーリーさんやシグナム副隊長から聞きました」

なのは

「私の失敗の記録と土君の悪い話？」

ティアナ

「じゃなくて……その……」

土

「無茶すると危ないっていう話だろ？」

ティアナ

「すみませんでした」

なのは

「じゃあ、わかってくれたところで少ししかつとこうかな？」

一旦間をおいてなのはは再び喋り始める。

なのは

「あのね、ティアナは自分のこと、凡人で射撃と幻術しかできないっていうけど、それ間違ってるからね」

士

「ティアナも他の奴らもまだ原石の状態だ。まだ駄目だし、本当の価値もわからない。だけどさ、磨いていくうちにどんどん輝く部分が見えてくる」

なのは

「エリオはスピード、キャラは優しい支援魔法、スバルはクロスレンジの爆発力。3人を指揮するティアナは射撃と幻術で仲間を守って、知恵と勇気でどんな状況でも切り抜ける。そんなチームが理想でゆっくりだけどどんどん近付いてる」

士

「模擬戦でなのはの攻撃を受けて気付かなかったか？ティアナの射撃魔法はちゃんと使えば避けにくいし当たると痛いぞ」

なのは

「一番魅力的なところをないがしろにして、慌てて他のことをやるうとするから、だから危なくなっちゃんんだよ」

士

「って、なのはは教えたかったんだよ」

士の言葉にティアナは俯く。

なのは

「でもティアナが考えたこと、間違っでは無いんだよね。システムリミッター、テストモードリリース」

クロスミラージュ

『yes』

クロスミラージュに何かをしたなのはティアナにクロスミラージュを手渡す。

なのは

「命令をしてみて。モード2つて」

ティアナはうなずくとクロスミラージュを構える。

ティアナ

「モード……2」

クロスミラージュ

『ダガー・モード』

クロスミラージュが変化して光るとオレンジ色の魔力刃を生成した『ダガーモード』に変化する。だがクロスミラージュのダガーモードはダガーの名の通り、短いと思われたが、普通の剣より少し短いぐらいの長さになった。

ティアナ

「これって……？」

なのは

「確かティアナは執務官志望だったね。此处を出て、執務官を目指すようになったらどうしても個人戦が多くなるし、もしそうだった時のことを考えてこうしたんだ」

その言葉にティアナは泣きじゃくる。

なのは

「クロスもロングももう少ししたら教えようと思ったんだけど、だけど出勤は今すぐにもあるかもしれないでしょ。だからもう使いこなせてる武器をもっともつと確実なものにしたかった。だけど私の教導、地味だからあんまり強くなったという実感がなかったから焦って苦しかったんだよねティアナ、ごめんね」

士

「俺もあんなこと言って悪かったな」

2人はティアナに微笑む。ティアナはなのはに抱き付いて泣きじゃくる。

翌日、士は訓練をサボって遠くから訓練を見ていた。

士

「あいつ、よくなったじゃん」

その後、士は訓練をサボったことによりなのはにお仕置きされたとか（笑）

大切なこと（後書き）

次回はあの子が登場する予定です。

機動六課の休日（前書き）

11月22日、ストーリーの一部を変更しました。

機動六課の休日

早朝、フォワード陣はなのはと模擬戦をしてそれが終了するとなのはが話し始める。

なのは

「はい、今朝の訓練と模擬戦も無事終了。お疲れ様！それで、なにげに今日の模擬戦は第2段階クリアの見極めテストだったんだけど、どうでした？」

なのははフェイト、ヴィータ、士に聞く。

フェイト

「合格だよ」

ティアナ・スバル

「「早！」」

ヴィータ

「ま、こんだけみっちりって、問題あるなら大変だ」

ライトニングはヴィータの評価に苦笑いをする。

士

「バランスも良かったし、俺は良いと思うぜ」

士の言葉に4人は表情を明るくする。

なのは

「私も皆良い線いってると思うし。じゃあ、これにて2段階終了!」

なのはの言葉にフォワードの4人は嬉しそうにする。

フェイト

「デバイスリミッターも一段解除するから、あとでシャーリーのところに行って来てね」

ヴィータ

「明日からはセカンドモードを基本提にして訓練すつからな」

フォワード

「」「」「はい!」「」「」

キャロ

「え? 明日って...」

キャロが疑問を言葉にする。

士

「訓練再開は明日からだよ」

なのは

「今日は私たちも隊舎で待機する予定だし」

フェイト

「皆、入隊日からずっと訓練すけだしね」

だが、まだフォワードの4人は疑問形だった。

ヴィータ

「そんなわけで」

なのは

「今日は皆1日お休みです」

士

「街にでも出かけて遊んでくるといいぜ」

その日の午後、士は途中までティアナとスバルと途中まで同行するため、倉庫からマシンディケイダーを出して簡単な整備をして点検する。

士

「よし、これでいいな」

ティアナ

「士さん、整備終わりましたか？」

士

「丁度今終わったところだ。行こうぜ」

そう言うとティアナのバイク（実際はヴァイスに借りたバイク）の隣にマシンディケイダーを置いてヘルメットをかぶる。

スバル

「土兄もバイク持ってたんだ」

士

「ああ。こいつは結構スピード出るからな。ティアナ、そろそろ行こうぜ」

ティアナ

「はい」

3人はバイクに乗り込み、バイクを走らせる。

数分バイクを走らせて急なカーブがある道を走行しているとスバルが子供のようにはしゃぐ。

スバル

「ひゃー！楽しい！」

ティアナ

「ちゃんと捕まってなさいよ。スピードあげるから」

スバル

「だいじょーぶ」

ティアナがバイクのスピードを早くして、士はバイクを追うようにマシンディケイダーのスピードを上げてティアナたちを追う。

街に着いた3人はそれぞれ分かれる。

ティアナとスバルと別れた士はその辺をブラブラしているとある店の前でとまる。その店は宝石店だった。

士

「宝石店か。あいつらになにか買ってきてか」

店長

「いらっしやい。何かお探しですか？」

士

「はい。親しい友達に何かプレゼントしようと思ってここに来たんですけど、何かありますか？」

店長

「これならどうでしょうか？」

店長は箱を取り出して開けると桜色、黄色、透明のペンダントが入っていた。

店長

「これなら相手の人も喜ぶと思いますよ」

士

「じゃあ、この3つもペンダント、買ってくよ」

士は会計を済まして外に出る。またその辺をブラブラしているとエリオとキャロに会う。

エリオ・キャロ

「あ、兄さん！」

士

「エリオ、キャロ。丁度昼飯の時間だし、一緒に食べようぜ」

キャロ

「ウン！」

エリオ

「僕たちもお昼を食べに行こうと思ってたから。兄さん、早く行こう！」

士

「ちょ、引つ張るなって」

そのあと、3人はレストランに入ってメニューを注文する。士とキャロはハンバーグとライスとスープ、エリオはカルボナーラを5杯たのんだ。

余談だが、士が会計した時ペンダントを買った時に結構お金を使い、昼食の支払いをすることになり、士の財布はすっからかんになったとか（笑）

士

「うつうつ……」

エリオ

「兄さん……」

キャロ

「落ち込まないで兄さん」

そのあとエリオとキャロによると土は数分くらいいいじけたらしい。

〈地下水道〉

地下水道では、5、6歳くらいのぼろぼろの服を着た女の子が左手首に鎖で繋がれた2つのレリックケースを引きずりながら辛そうに歩く。途中でレリックケースが何処かにぶつかってその反動で女の子が膝をつく。だが女の子はすぐに立ち上がる。

女の子

「…行かなきゃ」

そう言って女の子は再び歩き出す。

所変わって地上。昼食を食べ終わった」3人は少し話していた。

エリオ

「兄さん、その袋どうしたの？」

士

「なのはたちにプレゼントをあげようと思ってな」

キャロ

「へえ」

その時エリオが何かに気づく。

キャロ

「エリオ君？」

エリオ

「キャロ、兄さん、今何か聞こえなかった？」

士

「ああ。ゴトツっていう感じだったな」

士はそれだけ言うと近くの路地裏に駆け出す。2人はそれを追う。3人が見たのは左手首にレリッケース2つがつながれた鎖を持って、ぼろぼろの服を着た金髪の女の子が倒れていた。

エリオ

「酷い……」

士

「キャロ、レリックの封印はエリオに任せてこの子の手当ては俺に任せてくれ。その間に全体通信を！」

キャロ

「わかった！」

スバル

「キャロから全体通信？」

マツハキャリバーに通信が入ってクロスミラージュにも通信が入る。

キャロ

『こちらライトニング4。緊急事態に付き、現場報告をします！クラナガンのf23地区にてレリックと思しきケースを2つ発見。ケースを持っていたと思われる小さな女の子が1人』

エリオ

『女の子は怪我を負って意識不明です。怪我の手当ては兄さんがやってくれました』

士

『指示を頼む！』

六課メンバーは突然のことに驚く。なのははティアナとスバルに指

示を出して、女の子が見つかった現場に向かうように指示をした。

この少女の発見からのちにJ^{ジェイル・スカリエッティ}S事件と呼ばれる大事件が始まった。

機動六課の休日（後書き）

ヴィヴィオ登場です。士が居るからパパと呼ばせたい……！

ヴィヴィオ（前書き）

今回は原作とは全く異なります。それと今回ディケイドが主役ライダー以外の仮面ライダーに変身してディケイド本編の最終話で使ったあの連携技を使います。

ヴィヴィオ

士の応急処置も終わり、3人は女の子を心配そうに見つめているとティアナとスバルが来る。

ティアナ

「エリオ、キャラ、士さん！」

エリオ

「スバルさん、ティアさん」

士

「こつちだ！」

2人は女の子が倒れている場所まで走ってくる。

スバル

「この子が……」

ティアナ

「また随分ぼろぼろに……」

キャラ

「地下水路を通ってかなり長い距離を歩いてきたんだと思います」

その言葉の後、キャラは女の子を見る。まだ意識が戻らなくて目を覚まさない。

スバル

「まだこんなに小さいのに……」

ティアナ

「ケースの封印処理は？」

士

「エリオとキャロがやってくれた。ガジェットがレリックの反応を追ってくる心配はないと思う」

その数十分後、なのはたち隊長とシャルにリインがヘリで現場に来て、シャルは女の子の診断を始める。

シャル

「身体の調子も安定してるし危険な反応もないし、心配ないわ」

女の子の状態を聞いてフォワードメンバーはホッとする。

フェイト

「ごめんね皆。お休みの最中だったのに」

エリオ

「いえ」

キャロ

「平気です」

なのは

「ケースと女の子はそのままヘリで搬送するから皆も乗って」

士

「なのは、バイクはどうするんだよ…」

フェイト

「それならあとから回収するから大丈夫だよ」

士

「そうか」

そのあと、なのははへりまで女の子を抱き上げて、なのはがへりに入るとフォワードたち、士、シャル、リインがへりに乗る。

そのころ、廃ビルに2人の女性が居た。そのうち1人は布に巻かれてはいるが、大砲らしきものを所持していた。

女性1

「ディエチちゃん、ちゃんと見えてる？」

ディエチと呼ばれた女性は伊達めがねを付けている女性『クアット口』に答える。

ディエチ

「ああ。遮断物もないし空気も澄んでるからよく見える」

ディエチが言ったとおり、彼女の眼には空中に浮いているヘリが映っていた。

ディエチ

「でもいいのか、クアットロ？撃っちゃって。ケースは残せるだろうけど、マテリアルの方は破壊しちゃうことになる」

クアットロ

「フフフ。ドクターとウーノ姉様曰く、あのマテリアルが当たりなら、本当に聖王の器なら砲撃くらいでは死んだりしないから大丈夫、だそうよ」

クアットロの話を聞き終わるとディエチは大砲を包んでる布を取って大砲を露わにする。

ヘリでは女の子を輸送しているとロンググーチから通信が入る。

シャーリー

『市街地にエネルギー反応！大きい！』

ルキノ

『そんな……まさか！』

士

「マジかよ！エネルギーが俺たちを狙う可能性があるな」

フエイト

「たしかに、その可能性は十分……土、もしエネルギーが来たら相殺できる？」

土

「可能性はな。でもディメンジョンブラストで相殺できるかできないか……」

なのは

「でも賭けてみようフエイトちゃん。逃げられる可能性もあるから」

フエイト

「うん。行こう、なのは！」

なのはとフエイトはセットアップしてヘリのデッキが開くと外に出て辺りを警戒する。

土

「さて、俺も。変身！」

「KAMEN RIDE DECADE！」

土はデッキの前に立つとディケイドライダーにカードを装填してバツクルを閉じると電子音が鳴ると土の身体が灰色のライダースーツに包まれるとディケイドライダーからライドプレートが現れて、それが複眼に装着されてライダースーツにマゼンタ色が追加されて土はディケイドに変身する。そしてケータッチを取り出してコンプリートカードをセットするとライダークレストを順番に押す。

「KUUGA AGITO RYUKI FAIZ BLADE
HIBIKI KABUTO DEN-O KIVA!」

「FINAL KAMEN RIDE DECADE!」

ディケイドライバーのバックルをベルトの右側に装着してケータツチをベルトに装着してディケイド・コンプリートフォームにファイナルカメンライドする。

ディケイド・コンプリートフォーム

「ディエンド、召喚だ」

そう言うディケイド・コンプリートフォームはディエンドライバーにディエンドのカメンライドカードをスライドしてトリガーを引く。

「KAMEN RIDE DI-END!」

電子音とともにディケイド・コンプリートフォームの隣にはディエンドが召喚される。

廃ビル、ディエチが大砲…イノーマスカノンにエネルギーをチャージして限界までチャージする。

ディエチ

インヒコレントスキル

「IS、ヘヴィバレル発動……！あと12秒。11、10、9……」

発射時間が0になる。

ディエチ

「発射」

ヘヴィバレルから巨大な集束砲が放たれる。

ディケイド・コンプリートフォーム

「きやがった……！」

ディケイド・コンプリートフォームはヘヴィバレルから集束砲が放たれるのを見る。するとライドブッカードからカードを取り出してバツクルに装填してプッシュする。

「FINAL ATTACK RIDE di di di DI
END！」

電子音の後、ヒストリーオーナメントがディエンドのカードに変わって、ディケイド・コンプリートフォームはライドブッカードをガンモードにしてディエンドと同時に目の前に出されたライダーカードで照準されたエネルギーカードに構えると2人同時にトリガーを引いてディエンドとの連携技『ツインディメンジョンシュート』が放

たれて集束砲とぶつかる。激しいぶつかり合いの後、同時に爆発してディエチの攻撃が相殺された。

ディケイド・コンプリートフォーム

「……相殺できた……」

ディエチ

「相殺された……？」

ディエチは自分の攻撃が相殺されたことに驚く。

「ATTACK RIDE BLAST！」

そこに無数のビーム弾と金色の魔力弾がクアットロとディエチに放たれる。しかし、2人はジャンプして攻撃を避ける。

ディケイドカリス

「見つけたぜ」

フェイト

「とらえた！」

ディエチとクアットロの後ろにはカリスに変身したディケイドカリスとバルディッシュ・ザンバーをハーケンフォルムにして構えてるフェイトがいた。

ディエチ

「早い！」

「ATTACK RIDE CHALES ARROW！」

ディケイドカリスの手にカリスアローが現れる。

2人はすぐに逃げたがそれでもディケイドカリスとフェイトはクアットロとディエチを空中で追いかける。（ちなみにディケイドカリスが空中で移動できるのはフロートのカードを使ったから）

ディケイドカリス

「止まれ！！」

フェイト

「市街地での幻魔法使用、および殺人未遂で、逮捕します！」

フェイトは周りに魔力弾を生成してディケイドカリスはトルネードのカードをディケイドライバーに装填する。

クアットロ

「今日は遠慮します！」

クアットロはまだ抵抗しようとする。

クアットロ

「……IS発動。シルバーカーテン！」

クアットロがつぶやくとディエチとともにその場から消える。

フェイト

「くっ……土、行ける？」

ディケイドカリス

「了解！位置は大体把握したぜ！」

ディケイドカリスは近くのビルに止まるとケータッチを取り出して再びコンプリートフォームにファイナルカメンライドする。

「BLADE！ KAMEN RIDE KING！」

ディケイド・コンプリートフォームはブレイドのマークとfの紋章をタッチすると隣に13体のアンデッドと融合したブレイドの究極フォーム『ブレイド・キングフォーム』が召喚されて、ディケイド・コンプリートフォームはカードを取り出してバツクルにセットしてプッシュする。

「FINAL ATTACK RIDE b b BLADE
！」

電子音が鳴るとディケイド・コンプリートフォームとブレイド・キングフォームの目の前にスピードスートの10からAまでのギルドラウスカードが現れてディケイド・コンプリートフォームとブレイド・キングフォームはライドブッカーソードモードと重醒剣キングラウザーで10のカードを切り裂くと2つの衝撃波が繰り出されてブレイド・キングフォームとの連携必殺技『ロイヤルストレートフラッシュ』がクアットロとディエチが姿を現したところに衝撃波が繰り出される。

ディエチ

「衝撃波……！でも魔力反応がなかった」

2人は何とか空中にジャンプして避ける。

ディケイド・コンプリートフォーム

「なのは、フェイト、今だ！」

フェイトは足元に魔方阵を展開して魔力スフィアを手に集中させる。なのはもエクシードモードとなって足元に魔方阵を展開させてレイジングハート・エクセリオンを構え、砲撃を放つ準備をしている。ディケイド・コンプリートフォームももう1度ロイヤルストレートフラッシュを放とうとして再びブレイド・キングフォームを召喚する。

???

「ディエチ、クアットロ、じっとしてろ！」

クアットロとディエチは2人は聞き覚えのある声を聞いてその通りにする。

???

「IS発動。ライドインパルス！」

フェイト

「トライドント……」

フェイトに応じてカートリッジを2回ロードする。

フェイト

「スマッシュャー！！！」

魔方陣から3方向に巨大な金色の魔力砲が放たれる。

なのは

「エクセリオン……」

レイジングハート・エクセリオンはなのはに応じてカートリッジを1回ロードすると狙いを定める。

なのは

「バスター……！！！」

レイジングハート・エクセリオンから桜色の巨大な魔力砲が放たれる。

ディケイド・コンプリートフォームは腰のバックルにカードをセットしてプッシュする。

「FINAL ATTACK RIDE b b BLADE
！」

電子音が鳴るとディケイド・コンプリートフォームとブレイド・キングフォーム前に3Dカードが現れる。

ディケイド・コンプリートフォーム

「ロイヤルストレートフラッシュ!!!」

ディケイド・コンプリートフォームとブレイド・キングフォームから衝撃波が放たれてフェイトの放ったトライデントスマッシュとなのはが放ったエクセリオンバスター、ディケイド・コンプリートフォームとブレイド・キングフォームが放ったロイヤルストレートフラッシュがクアットロとディエチに直撃して爆発する。

ディケイド・コンプリートフォーム

「やった…?」

アルト

『ビンゴ!』

なのは

「じゃない!避けられた!」

フェイト

「直前で救援が入った」

なのは

「アルト、追って!」

アルト

『はい!』

その後、クアットロとディエチの反応はロストして、そのままヘリで一度六課の隊舎に戻って聖王教会の医療病院に士となのはで女の子を連れていくことになった。

士が女の子の部屋にいてなのはがうさぎのぬいぐるみを枕元に置く。

女の子

「パパ……ママ……」

士

「この子、一人ぼっちなんだな……孤独な俺と一緒にだな……」

士は泣く。

なのは

「士君は孤独じゃないよ。私にフェイトちゃん、はやてちゃんが一緒にいるから（それに、士君のこと好きだし／＼）」

そう言うとなのは士にそつとキスをする。

なのは

「だから、この子にもね」

士

「そうだな」

それだけ言つと士となのはは女の子の頭をそつとなでる。

なのは

「大丈夫。此処にいるよ。怖くない」

士

「だから心配しなくてもいいんだよ」

翌日、なのはと士はシグナムの車で聖王教会まで乗せていってもらった。
「すいませんシグナムさん。車出してもらっちゃって」

なのは

「すいませんシグナムさん。車出してもらっちゃって」

士

「ディケイダーが壊れてなかったらな…」

シグナム

「なに、車はテストロッサからの借り物だし、向うにはシスターシヤッハが居らっしゃる。私が仲介した方がいいだろう」

そのあと、女の子は人造魔導師素体…人工的に作られた魔導師であり、その子は機動六課で引き取るという話をした。

ちなみにディケイダーが壊れた理由はマシンディケイダーを回収した後、ヴァイスに整備をもらった時にヴァイスが間違えてエンジンシステムをいじくったから。

その直後、聖王教会からシャツハ・ヌエラというシスターから通信が入って女の子が部屋から逃げたという話を聞いて、シグナムは車を聖王教会に急がせる。

〔聖王教会 医療病院〕

聖王教会の医療病院に到着した3人はシャツハ・ヌエラと会う。

シャツハ

「申し訳ありません！」

なのは

「状況はどうなっていますか？」

なのはがシャツハに状況を冷静に聞く。

シャツハによると移動魔法の反応がないしまだ子供だから外には出られないとシャツハは言う。

なのは

「シグナム副隊長、病棟の搜索をお願いします」

シグナム

「わかりました」

シグナムは敬礼するとシャツハと一緒に病院内に入る。

なのは

「土君は私と一緒に外を探そう」

士

「ああ」

2人はすぐに中庭を探す。すると草むらから音が鳴ってそこからうさぎのぬいぐるみを持った女の子が出てくる。

なのは

「あ、こんなところにいたの」

士

「心配したんだよ。どうかしたのか？」

士は女の子に優しく問いかける。

女の子

「パパとママ、いないの……」

女の子の答えに士となのはは内心焦る。此処で作られた人間だから親はいないという事実を伝えるわけにもいかず、なのはは

なのは

「じゃあ、あのお兄さんと私と一緒に探そうか。お名前なんて言うの？」

ヴィヴィオ

「…ヴィヴィオ…」

士

「ヴィヴィオか。君にピッタリない名前だな」

ヴィヴィオと名乗った女の子の手を握りながら士は言う。

それを見ていたシャツハはアームドデバイス『ヴィンテルシャフト』を起動させて外へ出るとバリアジャケットを身にまとい、トンファ型の双剣を構える。それを見たヴィヴィオはおびえる。士はヴィヴィオを守るように立つと、ディケイドライバーを装着して同時に現れたライドブッカーをソードモードにしてシャツハに向ける。

士

「シスターシャツハ、何のつもりだ……？まだ小さい子供に武器を向けやがって……！」

士はこんな幼い子供に武器を向けるシャツハに怒り、声を低くして言う。

シャツハ

「でもその子供は危険があります！一般人のあなたじゃ到底…」

士

「俺は一般人じゃない」

シャツハ

「じゃあ一体何者ですか、貴方は？」

士

「通りすがりの仮面ライダー兼全ての破壊者だ、憶えておけ…！（そつえば久しぶりに名乗ったな）」

バカなことを考えながらも破壊者を基調として名乗る士。

なのは

「2人ともやめて下さい。士君、シスターシャッハ、やりすぎですよ」

士

「ああ、悪イ」

そう言うと士はヴィヴィオに近づいてヴィヴィオが落としたぬいぐるみを拾って渡す。

士

「ヴィヴィオ、ごめんな。怖かっただろ」

と、ヴィヴィオの頭をそっとなでる。

預言（前書き）

今回は最後におまけ話があります。

預言

士となのはが聖王教会の医療病院からヴィヴィオと一緒に戻ってきた数時間経った頃、フェイトとはやてはあること……機動六課設立理由を話すために士となのはを聖王教会の騎士カリム・グラシアの許へ連れて行こうと、なのはに通信をすると画面がヴィヴィオが泣いている姿が映った。なのは、士、フォワードメンバーはヴィヴィオを必死で慰めるが、それでもヴィヴィオは泣き続ける。

なのは

『ほら、泣かない』

士

『な、ヴィヴィオ。我慢してくれよ』

フェイト

「なのは、士、何の騒ぎ？」

なのは

「あ、フェイト隊長」

士

「フェイトか。実は……」

士となのははヴィヴィオが泣いている理由を話す……と思いきや、ヴィヴィオがまた泣く。

ヴィヴィオ

「うわーん！2人とも行っちゃだよー！うえーん！！」

それを見たフェイトとはやては士たちが居る部屋に向かう。

ティアナ

「あ、八神部隊長」

エリオ

「フェイトさん」

はやて

「エースオブエースと破壊者にも勝てへん相手はおるもんやね」

とはやてはのんきに言う。余談だが、破壊者と聞こえた士ははやてに殺気を放ちながら睨みつけてはやては威圧でその場から動けなかったとか（笑）

なのは

『フェイトちゃん、はやてちゃん、あの……助けて』

士

『頼むよ……』

なのはは念話で、士はインカムで通信して2人に助けを求める。が、士はやっぱりなんとなく当てにできなさそうだからヴィヴィオにこう言う。

士

「ヴィヴィオ、俺が居るから泣くのはもうやめてくれよ。な？」

ヴィヴィオ

「ぐすつ……ホント？」

士

「ああ。本当だよ。傍にいる」

士は笑いながらヴィヴィオの頭を優しく撫でる。

ヴィヴィオ

「うん、わかった」

ヴィヴィオは士の説得にあっさり泣きやんでしまった。それを見たフォワードメンバーはある意味すごいと思ったり、フェイトは自分の出番がないとブツブツ言っていたりとかそんなことが今の瞬間であった。

なのは

「じゃあ、すぐに帰ってくるから。ヴィヴィオ、ちゃんと士君の言うこと聞いてるんだよ？」

ヴィヴィオ

「うん」

はやて

「それじゃあ士君、帰ってきたら話してきたこと資料にして渡しとくな」

士

「ありがとうはやて。助かるぜ」

士は微笑ではやてに感謝する。そのあと、隊長たちは聖王教会に行

く。

ヴィヴィオ

「士さんって女の人に似てる〜」

スバル

「そう言われてみれば……」

たしかに、士は女と間違えられても違和感のない顔立ちになってるからそう思うのは当り前だろう。そのとき、スバルは何かを思いついたのか、悪戯な笑みを浮かべる。

士

「おい、スバルお前、何か変なこと考えてねえよな……？」

士は何処か怯えてる様子だった。そのあいだ、スバルはヴィヴィオに何かを吹き込む。

スバル

「士さん♪」

士

「なに、スバル……ってバインド!？」

スバル

「今だヴィヴィオ、やっちゃえ〜!」

「うん、スバルお姉ちゃん♪」

「ギヤアアアアアアアアア——！！」

そのあと、土はヴィヴィオとスバルによってメイド服を着させられていた。

「……うん、」

「士さん可愛い」

「似あつてるよ士兄！」

「スバルてめえ、明日半殺しにしておくから覚悟しとけよ……」

こんな格好をさせられても土は土だった。

数時間くらい経ったろうか、ヴィヴィオは遊び疲れて寝ていて、土はシャーリーに頼んで作ってもらったカメラでヴィヴィオの寝顔を写真に写す。

土

「やっぱ、子供って可愛いな」

そんなことを呟きながら土は笑みを浮かべると、ヴィヴィオをベッドまで抱いて毛布をかける。

一方、土がスバルとヴィヴィオによって女装されているころ、なのは、フェイト、はやて、騎士カリム、そしてフェイトの義兄であり、機動六課の後見人でもある青年『クロノ・ハラウオン』が表状の機動六課設立の理由を聞いた後、本当の機動六課設立目的を聞く。

カリムの希少技能『プロフェーティン・シュリフテン』が関係していた。

カリム

「これは最短で半年、最長で数年先の未来。それを詩文形式で解した、預言書の作成ができます。預言書の中身は古代ベルカ語。解

釈によつて意味が変わることがある難解な文章。世界におこる事件を書きただけで解釈ミスも含めれば、的中率や実用性は割とよく当たる占いって……つまりはあまり便利な能力ではないんです」

そのあと、語られたのはこんな予言だった。

『古い結晶と無限の欲望が集い交わる地、死せる王のもと、聖地よりの翼が蘇える。死者たちが踊り、なかつ大地の法の塔は焼け落ち、それを先駆けに数多の海を守る法の船も砕け落ちる』

なのは

「それって……！」

フエイト

「まさか……」

カリム

「ロストログアをきっかけに始まる、管理局地上本部崩壊と……そして、管理局システムの崩壊……」

カリムは続けて話をする。

カリム

「そして新たな予言が出ました。『死せる王の方舟墜ちる時、破滅を司る創生王が現れて、それを救う数多の世界を旅する世界の破壊者がこの地に舞い降りて、純白衣装を纏うの女性と時と次元を越えし騎士が創生王を滅ぼさん』という内容です」

クロノ

「この予言が出た時は、世界の破壊者というのが不明だったんだが」

はやて

「世界の破壊者っていうのは士君だと思う」

カリム

「他に創生王や時と次元を越えし騎士という単語なども不明です」

士

「ヴィヴィオ、よく撮れてるだろ？」

ヴィヴィオ

「でも変だよ」

エリオ

「これって…」

キャロ

「ピンボケですよ……」

士

「それを言っなよ……」

そんなことを士が言っているとなのはとフェイトが部屋に入っていく

る。ヴィヴィオはそれに気づくと、なのはの方に走る。

なのは

「ヴィヴィオ、ただいま。良い子にしてた？」

ヴィヴィオを抱っこしながらなのはは言う。ヴィヴィオはなのはに会いたかったのか、彼女に抱きつく。

フェイト

「ありがとね、エリオ、キャロ、士」

士

「別にいいよ」

エリオ

「いえ」

キャロ

「ヴィヴィオ、良い子にしてくれましたよ」

なのはは3人にお礼を言ってから士、フェイト、ヴィヴィオ、はやとと一緒に夕食を食べた。

くおまけく

士

「あのさ、皆、プレゼントがあるんだ」

士はそう言うとなのはに桜色のペンダント、フェイトに黄色のペンダント、はやてに白いペンダントを渡す。

フェイト

「綺麗……」

なのは

「士君、ありがとうね」

はやて

「でも、お金は大丈夫なん？」

士

「いや……色々あったから聞かないでくれ」

フェイト

「でも、本当にありがとね、士」

なのは

「嬉しいよ」

はやて

「私もうれしいわ」

皆は士の贈り物に喜ぶ。

士

「そつえば、お前らも用ってなんだよ？」

なのは

「それは……」

フェイト

「じゃあ、皆で一緒に……」

はやて

「それじゃあ、せーの……」

なのは・フェイト・はやて

「「「土君／土のことが好きでした！付き合ってください！」」」

3人は土に自分たちの思いをついに打ち明けた。土の答えは……

土

「無理だ。誰か1人はな」

なのは

「え？どういうこと？」

はやて

「さっぱりわからんわ」

フェイト

「うーん……」

土

「まだわかんないのかよ。俺はお前たちのことが好きだ。だから1人だけなんか選べないんだ。俺は皆と一緒に居たい」

なのは

「なら、私たちのことちゃんと愛してよ?」

フェイト

「土はそう答えると思ってたしね」

はやて

「でも土君、欲張りやなあ」

土

「仕方ないじゃん。皆と一緒に居たいんだよ」

そう言った後、土は3人とキスをする。空はとても綺麗に輝いていた。まるで彼らを祝福するように。

預言（後書き）

感想待ってます。

f a t h e r & m o t h e r & c h i l d r e n (前書き)

今回は初めて鳴滝…あの人が現れます。

f a t h e r & m o t h e r & c h i l d r e n

なのは

「はい、集合！」

朝の訓練を終えて、なのははフォワードと士を呼び集める。

士

「それじゃあ、今日の朝連はここまでだ」

フォワードメンバー

「はい！」

なのは

「今日は目立ったミスもなく、良い感じでした。今後もこの調子でね」

フォワードメンバー

「ありがとうございました」

フォワード陣が声をそろえて挨拶をすると訓練場を後にする。そのあと、士となのはは隊舎に戻ろうとすると散歩をしているフェイトとヴィヴィオを見つける。すると、2人はフェイトとヴィヴィオの方に駆け出す。

なのは

「ヴィヴィオ」

士

「おーい！」

士となのはの呼ぶ声にフェイトとヴィヴィオは声がした方に振り向く。ヴィヴィオは2人を見ると駆け出す。

士

「おはよう」

なのは

「おはようヴィヴィオ。ちゃんと起きられた？」

ヴィヴィオ

「うん！」

ヴィヴィオはなのはの問いに笑顔でこたえる。

なのは

「おはようフェイトちゃん」

士

「よう、フェイト」

フェイト

「うん、おはようなのは、士」

フェイトは士となのはにあいさつをするとしゃがんで、ヴィヴィオに話しかける。

フェイト

「ヴィヴィオ、なのはさんと士さんにおはようって」

ヴィヴィオ

「おはよう」

なのは

「おはよう」

士

「おはよう」

なのはは笑いながらまたヴィヴィオに挨拶をして、士はヴィヴィオの頭を撫でながら挨拶をする。

フェイト

「朝ご飯一緒に食べられるでしょ？」

なのは

「うん」

士

「そうだな……特に予定もないからいいぜ」

そのあと士、なのは、フェイト、ヴィヴィオは手を繋ぎながら隊舎の食堂に向かって歩いていく。

食事が終わった後、士はヴィヴィオと一緒に部屋に戻って、寮母のアイナに洗濯物をたたむように頼まれて、ヴィヴィオは士に手伝わしてもらいながらやっている。

ヴィヴィオ

「できた？」

士

「上手だな」

士はヴィヴィオを褒めて、ヴィヴィオのガードに着いているザフィーラもうなずく。

その数時間後、スバルと一緒になのはは自室に入る。そしてなのはは自分と士が保護責任者、フェイトが後見人になるという話を始める。だが、ヴィヴィオはなのはの話を聞いても全く分からないという表情をしている。

なのは

「ほら、やっぱりわからない」

士

「って、なんで俺まで保護責任者なんだよ……」

なのは士の問いをスルーする。

スバル

「えっと……なんて言えばわかるのかな……」

そう言いながらスバルはヴィヴィオがわかってくれるような説明の仕方を考える。そこで思いついたのが……

スバル

「つまり、しばらくはなのはさんがヴィヴィオのママ、士さんがヴィヴィオのパパだよってこと」

とヴィヴィオに説明する。

ヴィヴィオ

「ママ？ パパ？」

ヴィヴィオはなのはと士の顔を見ながら言う。

なのは

「いいよ、ママでも」

士

「ま、パパって呼ばれるのもいいかもな」

それぞれヴィヴィオに言う。それを言うと、ヴィヴィオは泣きながらなのはと士に抱きつく。いきなり抱きつかれたなのはと士は驚く。

士

「なんで泣くんだよ!？」

なのは

「大丈夫だよヴィヴィオ」

そのあと、ヴィヴィオは泣きやんで士たちと食事をする。

その夜、士は1人でマシンディケイダーを走らせていた。シャーリーからアンノウンの反応が出てモニター画面に映し出されたのが『ファイズの世界』で倒したはずのタイガーオルフェノクが現れたためだった。

士

「おまえ、俺と悠二で倒したはずだったんだけどな」

そう言いながら、士はディケイドライダーを腰に付けてライドブッカードからカードを取り出すとバツクルに装填する。

「K A M E N R I D E D E C A D E !」

士の身体は9つの残像に包まれてライダースーツを形成するとディケイドライダーからライドプレートが飛び出して仮面に着くとディケイドに変身する。

タイガーオルフェノク

「グガアアアアアア!!」

ディケイド

「行くぜ！」

ディケイドはライドブッカードをソードモードにしてタイガーオルフェノクを斬り付ける。しかし、タイガーオルフェノクはディケイドの攻撃を防ぐとディケイドの腹にキックをして、何度も殴り付ける。

ディケイド

「ガハッ……！」

ディケイドはその場に倒れながらもライドブッカードからカードを取り出してディケイドライバーにセットする。

「FINAL FORM RIDE k k k KIVA！」

電子音が鳴るとディケイドの身体はキバ・キバフォームに変化する。次の瞬間、ディケイドキバに付いている鎖^{カテナ}が弾け飛ぶと黄金の蝙蝠が現れてディケイドキバの身体を覆い尽くしてディケイドキバは光に包まれる。光が消えるとディケイドキバが立っていた場所には黄金のキバの鎧の本当の姿『キバ・エンペラーフォーム』にフォームチェンジをした『ディケイドキバ・エンペラーフォーム』が現れた。

ディケイドキバ・エンペラーフォーム

「俺の邪魔をする奴は全て破壊する。憶えておけ」

タイガーオルフェノク

「き、貴様、何者だ！？」

タイガーオルフェノクは驚きながらも始めて口を開く。

デイクイドキバ・エンペラーフォーム

「俺か？…俺は通りすがりの全ての破壊者だ！覚えておけ」

決め台詞を言ったデイクイドキバ・エンペラーフォームはライドブツカーからカードを取り出してデイクイドライバーに装填する。

「ATTACK RIDE ZANBAT SWORD！」

電子音が鳴るとデイクイドキバ・エンペラーフォームの左手首のブレスから蝙蝠を模した『ザンバットバット』が付いたファンガイアでも選ばれた者しか扱えない名剣『魔皇剣ザンバットソード』がデイクイドキバ・エンペラーフォームの手に出現する。

デイクイドキバ・エンペラーフォーム

「やっちやるぜ！」

某カゲキでジユウな奴のように叫ぶとデイクイドキバ・エンペラーフォームはザンバットソードでタイガーオルフェノクに斬りつけてはザンバットバットを上下に動かして刀身を研いで連続攻撃をする。連続攻撃でタイガーオルフェノクは逃げようとする。

デイクイドキバ・エンペラーフォーム

「待てよ！逃がしてたまるか！！」

デイクイドキバ・エンペラーフォームはタイガーオルフェノクが逃げた方向に走りながらカードをバツクルに入れる。

「FINAL ATTACK RIDE k k k KIVA！」

バックルから電子音が鳴るとディケイドキバ・エンペラーフォームはザンバットバットをゆつくりと動かす。動かした後、刀身は血のようなワインレッドに染まる。ディケイドキバ・エンペラーフォームはワインレッドに染まったザンバットソードを大きく薙払って『ファイナルザンバット斬』をタイガーアンドレッドに放つ。ファイナルザンバット斬をまともに受けたタイガーオルフェノクは青い炎に燃やされながら灰になってしまう。

ディケイドキバ・エンペラーフォーム

「なんでこの世界に……」

そう言いながらディケイドキバ・エンペラーフォームは変身を解除する。すると歪みが現れて鳴滝……いや、ゾル大佐が歪みから現れる。

士

「鳴滝！ いや…ゾル大佐」

ゾル大佐

「やあディケイド。君はこの世界を破壊する」

士

「どういうことだ！」

だが、士が喋り終える前にゾル大佐は歪みに飲み込まれて消える。

士

「俺は、やっぱり破壊者なのか……なのはたちやヴィヴィオを守るためなら俺は悪魔にだって、破壊者にだってなってる……！」

士は新たに決意をしてマシンディケイダーを走らせる。

終焉の力始動（前書き）

今回からなのはStrikers編は後篇です。

終焉の力始動

士

「おはよ……」

士が起きた瞬間、外で爆発音のような音が聞こえて士はずっこける。

士

「痛え……！とりあえず外に出るか」

私服に着替え終わると士は音が鳴った方向に向かう。そして見えたのはウイングロードでスバルに彼女と同タイプのデバイスを使っている見知らぬ女性が白いリボルバーナックルでスバルに寸止めで攻撃を中断していた光景だった。士は近くにいたなのはに問う。

士

「なのは、あの人は？それにスバルのマツハキヤリバーと同じようなタイプのデバイスを使ってるみたいだが……」

なのは

「士君。あの人はスバルのお姉さんのギンガ・ナカジマ陸曹。デバイスはマツハキヤリバーの姉妹機のブリッツキヤリバー。今、2人は模擬戦してたんだ」

士

「なるほど、大体わかった」

士のぼやきはほっといて、なのははスバルとギンガに模擬戦の終了を言い渡す。

エリオ

「スバルさん……おっしい」

士

「エリオ、感想言ってる暇あったら訓練しとけよ。なんなら、俺とやるか？」

エリオ

「兄さん、いいの？」

士

「ああ。いいぜ」

そのあと、士はディケイドに変身して、エリオと模擬戦をした。勝ったのはもちろん士だ。そのあと士は隊舎に戻る途中、隊長たち4人对フォワード+ギンガチームで模擬戦を少しだけ見る。

士

（ギンガだっけ。あいつの実力、人間並みじゃないな。それにスバルもあのバカ力……戦闘機人ってやつか）

訓練も終わり、士はばったり会ったギンガに話しかけられる。

ギンガ

「あなたは…たしか門矢、士さんでしたよね？」

士

「ああ。俺は門矢士だ。今は此処で世話になってるな。ギンガだっけ、よろしくな」

ギンガ

「よろしく願います士さん！」

互いに食堂に行こうとしてたので、一緒に行こうとするとヴィヴィオが来る。

ヴィヴィオ

「あ、士パパ！」

士

「ヴィヴィオ、おはよう」

ヴィヴィオ

「パパ、おはよう」

そのあと、色々と士はギンガに誤解されてしまった。（まあ、あとで誤解は解けたが）

それから2週間が経っただろうか、士を含めた前線メンバーは部隊長室ではやてから地上本部での公開意見陳情会の警備にこの後すぐからなのは、ヴィータ、フォワードたちが現場に、はやて、フェイト、シグナムは明日の早朝に現場まで向かう。士はもしも機動六課が狙われた時のためにザフィーラ、シャマルたちと六課で待機ということになった。

くへりポートく

士はヴィヴィオとともになのはの見送りに来ていた。ヴィヴィオは寂しそうな顔でなのはの顔を見つめる。

なのは

「あれ、ヴィヴィオどうしたの？此処は危ないよ」

士

「ヴィヴィオ、やっぱりなのはの見送りに来たかったみたいでついな」

なのは

「もう、ダメだよヴィヴィオ。士パパに我がまま言っちゃ」

ヴィヴィオ

「ごめんなさい……」

士

「ヴィヴィオ、なのはママはすぐに帰ってくるから心配ないよ」

士はヴィヴィオに心配はないと告げるように言う。ヴィヴィオは泣きながらもうなずいてそのあと、士と2人でへりを見送った。

（地上本部）

地上本部の内部のメインコンピューターに何者かがハッキング、クラッキングを行う。そして次々にモニター画面が消える。そして、外ではルーテシアによってガジェットが遠隔召喚される。さらにはディエチのヘヴィバレルで襲撃が始まる。

それに気が付いたフォワードやヴィータ達はすぐに迎撃を開始する。上空ではゼストと古代ベルカの融合騎『アギト』が現れてリインとユニゾンしたヴィータがゼストと戦闘を始める。

そして場所は変わって機動六課。ガジェットが大量に現れて、その数100000。

士はガジェットが見えるとディケイドに変身する。

ディケイド

「此処から先は行かせねえよ」

そしてディケイドはディエンドライバーを取り出してカードを何枚もスライドする。

「KAMEN RIDE PSYGA RIOTROOPER Z
ERONOS OHJA IXA DRAKE DELTA!」

電子音が流れるとψをモチーフとした白とコバルトブルーの『仮面ライダーサイガ』、量産型の3体の仮面ライダー『ライオトルーパー』、緑のオーラアーマーにゼロガツシャーサーベルモードを構えた『仮面ライダーゼロノス・アルタイルフォーム』、蛇のレリーフがかたどられたデッキにどこか禍々しい蛇を連想する戦士『仮面ライダー王蛇』、白いアーマーを基調とした『仮面ライダーイクサ』、トンボのような戦士『仮面ライダードレイク・ライダーフォーム』、銀のフォントスリムに黒いボディの△を模した『仮面ライダーデルタ』が召喚される。サイガはトンファ―エッジ、ライオトルーパー3体はアクセレイガン、ゼロノス・アルタイルフォームはサーベルからボウガンモードに組み替えたゼロガツシャー、王蛇はベノサーベル、イクサはフォームライドを使ってライジングイクサになってイクサカリバーとイクサライザーを、ドレイク・ライダーフォームはドレイクゼクターを、デルタはデルタムーバーを、ディケイドはライドブッカーガンモードを構えるとガジェットに攻撃を仕掛ける。

1時間後、7割は倒せた（実際は一部が六課へ向かって行った）が召喚した仮面ライダーたちは全滅してしまう。ディケイドはケータツチを取り出すとコンプリートカードに似たカード『エンドカード』をケータツチの装填するとライダークレストをタッチしていく。

「K I V A D E N - O K A B U T O H I B I K I B L A D
E F A I Z R Y U K I A G I T O K U U G A」

電子音は低音でなる。そして最後にディケイドのライダークレストをタッチする。

「E N D K A M E N R I D E D E C A D E」

ディケイドは黒い霧に包まれると黒いボディ、マゼンタの複眼、胸部と肩部にはクウガ、アギト、龍騎、ファイズ、ブレイド、響鬼、カブト、電王、キバの最強フォームのカードが描かれているヒストリーオーナメント。これがディケイドの最強最悪のフォーム『ディケイド・エンドフォーム』となる。そしてディケイド・エンドフォームは龍騎のクレストをタッチするとCのマークをタッチする。

「R Y U K I ! C A L L R I D E S U R V I V E」

電子音が鳴るとディケイド・エンドフォームの隣に龍騎サバイブが召喚される。そのあと、ディケイド・エンドフォームはFをタッチする。

「F I N A L F O R M R I D E r y u r y u r y u R
Y U K I !」

ディケイド・エンドフォーム

「堪える…！」

ディケイド・エンドフォームが龍騎サバイブの背中に触れると龍騎サバイブはどんどん龍の形に変化していき、ドラグレッダーが烈火のサバイブによってもたらされた力で進化した『烈火龍ドラグラン

ザー』と同じ姿になった龍騎サバイブのファイナルフォームライド
『サバイブドラグランザー』になる。

ライドブッカーからカードを取り出すとディケイド・エンドフォー
ムはベルトの右に付いているバックルにカードを装填するとプッ
シュする。

「FINAL ATTACK RIDE r y u r y u r y u
RYUKI！」

電子音が鳴るとディケイド・エンドフォームはサバイブドラグラン
ザーに乗ってサバイブドラグランザーはバイクに変形すると口から
無数の火炎弾をガジェットに放つ『ディケイドファイアーストーム
』が発動してガジェットは爆散してかけらも残さなかった。

ディケイド・エンドフォーム

「六課に行かないと……！」

ディケイド・エンドフォームはそう吐き捨てるとマシンディケイ
ダーに乗って六課に全速で向かう。

六課襲撃

ディケイド・エンドフォームが機動六課に着いたところ、隊舎は火の海だった。周りには無数のガジェットが居て、中心にはシャマルトザフィーラが居た。マシンディケイダーに乗って中心まで来たディケイド・エンドフォームはディケイダーを降りるとシャマルとザフィーラの許に駆け寄る。

ディケイド・エンドフォーム

「2人とも大丈夫か!？」

シャマル

「土君……!」

ザフィーラ

「スマン。守り切れなかった……」

ディケイド・エンドフォーム

「そんなことは良いさ。それより、今の状況を何とかしないと……ヴィヴィオや他の人も心配だ」

「???」

「もう1人増えたか」

声の方にディケイド・エンドフォームが振り向くと、そこにいたのはスカリエツティが製作した戦闘機人のナンバー8『オットー』だった。

オットー

「1人増えたところでもう終わり。僕のIS、レイストームの前では抵抗は、無意味だ」

オットーの手に現れた緑色の球体が閃光を放つ。

シャル

「クラールヴィント、防いで！」

「ATTACK RIDE BARRIER！」

シャルは魔力盾で、ディケイド・エンドフォームはバリアのカードを使ってオットーの放った閃光を防ぐ。その隙にザフィーラがオットーに向かって攻撃をしようとするが、オットーが何者かを呼ぶ。

オットー

「デイド」

すると、ザフィーラの近くに双剣を持ったデイドと呼ばれる戦闘機人が現れる。

デイド

「IS、ツインブレイズ」

その瞬間、ザフィーラの胸に2つの魔力刃が直撃して墜ちる。シャルとディケイド・エンドフォームがザフィーラが落ちてきてぶつかって弾き飛ばされる。それと同時にバリアと魔力盾が消えて、隊舎に閃光が放たれる。そして巨大な爆発が起こる。

オットー

「さようなら」

オットーがそう言うとシャマルとザフィーラに閃光が放たれて大怪我を負って倒れる。

ディケイド・エンドフォーム

「シャマル！ザフィーラ！お前ら……殺すぞ」

ディケイド・エンドフォームの豹変ぶりに2人は驚く。ディケイド・エンドフォームはキバのクレストをタッチするとCのマーク『コールクレスト（今、命名）』をタッチする。

「KIVA！ CALL RIDE EMPEROR」

電子音が鳴るとディケイド・エンドフォームの前にヴァンパイアをモチーフとした右手に魔皇剣ザンバトソードを持ち、黄金の鎧に皇帝を思わせる風格の『キバ・エンペラーフォーム』が現れる。さらにディケイド・エンドフォームはfのクレストをタッチする。

「FINAL FORM RIDE k i k i k i KIVA
！」

ディケイド・エンドフォーム

「堪える……！」

キバ・エンペラーフォームの背中にディケイド・エンドフォームが触れると、キバ・エンペラーフォームは弓のような形になって、ザンバトソードが矢となって、キバットの顔が模造された『エンペラーアロー』に変形する。エンペラーアローを持ちながらディケイド・エンドフォームはカードをバツクルに装填してプッシュする。

「FINAL ATTACK RIDE k i k i k i K I
VA!」

電子音が鳴ると、ディケイド・エンドフォームは矢を引き絞り、オットーとディードを狙い『ディケイドザンバットアロー』を放つも、避けられてそのまま逃げられてしまう。

ディケイド・エンドフォーム

「クソッ!! 隊舎のみんなは!?!」

ディケイド・エンドフォームは火の海と化した六課の隊舎にディケイダーを駆って突入する。

ディケイド・エンドフォーム

「ヴァイス、大丈夫か!?!」

ヴァイス

「なんとか……」

ヴァイスと合流したディケイド・エンドフォーム。そのとき、人間の体とディエンドが融合した姿の少女…いや、ディエンドに変身したルーテシアが来た。

ルーテシアディエンド変身体

「邪魔」

「ATTACK RIDE BLAST」

ルーテシアディエンド変身体は容赦なくディエンドブラストをディケイド・エンドフォームとヴァイスに放つ。ディケイド・エンドフォームは右目に直撃して、ヴァイスは気絶する。

ディケイド・エンドフォーム

「何処まで俺を怒らせるつもりだよ、敵は」

そう言いながらディケイド・エンドフォームはライドブツカーをガンモードにして光弾を撃って試作ディエンドライバーを破壊する。試作ディエンドライバーを破壊されたことでルーテシアは強制的に変身を解かれてしまう。そのとき、召喚獣のガリユーが現れて、ルーテシアを連れて素早く移動する。

ディケイド・エンドフォーム

「待て！」

ディケイド・エンドフォームが2人を追いかけると、すでに多数の人が倒れていた。その時、土の大切な娘が悲鳴を上げる。

ヴィヴィオ

「土パパ！助けて！！」

ディケイド・エンドフォーム

「ヴィヴィオ！」

すぐにヴィヴィオはガリユーによって気絶させられる。

ディケイド・エンドフォーム

「お前ら、絶対に許さねえ！」

ディケイド・エンドフォームはライドブッカードからカードを出してバツクルに装填する。

「FINAL ATTACK RIDE de de de DECADE！」

電子音が鳴ると、ライドブッカードをソードモードにして前方に10枚の3Dカードが現れる。ディケイド・エンドフォームはソードモードのライドブッカードを構えて3Dカードを通り抜けるが、6枚くらい通ったくらいでルーテシアが無数の魔力スフィアを無数に放って直撃する。すると、3Dカードが消えて、ディケイド・エンドフォームが倒れると、ガリユーがディケイド・エンドフォームの右の複眼を思い切り鋭い爪で斬る。そして声にならない悲鳴を上げながらディケイド・エンドフォームは倒れると変身を解除されて傷だらけで、右目から血を大量に流している士となる。

士が最後に見たのは気絶したヴィヴィオを連れて言ったガリユーとルーテシアの姿だった。

その後、目覚めた士は傷ついた右目など気にせずに思いつきり叫ぶ。

士

「う……ウワアアアアアアアアアア……！」

翼、ふたたび

士は何処か見慣れた場所で目覚める。そこは大シヨッカーの本部だった。隣にはクウガに変身する士郎が横たわっていた。

士

「ここは…大シヨッカー？」

死神博士

「お目覚めになりましたか、大首領」

士

「死神博士…：助けてくれてありがとな」

死神博士

「いえいえ、お気になさらず。傷の治療も終わりましたが、右目に切り傷の跡が残っています」

士

「それくらいなら大丈夫だ。俺の服を用意してくれ」

死神博士

「少々お待ちを」

そのあと、着替えてから簡単な食事をとると、士は歪みを出現させて六課に行く。

（機動六課）

隊舎に着いた士は崩れているところだけでもひどいと感じた。

士

「…ッ！」

その時、士の身体にディケイド・エンドフォームに変身した時の負担が来たのか、吐血してしまう。

士

「無茶しすぎたな……」

崩壊した隊舎を少し歩くと、ヴィヴィオが大切にしていたぬいぐるみがぼろぼろに焦げているのを見つける。士はぬいぐるみを拾って少し焦げてるところを払うと悔しがる。

士

「くそ……ヴィヴィオを助けられなかった」

そこに錠剤が入ったカプセルと何かの資料を持って死神博士が現れる。

死神博士

「大首領、やはり敵はスカリエッティが作った戦闘機人のようです。それと以前にやはり大首領とお会いしていたようです」

士

「そうか。そういえばそのカプセルは？」

死神博士

「デイクイドの新フォームに変身した時の負担がそろそろ来るころだと思い、吐血を抑えるための錠剤です」

士

「死神博士、この紙に書いてあることを調べてほしいんだ」

士は死神博士に1枚の紙を渡す。

死神博士

「では、体調に気を付けて下さい」

死神博士は士に戦闘機人の資料と錠剤が入ったカプセルを手渡すと大シヨッカーの本部に戻る。

その夜、士は月を眺めながらエンドカードを見る。

士

「このカードが俺の切り札。なるべく手の内は見せないようにするか」

〈次元航空艦・アースラ〉

士ははやてと一緒に会議室へ向かって行った。

はやて

「そう言えば士君、雰囲気変わったなあ」

士

「まあ、右目の傷跡が残ってるしな。お、会議室に着いたぞ」

会議室に入ると、隊長たちとティアナにキャロ、ヘリパイロットの制服に身を包んだアルトがそろっていた。

はやてや隊長2人の意見などを聞いて方針はスカリエツティに囚われたヴィヴィオとギンガの救出に決定して、それぞれ待機命令が下された。

士

「なあ、フェイト。模擬戦してくれないか？」

フェイト

「どうしたのいきなり」

士

「新しい力を使いこなしたいんだ」

フェイト

「なら協力するよ。ちょっと待ってて」

そのあと、訓練場で2人の模擬戦が始まろうとしている。

「KAMEN RIDE DECADE!」

士はディケイドに変身して、フェイトもすでにバリアジャケットを展開している。そしてディケイドはケータッチを取り出してクレストをタッチする。

「END KAMEN RIDE DECADE!」

ケータッチをバックルにセットしてディケイドはエンドフォームにフォームチェンジする。ディケイド・エンドフォームはライドブッカーソードモードを、フェイトはバルディッシュ・アサルトをザンバーフォームにしてぶつかり合う。

ディケイド・エンドフォーム

「流石はフェイト。隙がないな」

フェイト

「士こそ前より強くなってる」

お互い力任せのつばぜり合いの後、フェイトはプラズマランサーで

ディケイド・エンドフォームの動きを止めようとしたが、意図も簡単に避けられてディケイド・エンドフォームはブレイドのクレストとコールクレストを連続でタッチする。

「BLADE! KAMEN RIDE KING」

電子音が鳴るとディケイド。エンドフォームの隣に黄金の鎧、アーマーの各部にアンデッドレリーフが描かれて右手に重醒剣キングラウザーを持った『ブレイド・キングフォーム』が現れる。そしてディケイド・エンドフォームはFのクレストをタッチする。

「FINAL FORM RIDE b b b BLADE!」

ディケイド・エンドフォーム

「堪える……!」

電子音の後、ディケイド・エンドフォームはブレイド・キングフォームの背中に触れる。すると、ブレイド・キングフォームがどんどん巨大な剣のように変形して、キングラウザーが合体するとブレイド・キングフォームはキングラウザーを模した巨大剣『キングザンバー』となる。さらにディケイド・エンドフォームはライドブッカーからカードを取り出して、バツクルに装填してプッシュする。

「FINAL ATTACK RIDE b b b BLADE
!」

電子音が鳴ると、ディケイド・エンドフォームの前にはスカラベ、イーグル、カプリコーン、コーカサスビートル、ヘラクレスビートルたち上位アンデッドが封印された3dのギルドラウズカードが現れる。フェイトもディケイド・エンドフォームを狙って魔方陣を展開

開するとバルディッシュ・アサルトのカートリッジを3回ロードする。

ディケイド・エンドフォーム

「ディケイドジョーカーー!!!」

フェイト

「トライデントスマッシュャー!!!」

フェイトは魔方陣から金色の集束砲をディケイド・エンドフォームに放つ。それをディケイド・エンドフォームは5枚の3Dカードを通り抜けて光り輝くキングザンバーで集束砲を斬り裂く。そして、爆発が起こってその場には静寂が訪れる。

夜、士は外に出ることが多くなった。理由はグロンギやイマジン達の出現率が高くなってからだ。今日も目の前にはカプリコーンアソデッド、シアゴースト、ムースファンガイア、ラビットオルフェノクが居た。

士

「今回は4体か。変身!」

現れた怪人の数を確認すると士はディケイドライバーを装着してカードを装填してバックルを閉じるとディケイドに変身する。さらにディケイドはカードを3枚取り出すと、ディエンドライバーにスラ

イドさせる。

「KAMEN RIDE INPAR SAGA DELTA!」

電子音が鳴ると、ガゼルのような戦士『仮面ライダーインペラー』と仮面ライダーサガ、仮面ライダーデルタが召喚される。ディケイドもカメンライドしてディケイドブレイドに変身する。インペラーはガゼルスタップを構えてシアゴーストに、サガはジャコーダードットを構えてムースファンガイアに、デルタはデルタムーバーを構えてラビットオルフェノクに、ディケイドブレイドはライドブッカーを構えてカプリコーンアンデッドに攻撃を仕掛ける。

インペラーはガゼルスタップでシアゴーストを刺したり殴ったりして、さらには体術でも攻撃を仕掛ける。サガはジャコーダードットでムースファンガイアを何度も斬る。ムースファンガイアも反撃しようとしてサガに斬りかかろうとしたが、サガはジャコーダードットを鞭状のジャコーダービュートでムースファンガイアの剣を弾くと、剣をすぐに拾ってジャコーダードットと剣でムースファンガイアに連続攻撃を加える。デルタは遠距離でデルタムーバーをブラスターマードにしてラビットオルフェノクを狙い撃ちにする。さらに近距離でデルタムーバーからフォトンブラッド弾を連射したり、パンチやキックでトリッキークな攻撃をする。

「ATTACK RIDE BLAY LOUZER!」

ディケイドブレイドはブレイラウザーを召喚してライドブッカーソードモードと同じタイミングでカプリコーンアンデッドを斬る。しかし、流石は上級アンデッド。強靱な防御で耐えたのだ。

ディケイドブレイド

「あつちはそろそろ終わらすか」

ディケイドブレードがそう呟くとディエンドライバーにカードをスライドさせる。

「ATTACK RIDE CROSS ATTACK!」

電子音が鳴ったその時、インペラーが足にあるガゼルバイザーにカードを装填すると『FINAL VENT』という電子音が鳴って、インペラーの周りにギガゼール、メガゼール、オメガゼールなどのレイヨウモンスターがシアゴーストに次々と攻撃を食らわせて最後にインペラーが膝蹴りをする『ドライブディバイダー』がシアゴーストに直撃して爆散する。

サガはベルトのサガークにウェイクアップフェッスルを吹かせるとジャコードービュートでムースファンガイアを貫くと、上空にキバの紋章を出現させてジャンプをしてキバの紋章を通り抜けてジャコードービュートでムースファンガイアを宙吊りにすると指でジャコードービュートをなぞるとムースファンガイアに魔皇力が送り込まれて『スネーキンデスブレイク』を発動させる。そして魔皇力を送りこまれたムースファンガイアはガラスのように砕け散る。

デルタはデルタドライバーについているミッションメモリーをデルタムーバーにセットするとデルタムーバーの銃身が伸びる。するとデルタは「チェック」とデルタフォンに音声入力すると『EXCEED CHARGE』という電子音が流れる。デルタはラビットオルフェノクにデルタムーバーで撃つと紫の三角錐状の光をラビットオルフェノクに打ち込んで拘束する。そして目標をポイントするとデルタはジャンプして片足での飛び蹴り『ルシファーズハンマー』をラビットオルフェノクに直撃させる。ラビットオルフェノクは△

の文字と赤い炎に包まれて灰になる。

それを見たディケイドブレイドはカードをディケイドライバーに装填する。

「ATTACK RIDE KICK！」

すると、ディケイドブレイドの角部分が紅く発光してカプリコーンアンデッドにローカストキックを決める。さらにもう1枚カードをディケイドライバーに装填する。

「FINAL FORM RIDE b b BLADE！」

電子音が鳴るとブレイドの後ろにギルドラウズカードが出現して、それがブレイドのアーマーにくっつくとアンデッドクレストがアーマーに浮き出て、王者のような黄金の鎧を纏った『ディケイドブレイド・キングフォーム』にフォームチェンジする。さらには重醒剣キングラウザーがディケイドブレイド・キングフォームの右手に現れる。

ディケイドブレイド・キングフォーム

「よし……やっちゃるぜ！」

某カゲキにジユウなアムドライバーの決め台詞を言うとディケイドブレイド・キングフォームはキングラウザーを構えてカプリコーンアンデッドに斬りかかる。流石にキングラウザーのような大剣には耐えられずに斬られてしまう。そしてディケイドブレイド・キングフォームはブレイドのファイナルアタックライドカードをライドブツカーから取り出すと、ディケイドライバーに装填する。

「FINAL ATTACK RIDE b b b BLADE
！」

電子音が鳴ると、ディケイドブレイド・キングフォームの前に5枚のカードが現れてそれを走って潜り抜けると至近距離でカプリコーンアンデッドに黄金に染まった衝撃波『ROYAL STRAIGHT FLASH』^{ロイヤルフラッシュ}を放ってカプリコーンアンデッドは腰のアンデッドバックルが開くと爆発する。そのあと、ディケイドブレイド・キングフォームは変身を解いて士の姿に戻る。

士

「そろそろアースラに戻るか」

そう言うと士はマシンディケイダーに乗って走り出す。

決戦への序章（前書き）

今回、遂に決戦がスタートです！

そして今回外国の仮面ライダーの登場です。ちなみに人格あります。

決戦への序章

次元犯罪者ジェイル・スカリエッティがついに聖王の遺産『聖王のゆりかご』を天空へ浮上させる。その同時期、スカリエッティの手下『ナンバーズ』がクラナガンの各地へ攻撃を開始する。そして機動六課のゆりかご攻略戦も始まるうとしている。

アースラのデッキにはなのは、ヴィータ、フェイト、はやて、士が居た。

士

「皆、絶対終わらせるぞ」

そう言う士はディケイドライバーを取り出してカードをバックルに装填する。

「K A M E N R I D E D E C A D E !」

そのあと、ディケイドはすぐにエンドフォームにフォームチェンジする。5人はゆりかごに飛翔しようとする。

フェイト

「ライトニング1、フェイト・テストロッサ・ハラウオン、行きま
す！」

ヴィータ

「スターズ2、鉄槌の騎士ヴィータ、出る！」

なのは

「スターズ1、高町なのは、行きます！」

はやて

「ロングアーチ1、八神はやて、出ます！」

ディケイド・エンドフォーム

「門矢士……仮面ライダーディケイド、目標を……駆逐する！」

5人は目的の地へと残光を残して飛翔する。

飛翔している時、ディケイド・エンドフォームはあることを決意する。

ディケイド・エンドフォーム

（俺の力は大切なものを守るために破壊をするためにあるんだ。だから俺は……）「全てを破壊してやる！！」

ゆりかごの周りはガジェットと魔導師の戦闘が開始されていた。ディケイド・エンドフォームもガジェットを破壊している。

「ATTACK RIDE BLAST！」

電子音が鳴ると、デイクイド・エンドフォームはディエンドライダーとライドブッカーガンモードを2丁で持ってデイクイドブラストとディエンドブラストをガジェットに直撃させて無数の爆発が起こる。しかし、何度やってもガジェットは減らない。

デイクイド・エンドフォーム

「ならこいつだ!」

デイクイド・エンドフォームはライドブッカーからカメンライドカードを取り出してディエンドライダーにセットして銃口をスライドさせる。

「K A M E N R I D E P S Y G A !」

ディエンドライダーのトリガーを引くとψを模したコバルトブルーと白を基調とした『仮面ライダーサイガ』が出現する。

サイガ

「イツツ、ショータイム♪」

サイガは背中のフライングアタッカーで飛翔するとまるで遊んでいるかのようにガジェットをブースターライフルから放たれる蒼いフトンブラッド弾で狙撃する。

デイクイド・エンドフォーム

「やっちやるぜ!」

デイクイド・エンドフォームはライドブッカーをソードモードにしてガジェットを斬り付ける。その時、1機のガジェットがデイクイド・エンドフォームを撃とうとしていた。が、それは白いドレスを

纏った少女から放たれた桜色の魔力スフィアによって阻止されて、ガジェットは爆散する。

なのは

「土君、大丈夫!？」

ディケイド・エンドフォーム

「大丈夫だ!なのは、来たぜ」

ディケイド・エンドフォームの言葉の後、100機位のガジェットが現れる。なのはは槍のような状態のレイジングハート・エクセリオンを構えて砲撃の態勢に入る。ディケイド・エンドフォームは黄色のカードをベルトの右側についているバツクルに装填するとバツクルをプッシュする。

「FINAL ATTACK RIDE de de de DE
CADE!」

電子音が鳴るとディケイド・エンドフォームの前に10枚の3Dカードが出現する。ディケイド・エンドフォームは3Dカードにライドブッカーガンモードを構える。

なのは

「ディバイン……」

ディケイド・エンドフォーム

「デイメンジョン……」

そしてディケイド・エンドフォームはライドブッカーガンモードのトリガーを引く。

ディケイド・エンドフォーム

「ブラストオオオオオッ!!」

なのは

「バスタアアアアアッ!!」

その瞬間、桜色の巨大な集束砲と3Dカードから放たれるビーム砲がガジェットを一瞬で粉碎する。

ディケイド・エンドフォーム

「流石は管理局の白い魔王だな」

なのは

「魔王じゃないもん!」

その時、ヴィータがゆりかご内部へ続く道を発見したという。

ディケイド・エンドフォーム

「俺は……サイガ、はやてと一緒に外のガジェットをぶっ壊せよ」

サイガ

「OK、ボス!」

サイガははやての方に飛び立つ。

ディケイド・エンドフォーム

「さて、なのは、ヴィータ、行くぞ!」

なのは

「うん、ヴィヴィオを助けなきゃ」

ヴィータ

「なのは、土、行くぞ」

3人はその場から飛翔する。

「ゆりかご内部」

ゆりかご内部に入ったディケイド・エンドフォーム、なのは、ヴィータは通路に降りる。

ディケイド・エンドフォーム

「2人が飛べない……アンチマギリンクフィールドがゆりかご全域に展開されているな」

その時、ガジェットが現れて3人に魔力弾を発射する。

ヴィータ

「此処は任せろー!」

そう言うとヴィータはグラーフアイゼンを構えて一撃でガジェットを葬り去る。さらにデカブツのガジェットが現れたが、シュワルベフリーゲンを放って一気にガジェットを破壊する。

ディケイド・エンドフォーム

「ヴィータ！大丈夫か！？」

なのは

「ヴィータちゃん……あんまり飛ばしすぎると……」

ヴィータ

「ウルセエよ……！センターや後衛の魔力温存も……前衛の仕事のうち何だよ……」

すると3人にゆりかごの駆動炉と玉座の位置のマップが贈られる。

なのは

「逆方向……」

ヴィータ

「なのは、此处からは別行動だ」

ヴィータは二手に分かれて行動しようという。

なのは

「ヴィータちゃん！？」

ヴィータ

「駆動炉と玉座にいるヴィヴィオと……片っぱしめたら止まるかもしれないし止まらないかもしれないんだ。こうしてる間にも外は危なくなってる」

なのは

「でもヴィータちゃん、此处までの消耗が……」

ディケイド・エンドフォーム

「激しすぎるんだから無茶は……」

ヴィータ

「だからあたしが駆動炉に回る。お前らはさつさとヴィヴィオを助けに行つて来い」

ヴィータは笑いながらディケイド・エンドフォームとなのはにヴィヴィオを助けるように言う。

なのは

「でも……！」

ヴィータ

「あたしとアイゼンの一番の得意分野、知ってんだろ？破壊と粉砕。鉄槌の騎士ヴィータと鉄の伯爵グラーファイゼン。砕けねえ物なんぞ、この世に無え」

肩にグラーファイゼンを携えながらヴィータは告げる。

ディケイド・エンドフォーム

「わかったよ。でも、こいつは連れて行け」

というディケイド・エンドフォームはディエンドライバーにカードをスライドする。

「KAMEN RIDE STRIKE！」

電子音が鳴るとディケイド・エンドフォームの前に紫の蛇を模した『仮面ライダーストライク』が現れる。

ヴィータ

「サンキュー、士。一瞬でぶっ壊してお前らの援護に向かってやる。サッサと上昇を止めて、表のはやてに合流だ」

ディケイド・エンドフォーム

「ああ。約束だからな」

なのは

「気をつけてね。絶対にすぐ合流だよ！」

ヴィータ

「当たり前ーだ！」

なのはの言葉に力強く返すと3人は目的の場所に走り出す。

そのころ、ヴィータとディケイド・エンドフォームに召喚されたストライクはデカブツガジェットを破壊した。

ヴィータ

「まだカートリッジは残ってるな。ストライクだったな、まだ行けるな？」

ストライク

「はい、まだ大丈夫です」

ストライクは武器のベノサーベルを持ちながらヴィータの問いに答える。

ザシュツ……！！

その時、ヴィータの胸をステルス状態で見えない何かが刺した。ヴィータを刺した何かはステルス状態を解く。ヴィータはそれを見ると怒りが収まらなくなる。それは8年前になのはを刺して彼女にとつもない怪我を負わせたメカと同タイプだったからだ。

ストライク

「ヴィータさん！」

するとストライクはベルトのアドベントデッキからカードを引いてベノバイザーにベントインする。

「FINAL VENT」

電子音が鳴ると、契約モンスターの内の一体でエイ型のモンスター『エビルダイバー』が現れてストライクはエビルダイバーの背に乗ってそのまま突進する『ハイドベノン』を発動させてそれを喰らったメカは爆発する。

遠くから機械音が流れると今、ストライクが破壊したメカと同タイプの機械が何体も現れる。

ヴィータ

「あの時なのはを墜としたのはてめえらの同類か……！」

ヴィータは自分の血で染まった体を起こすと怒りを込めながら言う。

ヴィータ

「ッざけんなよ……！一機残らずぶっ壊してやる！！ストライク！」

ストライク

「はい！」

ストライクはヴィータに答えるとカードをベノバイザーに2枚装填する。

「STRIKE VENT」

「ユナイトベント」

2回電子音が響くとストライクの手にはメタルホーンという打撃武器が現れて、紫のコブラ『ベノスネーカー』と銀の2足で立つサイ『メタルガラス』とエビルダイバーが融合してキメラ…もしくはキマイラ型の融合獣『獣帝ジェノサイダー』がアドベントされる。ヴィータはギガントフォルムのグラーファイゼンを振り上げて、ストライクはメタルホーンの突起でメカを刺して、ジェノサイダーは巨大な尻尾でメカを複数薙ぎ払う。

『ゆりかご、軌道ポイント到達まであと2時間16分』

次回、『破壊者の決断、そして親子の戦い』。次回に向かってGe
t Ride!

決戦への序章（後書き）

王蛇もといストライクの登場です！彼はJTCじゃなくてベントラでストライクに変身するプライスの人格です。

破壊者の決断、そして親子の戦い

玉座の間、そこにはコンソールパネルを操作しているディエチとクアットロ、玉座に拘束されているヴィヴィオが居た。

ディエチ

「クアットロ、正直な感想言っている？」

クアットロ

「ご自由に」

クアットロは適当な言葉で返す。

ディエチ

「この作戦、あまり気が進まない……」

クアットロ

「あゝら、どうして？」

ディエチ

「こんな小さな子供を使って、こんな大きな船を動かして……そこ
までしないといけないことなのかなあ……技術者の復讐とかそんな
のって……」

クアットロ

「ああ、あれ。あんなのドクターの口先三舌。あんなのでたらめよ」

ディエチ

「そうなの？」

クアットロ

「ドクターの目標は始めから1つだけ。生命技術操作の完全なる完成、そしてそれができる空間作り。このゆりかごはその為の船であり、実現のためのちから。ま、今回の件で何千人が死ぬでしょうけど。ドクターの研究は皆を救うための技術ですもの。」

ディエチはクアットロに聞いても納得できない。

「ATTACK RIDE BLAST！」

電子音が鳴るとディケイド・エンドフォームはライドブッカーをガンモードにしてディケイドブラストを連射して、なのははアクセルシューターでガジェットを蹴散らす。それでも2人が進んでもガジェットがその道をを阻む。

ディケイド・エンドフォーム

「いちいち相手してられるか。なのは！」

なのは

「わかった土君！レイジングハート！」

レイジングハート・エクセリオン

『了解』

レイジングハート・エクセリオンから応答の合図が来ると槍状の部

分から魔力の槍が現れて、ブースターから桜色の対翼が出現する。

なのは

「ACSDライバー！」

レイジングハート・エクセリオン

『了解しました。突撃』

するとなのはは勢いよくガジェットに突進する。デイケイド・エンドフォームはそれを見るとベルトの右側のバックルにカードを装填してプッシュする。

「FINAL ATTACK RIDE de de de DE
CADE！」

そしてデイケイドの前に無数の3Dカードが現れてライドブッカーソードモードを構えると3Dカードに突入してスピードを上げる。そしてデイケイド・エンドフォームは終焉の斬撃『エンド・デイメーションスラッシュ』を決めて、なのはは一気にガジェットを突き抜ける。一閃、2つの閃光が消えるとガジェットは全機爆発する。

なのはのバリアジャケットは肩などから血が出て、白いバリアジャケットを赤黒く染め上げ、頬からも血が出ている。デイケイド・エンドフォームも仮面越しだから見えないが、吐血した。まだエンドフォームの負担は少しだが残っている。

「FINAL FORM RIDE fa fa fa FAIZ
！」

電子音が鳴るとファイズフォンのプッシュ音が鳴り、デイケイド・エンドフォームの身体がファイズに変化して最強フォームである『

ファイズ・ブラスターフォーム』にフォームチェンジして、黒かったライダースーツを赤に染め上げて、背中のブラッディ・キャノンを飛行状態にする。

そのまま、なのはは周りに魔力弾を生成、ディケイドファイズ・ブラスターフォームはファイズブラスター・フォトンバスターモードを構えて飛行しているとレイジングハート・エクセリオンから玉座の間まであと少しだと言われて2人はスピードを上げる。

ディケイドファイズ・ブラスターフォーム

「よし、なのは、このまま突っ切るぞ」

なのは

「うん。ヴィヴィオ、もう少しだから頑張ってね」

ゆりかこの廊下でディエチがイノーマスカノンのエネルギーチャージをしている。ふと、モニターを見るとディケイドファイズ・ブラスターフォームとなのはが映っていた。

ディエチ

「あの小さい子のお父さんとお母さんだっけ……あんたたちには恨みはないけど」

一瞬ためらおうとしたが、砲撃を撃とうとする。

ディエチ

「5、4、3、2、1」

砲撃を撃とうとしているディエチに気づいてディケイドファイズ・ブラスターフォームはカードをバツクルにセットしてプッシュする。

ディケイドファイズ・ブラスターフォーム

「フォトン……」

なのは

「エクセリオン……」

ディエチ

「0」

ディケイドファイズ・ブラスターフォーム&なのは

「バスタアアアアアアッ……!!」

同時にビームキャノン砲、エクセリオンバスター、赤色のフォトンブラッド砲『フォトンバスター』がぶつかり合う。だが、いまだにぶつかりあったままだった。ディケイドファイズ・ブラスターフォームは『5214』とファイズブラスターにコードを入力するとエンターキーを押す。

「FAIZ BLASTER DISCHARGE」

すると、背中のブラッディ・キャノンが砲撃モードに変化してフォトンブラッド弾を打ち出す。

なのは

「ブラスターシステム……リミット1、リリース!」

レイジングハート・エクセリオン

『BLASTER SET』

なのは

「ブラスター…シュート!!」

なのははブラスターシステムの解除をしてエクセリオンバスターに魔力を送り込んで威力を上げる。

そしてエクセリオンバスターとフォトンバスターがディエチの放った砲撃を弾き飛ばしてディエチもエクセリオンバスターを喰らって吹き飛ばされる。

ディケイドファイズ・ブラスターフォーム

「ガハッ!」

ディケイドファイズ・ブラスターフォームはその場に倒れてエンドフォームのディケイドに戻る。

なのは

「土君!」

ディケイド・エンドフォーム

「それより、あいつにバインドを」

なのははディケイド・エンドフォームに言われたとおり、ディエチをバインドで拘束する。

なのは

「じつとしてなさい。突入隊が貴女を確保して、安全な場所まで護送してくれる」

同時にレイジングハート・エクセリオンがイノーマスカノンをバインドで縛る。

ディケイド・エンドフォーム

「この船は……俺たちで停止させる！」

2人は逆方向に飛翔する。ディエチはただ黙って見ているしかなかった。

2人は廊下を滑空する。その時、なのはが血が出ている左手を抑える。

レイジングハートエクセリオン

「マスター……」

ディケイド・エンドフォーム

「なのは、大丈夫か」

なのは

「平気。レイジングハート、ブラスターモードはこのまま維持。急ぐよ、土君、レイジングハート」

ディケイド・エンドフォーム

「ああ。俺の力は人を救うためにある破壊の力。だから俺は破壊の力を使ってヴィヴィオを助ける」

それは、破壊者が守るべきものを本当に見つけた瞬間だった。

く玉座の間く

部屋には拘束されているヴィヴィオとモニター画面を見て高笑いしているクアットロがいるだけだった。

クアットロ

「なーんだ、ブラスターシステムやらブラッディキャノンシステムなんて名前が付いてるからどんなハイテクかと思ったら、馬鹿らしい。ねえ陛下、貴女のパパとママはそうとうおバカさんですよ」

クアットロはヴィヴィオを撫でようとする。すると、扉が桜色と赤い粒子砲が扉を貫く。出てきたのはなのはとファイズ・ブラスターフォームのファイナルフォームライド『ブラスターバースト』でのファイナルアタックライド『ディケイドブラスター』を使って扉をぶっ放したディケイド・エンドフォームの姿があった。ブラスターバーストは消える。

ディケイド・エンドフォーム

「お前みたいな汚れた奴がヴィヴィオに触れるな！」

クアットロはいつも通りな感じで「いらっしゃい」と2人に言う。

クアットロ

「お待ちしてました」

デイクイド・エンドフォームとなのはは揃ってクアットロを睨みつける。

クアットロ

「こんなところまで無駄足御苦労さま。さて、各地で貴方たちのお仲間は大変なことになってますよ」

すると、フォワードたちやフェイト、サイガ&はやて、ストライク&ヴィータの戦闘映像がモニターに映し出される。

なのは

「大規模騒乱罪の現行犯で、あなたを逮捕します。すぐに騒乱の停止と武装の解除を」

クアットロ

「仲間の危機と自分の子どものピンチにも顔色1つ変えずにお仕事ですか。いいですね、その悪魔染みた正義感」

デイクイド・エンドフォーム

「違う！なのははそんな奴じゃない！」

なのは

「土君……！」

ディケイド・エンドフォームはクアットロの意見を否定する。

ディケイド・エンドフォーム

「最初に言っておく、でもなのはは悪魔じゃなくて魔王だ！」

が、あつさり間違い（？）を訂正する。

なのは

「土君！私、悪魔や魔王じゃないもん！」

ディケイド・エンドフォーム

「わかったからアクセルシューター撃とうとするのはやめて！」

騒動がおさまり、本題に入る。

そして、ディケイド・エンドフォームはライドブッカーガンモードを、なのははアクセルシューターをクアットロに放つ。しかし、実態じゃなかったのか、クアットロの幻影らしきものは消える。

クアットロ

「でもー、これでもまだ平然としていられますう〜？」

クアットロがそう言うのと玉座に電流が流れてヴィヴィオが苦しみます。

ディケイド・エンドフォーム　なのは

「ヴィヴィオー！！」

いつまでも電流がヴィヴィオの身体に流れて、2人が助けに行こうとすると虹色の魔力光に吹き飛ばされてしまう。

クアットロ

「良いこと教えてあげる。あるときディケイドだっけ？あなたが相殺したディエチの砲、たとえそれが直撃しても陛下は死なない。それが古代ベルカの王族が持つ固有スキル『聖王の鎧』。レリックとの融合を経てその子は力を完全に取り戻す。古代ベルカの王族は、自らその身体を作り変え究極の生態兵器・レリックウェポンとしての力を」

ヴィヴィオ

「パパ！ママ！」

なのは

「ヴィヴィオ！」

ディケイド・エンドフォーム

「今助ける！」

ディケイド・エンドフォームはヴィヴィオの方に駆けよつとするが、虹色の魔力光に吹き飛ばされる。

クアットロ

「すぐに完成しますよ。私たちの王が。ゆりかごの力を、無限の力を受けて究極の戦士を此処に」

ヴィヴィオ

「土パパア！なのはママア！」

ヴィヴィオは泣き叫んでディケイド・エンドフォームとなのはの名前を呼ぶ。

なのは

「ヴィヴィオ！」

デイケイド・エンドフォーム

「ヴィ、ヴィヴィオ……」

そして部屋全体に虹色の魔力光が覆われる。

光が消えるとクアットロがモニター越しにヴィヴィオに何かを吹き込んでいた。

そして虹色の光が漆黒に染まるとヴィヴィオの身体は19歳くらいの体長になっていて、髪型はなののようなサイドポニーになり、真っ黒なのはと同じようなバリアジャケットがヴィヴィオの身体に纏われる。漆黒の光が消えるとそこにいたのはヴィヴィオじゃなく、聖王ヴィヴィオだった。

聖王ヴィヴィオ

「あなたたちが……ヴィヴィオのパパとママを何処かにさらった……」

なのは

「ヴィヴィオ、違うよ。私だよ！なのはママだよ！」

デイケイド・エンドフォーム

「思い出せヴィヴィオ。土パパだぞ」

聖王ヴィヴィオは2人を拒絶するような表情になる。

聖王ヴィヴィオ

「違う！ウソつき。あなたたちなんか……パパとママじゃない！」

次回、『決戦』。次回に向かってGet Ride！

決戦

聖王ヴィヴィオ

「ヴィヴィオのパパとママを……返して!!」

白い古代ベルカ式の魔方陣を展開すると、虹色の魔力光が突風のよ
うに吹く。するとモニターが現れてクアットロが喋り始める。

クアットロ

「その子を止めることができれば、このゆりかごも止まるかもしれ
ませんねえ」

クアットロの言葉なんか聞かず、なのはとディケイド・エンドフォ
ームは武器を構える。

なのは

「レイジングハート!」

レイジングハート・エクセリオン

『W・A・Sフルドライビング』

すと、なのはの足元にミッドチルダ式の魔方陣が展開される。

クアットロ

「さあ、親子で仲良く殺し合いを……」

クアットロは不敵な笑みを浮かべる。

聖王ヴィヴィオ

「パパを、ママを…返して！」

ディケイド・エンドフォーム

「この駄々っ子！」

なのは

「ブラスター……リミット2！」

そして、最終決戦が始まろうとしていた。

〈最深部〉

クアットロはピアノ型のコンソールパネルを操作している。

クアットロ

「どの子も使えない子ね……」

するとメガネを外して、髪止めも外す。

クアットロ

「ま、私がいれば何とかになります。そうですね、ドクター」

クアットロは自分の腹を静かに触れる。

そのころ、ヴィータとストライクは駆動炉まで来ていた。そしてヴィータは膝をつく。彼女の体は血で染まっており、刺傷も深い。

ストライク

「ヴィータさん……」

ヴィータ

「大丈夫だ。グラーフアイゼン…お前も、大丈夫か」

グラーフアイゼン

『問題ありません』

ヴィータは立ちあがる。

ヴィータ

「こんなところで寝てられねえ。皆を…なのはを助けるんだ」

ストライク

「それでは、行きましょう」

そして2人は駆動炉の中心までたどり着く。

ヴィータ

「アイゼン、リミットブレイク……行けるな？」

そしてグラーフアイゼンはカートリッジを3回ロードする。ストライクもアドベントカードをベントインする。

「FINAL VENT」

2人は最後の力を振り絞って攻撃したが、それでも駆動炉は破壊されない。そして駆動炉の防衛システムが作動してストライクとヴィータは一気に駆逐する。

玉座の間、激しい戦闘がおこなわれて、なのはとディケイド・エンドフォームは聖王ヴィヴィオの攻撃で壁に埋もれるほど力強く吹き飛ばされてしまう。

なのは

「ヴィヴィオ……」

ディケイド・エンドフォーム

「ヴィヴィオ……やめろ……」

聖王ヴィヴィオ

「私の名を……気安く呼ぶな！」

すると、聖王ヴィヴィオの手に虹色の魔力スフィアが生成されてなのはとディケイド・エンドフォームに放たれて2人は被弾する。と思われたが、素早く聖王ヴィヴィオの後ろに回り込む。

レイジングハート・エクセリオン

『CHAIN BIND』

「ATTACK RIDE BIND！」

電子音が鳴ると魔力でできた鎖とビームでできたバインドに聖王ヴィヴィオは拘束されてしまう。

聖王ヴィヴィオ

「こんなの……！」

すると、聖王ヴィヴィオは力だけでバインドを引きちぎる。そして魔力スフィアを4つ生成して2つずつに分けてなのはとディケイド・エンドフォームに被弾させる。2人はとっさに防ぐが、バリアが破壊されて吹き飛ばされてしまう。さらに追い打ちをかけようとして、聖王ヴィヴィオはいつもより一回り大きい魔力弾を生成して放つ。

「ATTACK RIDE BARRIER！」

魔力弾は透明のバリアによって防がれる。

レイジングハート・エクセリオン

『W・A・Sエリア2終了しました。エリア3に入ります。あともう少し』

その時、聖王ヴィヴィオに後ろに回り込まれて、魔力弾を撃たれるがジャンプで避ける。

なのは

「ブラスター2！」

レイジングハート・エクセリオン

『BLASTER SECOND』

魔方阵から桜色の魔力光があふれだすと、衝撃波が発動して聖王ヴィヴィオを吹き飛ばす。そしてブラスタービットというGNファングのようなビットが現れて聖王ヴィヴィオにストラグルバインドで拘束する。

なのは

「ブラスタービット、クリスタルケージ！」

ブラスタービットからピラミッド型の結界のようなものに閉じ込める。そしてディケイド・エンドフォームがディエンドライバーとライドブッカーガンモードを構えると同時になのはも魔方阵を足元に展開して砲撃の態勢に入る。

聖王ヴィヴィオ

「これは……………もう覚えた！」

聖王ヴィヴィオはクリスタルケージでストラグルバインドを引きちぎる。さらにはクリスタルケージを内面から殴って使用者の身体に負担を掛けさせる。

ディケイド・エンドフォーム

「なのは……！」

そしてクリスタルケージが碎けて聖王ヴィヴィオはなのはにパンチをしようとするが、ディケイド・エンドフォームがとっさにファイナルフォームライドさせたサバイブドラグランザーによるファイアウォールでガードされる。

駆動炉、力尽きたように横たわるヴィータとストライクがいた。だが2人はすぐに立ち上がって駆動炉に目を向けると駆動炉に向かってゆっくりと歩く。

「FINAL VENT」

ストライクは残ったベノスネーカーの紋章が刻まれたカードをベノバイザーに装填する。そしてベノスネーカーとの連携技『ベノクラッシュ』を発動させて駆動炉の障壁に連続蹴りをする。しかし、駆動炉はビクともせずストライクは消えてしまう。

ストライク

「ヴィータさん、すいません……」

と言に残して。

ヴィータ

「ストライク！クソ！うらあああっ！！」

グラーフアイゼンを力任せに叩きつけるが何も起こらない。

ヴィータ

「こいつをぶっ壊さなきゃ……皆が困るんだ！はやてのことも……なのなのことも、土のことも！守れねえんだ！！こいつをぶち抜けなきゃ意味ねえんだ！」

の息はすでに上がっている。3人の疲れはよっぽど激しい戦闘がおこなわれていたことを物語っている。その時、魔力スフィアが最深部の特定に成功した。

レイジングハート・エクセリオン

『W・A・S成功しました。座標特定、距離算出しました』

なのは

「見つけた……！」

ディケイド・エンドフォーム

「やっとか………！」

ブラスタービットが4つに増えて聖王ヴィヴィオの周りを旋回するとストラグルバインドで拘束をする。

クアットロはモニター越しに驚いている表情を見る。

クアットロ

「エリアサーチ！ま、まさかずっと私を探していた！？で、でも此処の最深部、此処まで来れる人間なんて………！！」

その時、ディケイド・エンドフォームがファイズ・ブラスターフォームを召喚してブラスターバーストに変形させるとカードをバックルに装填してプッシュする。

「FINAL ATTACK RIDE f a f a f a F A I Z！」

電子音が鳴るとディケイド・エンドフォームは壁を狙ってブラスタ

ーバーストを構える。なのはも足元に魔方阵を展開して砲撃を放とうとしている。

クアットロ

「壁抜き！？ま、まさかそんなばかげたことが……！」

クアットロは4年前になのはが巨大な像を砲撃で破壊したのを思い出す。

レイジングハート・エクセリオン

『通路の安全確認、ファイアリングロック解除します』

なのは

「ブラスター3！デイベイン……」

その間にレイジングハート・エクセリオンのカートリッジを何度もロードする。

デイケイド・エンドフォーム

「デイケイドブラスタアアアアアアア！……」

なのは

「バスタアアアアアアアア！……」

巨大な紅い粒子砲と桜色の集束砲がゆりかご内部の壁を貫いて最深部まで壁抜きをしようとする。その時、クアットロの悲痛な叫びとともに2つの砲撃が最深部の部屋に到達する。そしてクアットロは力尽きて気絶してしまう。

拘束されていた聖王ヴィヴィオはバインドを引きちぎって頭を押さ

える。

なのは

「ヴィヴィオ！」

士

「ヴィヴィオ！」

なのはと変身を解除した士が聖王ヴィヴィオに駆け寄る。

ヴィヴィオ

「士…パパ、なのは…ママ……だめ、逃げて！」

ヴィヴィオは身体だけが操られたように士となのはを衝撃波で吹き飛ばす。

次回、『決着、そしてファイナルバトル』。次回に向かってGet

Ride!

決戦（後書き）

次回でヴィヴィオとの決着がついてアイツがついに……

次回の話は置いて、皆さんに質問です。なのは意外のキャラクターをクウガからキバまでの仮面ライダーに変身させるとしたらどうしますか？なのはディケイド&Wの映画に出てくるキバーラなのです。理由は管理局の白い悪魔もとい魔王だからです。こんな質問に答えてくれる人がいたら助かります……

では次回！

決着、そしてファイナルバトル（前書き）

とうとう最終決戦……と思いきや、この小説はまだ続きます。

決着、そしてファイナルバトル

聖王ヴィヴィオ……いや、本来の意志が戻ったヴィヴィオが自身の意志と反してなのは土に攻撃をする。

ヴィヴィオ

「ダメなの……！」

刹那、ヴィヴィオの足元から灰色のオーラが部屋を覆い尽くす。

ヴィヴィオ

「……ヴィヴィオ、もう……帰れないの……！」

ヴィヴィオは泣きながら喋る。土なのははヴィヴィオの言葉に驚く。

ヴィヴィオ

「ダメなの……もう止められない！だから私から離れて！」

土

「自分で止められないなら、俺たちが止めてやる！変身！」

土はケータッチが付いたディケイドライバーを腰に装着してケータッチの画面にあるディケイドのクレストをタッチする。

「END KAMEN RIDE DECADE！」

当たりに低音の電子音が響くと、土の身体がディケイドのライダースーツに包みこまれて胸と両肩に9つのカードがセットされたヒス

トリートーナメントが追加されてディケイド・エンドフォームに変身してカードを装填して飛行モードになる。

ディケイド・エンドフォーム

「ハアッ!!」

なのは、ディケイド・エンドフォーム、ヴィヴィオの3人が上空で肉弾戦の攻防を繰り返す。そしてヴィヴィオが虹色の巨大な魔力スフィアを生成するとなのはもレイジングハート・エクセリオンを構成して砲撃の態勢に入り、ディケイド・エンドフォームもカードをバツクルに装填してプッシュする。

「FINAL ATTACK RIDE de de de DE
CADE!」

電子音が響くと、ディケイド・エンドフォームの前方にヴィヴィオをロックするように10枚のカードが現れてなのはとヴィヴィオのデバインバスターとディケイド・エンドフォームのエンド・デイメンジョンブラストが至近距離でぶつかり合う。

なのは

「ヴィヴィオ!今助けるから!」

ディケイド・エンドフォーム

「絶対に助け出す!」

ヴィヴィオ

「ダメなの!止められない!」

ディケイド・エンドフォーム

「ダメじゃねえ!!」

なのは

「諦めないで、ヴィヴィオ!」

その言葉を合図になのははレイジングハート・エクセリオンのカートリッジを一回ロードして、ヴィヴィオはディバインバスターに魔力をさらに込める。ディケイド・エンドフォームはディエンドライバーを使つてディメンジョンシュートを放つ。だが、ぶつかり合っていた集束砲と粒子砲は相殺されてヴィヴィオはクロックアップ並みの素早さでなのはとディケイド・エンドフォームの後ろに回り込んで魔力を纏ったナツクルダスターで攻撃する。ディケイド・エンドフォームはアタックライドでバリアを召喚し、なのははプロテクションを作動させるもヴィヴィオの凄まじい力でプロテクションとバリアは碎け散つて2人は勢いよく通路に叩きつけられてしまう。

ヴィヴィオ

「もう……来ないで……!」

ヴィヴィオは2人に静かに告げる。2人はそれぞれの武器を支えにして立ちあがる。

ヴィヴィオ

「わかったの私。もう、ずっと昔の人のコピーで……土パパとなのはマ……土さんとなのはさんも……フェイトさんも……本当のパパとママじゃ、ないんだよね。この船を飛ばすためのただのカギで、玉座を守る生きてる兵器……!」

ディケイド・エンドフォーム

「ヴィヴィオ……!」

なのは

「ちがうよ……」

ヴィヴィオ

「ホントのパパとママなんて、元から居ないの。守ってくれて、魔法と戦闘のデータ収集をさせてくれる人……探してただけ！」

ヴィヴィオは涙を流して自身の気持ちを2人に伝える。

なのは

「違うよ！」

ディケイド・エンドフォーム

「お前は兵器なんかじゃない！」

ヴィヴィオ

「違うよ！悲しいのも、痛いのも全部偽物の……作りもの。私は……！この世界に居ちゃいけない子なんだよ！」

なのはとディケイド・エンドフォームは首を横に振ってヴィヴィオの言葉を否定する。

なのは

「違うよ。生まれ方は違ってても、今のヴィヴィオは……そうやって泣いてるヴィヴィオは偽物でも作りものでもない！」

ディケイド・エンドフォーム

「それにこの世界に居たらだめなのは俺だ。この世界に俺が存在しているところの世界は壊れる。でも俺はヴィヴィオやなのは、フェイ

ト達や機動六課のみんなと一緒に居たい！」

なのは

「それに、甘えん坊ですぐ泣くのも、土君や私にすぐ甘えるのも私と土君の大事なヴィヴィオだよ！」

そしてデイケイド・エンドフォームとなのはヴィヴィオに向かって歩き始める。ヴィヴィオは自分の意志に反して身構える。

なのは

「私はヴィヴィオの本当のママじゃない。これから本当のママになれるように努力する」

デイケイド・エンドフォーム

「俺もヴィヴィオのパパじゃないけどさ、ヴィヴィオ、本当のパパになりたい」

一息つくと2人は同時に言う。

デイケイド・エンドフォーム&なのは

「だから、居ちゃいけない子なんて言わないで！（言っなよ！）」
「」

2人は泣きながらヴィヴィオに本当の気持ちを伝える。

デイケイド・エンドフォーム

「だからさ、パパとママに本当の気持ち、教えて」

ヴィヴィオ

「私は……私は、土パパとなのはママのことが大好き……だから……」

…パパとママとずっと一緒に居たい！パパ、ママ、助けて！」

ヴィヴィオは必死で本心を言い、助けを求めてくる。

なのは

「助けるよ」

ディケイド・エンドフォーム

「娘を助けるのは当たり前だからな」

なのはは足元に魔方陣を展開させて、ディケイド・エンドフォームはバインドのカードを使ってヴィヴィオを拘束する。

なのは&ディケイド・エンドフォーム

「何時だつて……どんな時だつて！」

なのはは上空へ上がってブラスタービットが全てヴィヴィオに狙いを定める。それを合図に最大の砲撃を放つために魔力エネルギーをレイジングハート・エクセリオンの先端に集める。ディケイド・エンドフォームもライドブッカーからファイナルアタックライドカードを取り出す。

なのは

「ヴィヴィオ、ちょっとだけ痛い我慢できる？」

ヴィヴィオ

「うん……！」

ディケイド・エンドフォーム

「それでこそ俺たちの娘だ」

ディケイド・エンドフォームはカードをベルトの右についているバツクルに装填してプッシュする。

なのは

「全力……」

ディケイド・エンドフォーム

「破滅……」

なのは

「全開……」

ディケイド・エンドフォーム

「一閃……」

「FINAL ATTACK RIDE de de de DE
CADE!」

なのははレイジングハート・エクセリオンをヴィヴィオに狙いを定めて構え、ディケイド・エンドフォームは10枚のカードが前方に出現すると、キックの態勢に入る。

なのは

「スターライト………ブレイカアアアアアアアア……」

ディケイド・エンドフォーム

「エンド……デイメンジョンブレイカアアアアアアア……」

その瞬間、ヴィヴィオに6つの巨大な桜色の砲撃『スターライトブ

レイカー』とディケイド・エンドフォームの最強必殺技『エンド・デイメンジヨンブレイカー』が放たれてヴィヴィオの身体からレリックが分離される。

なのは

「ブレイク・シュート!!!」

ディケイド・エンドフォーム

「アルティメット・ブレイク!!!」

なのははスターライトブレイカーに魔力を集中的に上昇させてディケイド・エンドフォームはカードを増やしてキックの力とスピードを底上げする。ヴィヴィオの身体から分離されたレリックが粉々に砕けるとともに閃光が部屋を包みこむ。

ディケイド・エンドフォームとなのはは立ち上がると倒れているヴィヴィオの許に駆け寄ろうとする。

なのは&ディケイド・エンドフォーム

「ヴィヴィオ!」

ヴィヴィオ

「来ないで!一人で立てるから……!」

ヴィヴィオが立ちあがると2人はヴィヴィオを抱きしめる。だが、

その時灰色のカーテンのような歪みから銀色の装甲をした怪人に似た仮面ライダーが現れる。ディケイド・エンドフォームはその仮面ライダーを知っていた。なぜなら以前、自分の世界で妹・小夜の執事をしており、自分を蹴落として大ショッカーの大首領になった……

ディケイド・エンドフォーム

「創世王、シャドームーン!!」

シャドームーン

「ディケイド!なぜここに!」

すると、歪みからシャドームーンを追ってきた青年が現れる。

???

「見つけたぞシャドームーン!」

ディケイド・エンドフォーム

「ひろ、なんでここに……」

ひろ

「士!!シャドームーンを追って来てみたんだけど……お前も前の俺みたいになってるな」

ディケイド・エンドフォーム

「なんか言ったか?」

シャドームーン

「「う」ちや「う」ちやうるさいぞ!」

シャドームーンは手に持っていた剣をひろに投げる。しかし、ディ

ケイド・エンドフォームがひろをかばってケータッチを破損させて
エンドカードが破れる。

ディケイド

「くそ……」

ひろ

「士！俺も……変身！」

「FINAL KAMEN RIDE DECADE！」

ひろは通常のコンプリートフォームとは異なるディケイド・コンプリートフォームに変身する。

シャドームーン

「シャドーキック……！」

ディケイド

「いきなり終わらせる気か。ひろ、行くぞ！」

ディケイド・コンプリートフォーム

「ああ！」

2人はカードをバツクルに装填する。

「FINAL ATTACK RIDE DECADE！」

電子音が鳴るとディケイドとディケイド・コンプリートフォームはシャドームーンを迎え撃つようにダブルディメンジョンキックを放つ。そして巨大な爆発が起こる。

あとに残ったのは戦闘で作られたクレーターなどとヴィヴィオだけだった。

次回、『舞い戻ってきた世界』次回に向かってGet Ride!

決着、そしてファイナルバトル（後書き）

次回からは新ステージです。お楽しみに。

宏明さん、ひろを貸して下さいありがとうございます。ひろの出番はもうないので……ご了承お願いします。

舞い戻ってきた世界（前書き）

今回は短いです。

舞い戻ってきた世界

なのはは夢……いや、ヴィジョンを見ていた。それは荒野で土が変身する仮面ライダー・ディケイドに向かってガタツクや電王・ソードフォームにカリス、コーカサス、ザビー、ライオトルーパーの軍勢がディケイドに攻撃を仕掛ける。しかし、ディケイドはバリアのカードを使って攻撃を全て防ぐと、ライドブッカードをガンモードにしてデイメンジョンブラストやディケイドブラストを放って自分以外の仮面ライダーを倒す……いや、破壊する。

すると、ヴィジョンが突然変わってクウガ、キバ、龍騎、ブレイド、ファイズ、アギト、電王、カブト、響鬼の9つの世界、ネガの世界、ディエンドの世界、RXの世界、アマゾンの世界の映像がなのはの頭に流れ込む。

そして工場らしき場所の跡地で、ぼろぼろのドレスを着てなのははその場所を呆然と見ていた。刹那、ディケイドが姿を現してそれを合図に、アギト・グランドフォーム、龍騎、ファイズ、ブレイド、響鬼、カブト・ライダーフォーム、電王・ソードフォーム、キバ、黒い目のクウガ・アルティメットフォーム、ディエンドが現れて戦いを始める。なのははビーム弾が飛び交う戦場をただ見ていた。そこに帽子をかぶった中年の男性・鳴滝が現れる。

鳴滝

「初めまして、私は鳴滝という。ディケイドは全ての世界を破壊する」

なのは

「違う！鳴滝さん、土君は破壊者じゃありません。むしろその逆、

救済者です。ライダーたちを守ってるんです！」

鳴滝の言葉を否定してなのは反論する。

鳴滝

「君は何もわかっていない。彼の通った後に残るのは…ライダーの屍だけだ……！」

鳴滝は皮肉そうにディケイドを見つめながらなのはに言う。

なのは

「違う！士君はそんな人じゃないよ……！」

その時、ディエンドがディケイドの前に現れる。

ディエンド

「士」

刹那、ディエンドはディエンドライバーのトリガーを引いてディケイドに発砲する。そこでヴィジョンは途切れる。

目覚めたなのはは見知らぬ場所……光写真館でヴィジョンを思い返す。

士

「俺がどうしたって？」

その時、士となのはが以前出会い、紅き戦士『仮面ライダークウガ』
に変身する茶髪の少年『衛宮士朗^{えみやしろう}』がいた。

なのは

「何でもないよ……」

なのははその場から出て行くとする。ふいに士朗に「士の夢でも見てたのか？」と聞かれると振り向かずには否定する。

次回、『ライダー大戦・序章』。次回に向かってGet Ride
！

舞い戻ってきた世界（後書き）

NEWSステージはディケイド本編30話です。なんでこうなったか
というと、おもしろそうだったからです！

次回はブレイドとキバが……お楽しみに！

ライダー大戦・序章（前書き）

OP『ACTION・ZERO』

ライダー大戦・序章

何処かの荒野、燕尾服を纏った士となのは、士朗が歩いていた。沈黙の中、士朗が沈黙を破る。

士朗

「そういえば士のその服何なんだ？あ！結婚でもするのか？」

士

「なのはとないが、葬式かもしれないぞ」

なのは

「不吉なこと言わないでよ……」

士

「ごめん……気を付ける」

その後、少しの沈黙の後、士が口を開く。

士

「これが俺たちの最後の旅になる。なぜかそんな気がするんだ……」

士の言葉になのはは悲しい表情をする。自分の好きな人にそんなこととは言ってほしくないからだ。すると、士朗が何かを発見する。

士朗

「おい、士！なのはちゃん！あれを見る！」

士朗が指をさした方向に2人は目を向けると、そこには純白の騎士を思わせるような仮面ライダー『仮面ライダーイクサ』がいた。

「RI・SI・N・G」

突如、電子音が鳴ると、イクサの装甲がオートパージして身軽になり、蒼い装甲のライジングイクサにフォームチェンジする。そしてクローバーを模した『仮面ライダーレンゲル』が専用の槍型のラウザー『レンゲルラウザー』を構えて向かってくと迎え撃つ。

他の場所ではチェスのキングの駒を模した『仮面ライダーサガ』とクワガタとダイヤを模した『仮面ライダーギヤレン』が戦闘を行っていた。そして高台では『あかね色に染まる坂』の主人公でブレイドの世界でブレイドに变身していた『ながせしゅんいち長瀬準一』と『D・Gray-man』の主人公でキバの世界でキバに变身する『アレン・ウオーカー』が対峙していた。

士

「準一……アレン……」

準一&アレン

「「变身」」

「TURN UP」

準一はブレイバツクルのターンアップハンドルを操作して射出されたオリハルコンエレメントを潜るとブレイドに变身する。一方のアレンはキバットをキバットベルトの止まり木にセットするとガラスが碎ける音が鳴ってアレンはキバに变身する。变身した彼らは武器

を携えて戦闘を始める。

士朗

「どうなってるんだ！？ライダー同士が戦ってるなんて！」

士

「それだけじゃねえみたいだな」

士がいう方向にはディアーンデッドやリザードアンデッド、バッドアンデッドのアンデッド軍団とファンガイアのクイーン『ソーンファンガイア』率いるファンガイア軍団もそれぞれ戦闘を始めている。

なのは

「アンデッドとファンガイアが戦ってるなんて……！？」

そしてキバ、サガ、ライジングイクサが並ぶとその近くにファンガイアが並ぶ。

士朗

「しかも、ファンガイアがキバの仲間になっている」

士

「ブレイドと、アンデッドもな」

ブレイド、ギャレン、レンゲルが武器を構えながら並ぶとアンデッドたちもブレイドの隣に並ぶ。

なのは

「これじゃあまるで、キバの世界とブレイドの世界の戦い……」

士

「そう言えば、栄二郎さんが言ってたな」

士は写真館の店長・光荣次郎の言葉を正しく言う。

士

「ライダー大戦ってな。そう、此处は……ライダー大戦の世界……！」

士は皮肉に呟く。『ライダー大戦の世界』と断定して。

再び戦闘は再開されてキバたちとブレイド達はぶつかり合う。

ライジングイクサが他のアンデッドと戦っていると、ディアアアンデッドとリザードアンデッドとブレイドがライジングイクサの後ろに立つ。ブレイドはブレイラウザーのオーブントレイを展開して、スピード2のカード『スラッシュリザード』とスピード6のカード『サンダーディアード』の2枚をスラッシュリーダーにラウスする。

「SLASH・THUNDER LIGHTNING SLASH」

ラウスカードをラウスするとブレイラウザーに2体のアンデッドが取り込まれて青白い雷を纏わせる。

ブレイド

「ウエエエエー！！」

ブレイドはライジングイクサを叩き斬る。

キバ

「イクサー！くっ…」

ザンバットソードを持ちながらキバはアンデッドを斬るとゾーンフアンガイアと合流してザンバットソードと剣に魔皇力をためるとフアイナルザンバット斬を衝撃波にして放ち、レンゲルが喰らう。

レンゲル

「わあああああっ！！」

ブレイド

「冬彦…！！」

ブレイドはレンゲル…西野冬彦を失ったことに驚く。彼は親友だったから。キバがブレイドにザンバットソードを向けるとブレイドもブレイラウザーをキバに向けて構える。が、すぐにブレイドは残ったレンゲルバツクルを急いで回収すると撤退を始める。

士はその光景をトイカメラで写す。

なのは

「一体…どうしてこんなことに！？」

士

「俺にもわからない。…けど、1つだけはっきりしていることがある。世界の融合が進み、キバとブレイドの世界が1つの世界になったということだ」

なのはの問いに答えると士はライジングイクサの残骸であるアーマーをさびしそうに見つめたいるアレンの許に歩き出す。なのはと士

朗も土の後を追ってアレンの方に歩く。土朗はすぐにアレンの方に駆けだすと声をかける。

土朗

「アレン！」

アレンは土朗に呼ばれると振り向く。

アレン

「土朗……土さん」

土

「久しぶりだな、アレン」

土朗

「教えてくれ。なんでライダー同士が戦ってるんだ？」

土朗の問いにアレンはゆっくりと答える。

アレン

「……ブレイド達を倒さないと、キバの世界が消えてしまうんだ」

土朗

「キバの世界が…消える？」

アレン

「そう、1つの世界にキバとブレイドは共存できない。どちらかの世界しか生き残れないんだ」

アレンは簡単に土たちが期待していた答えを裏切る。

なのは

「どちらかの世界しか……………」

アレン

「だから、これは僕たちの世界を守るための戦いなんだ」

士

「そのためにだけにファンガイアと手を組んだってこと？」

士の言葉に対してアレンは何も答えずに視線を変える。士たちもアレンが見た方向を見る。そこには誰もが見惚れるほど容姿が綺麗な女性がいた。まあ、士と士朗は見ても反応はないが。

士

「あの女性は…」

アレン

「ファンガイアの女王」

一言だけ言うとファンガイアの女王『ユウキ』が女王の証がある掌を見せるとクイーンの紋章が浮かび上がっていた。

ユウキ

「私はファンガイアの女王として、アレンと共に人間とファンガイアが共存できる作ろうとした」

アレン

「それはうまくいきかけていました。でも……………」

ユウキ

「ブレイド達がやってきて全てをぶち壊した！おまけに我々キバの世界を消し去ろうと戦いを挑んできた！そうならば迎え撃つしかない」

アレン

「士朗、僕と一緒に戦ってほしいんだ」

士朗

「よせよ。どんな理由があろうと、ライダー同士が戦うなんて間違ってる！」

士朗はアレンの誘いを断って自分の本心を言う。

アレン

「僕には……ファンガイアの王としての責任があるんだ。どんな手段を使ってもキバの世界を守らなきゃいけないんだ……だから」

士朗

「断る。俺は戦いたくない」

だが、ユウキが士たちに脅しをかける。

ユウキ

「言っておくが、中立は認めないぞ。敵か味方かはつきりしてもらおう」

すぐにファンガイア体に変化できるようにユウキは顔にファンガイアの紋章を浮かび上がらせる。危険だと思い、この世界では戦闘手段がないのはは下がり、士朗がなのはをかばうように前へ出る。

アレン

「土さん、あなたですよ」

土

「下らない。……そんなことなら俺は帰らせてもらっぜ」

アレンに冷酷な言葉を吐き捨てて、土はその場を立ち去ろうとする。
アレンはただ土の後姿を見ているだけだった。

ユウキ

「貴様ア！ブレイド側に着くつもりか！」

その時、土を殺そうとしてファンガイアが襲いかかってくる。

士朗

「土！」

なのは

「土君、危ない！！」

なのはと士朗は土に警告をする。だが、土はわかっていたようにデイクイドライバーにカードを装填してバックル部分を閉じる。

「KAMEN RIDE DECADE！」

電子音が鳴ってデイクイドに変身した土はものすごいスピードでカウターキックをファンガイアに食らわせるとファンガイアはガラスのように碎け散る。

ディケイド

「俺は全ての破壊者だ。…俺に触れるものは全て破壊する。憶えておくんだな……」

ディケイドはユウキに忠告するとその場を立ち去る。

光写真館、土が撮った写真を店長でなのは母方のほうの祖父、栄次郎が写真を現像する。写真に写っていたのは準一とアレン、後ろにブレイドとキバの残像が映し出されて今すぐにでも戦おうとしている写真だった。

栄次郎はアレンと準一を見て何かを思い出す。

栄次郎

「この子は確か…」

立ち上がると栄次郎は何かのアルバムを取り出す。

なのは

「お爺ちゃん、それ何？」

栄次郎

「あ、なのはに土君。土君がこれまで撮った、ライダーのアルバムを作ったんだ」

士

「何時の間に…」

士は苦笑する。栄次郎がアルバムをめくると以前、士がキバの世界で撮ったアレンの写真とブレイドの世界で撮った準一の写真を見つめる。すると、ファイズの世界で撮った悠二とシャナの写真やカブトの世界で撮ったナギとカブトの状態で移っているハヤテの写真があった。カブトの写真は唯一前のライダー大戦の時に見た写真と違っていたが。

士

「これまでいろんな世界を巡ってきたけど、問題が解決したというより問題が増えたって感じがするな」

士朗

「他人事みたいに言うなって」

士

「あ……すまん」

その時、なのはは背景スクロールの絵に気づいて士を連れてくる。

なのは

「士君、前のライダー大戦の時の写真と一緒に？」

士

「いや、まったく違う。やはりここはパラレルワールドだな（なら、結末も違うのか）」

2人はまた絵を見る。

士

「ま、裏でだれが雨後打てるかは見当がつく。出てこいよ、鳴滝」

辺りが暗くなると鳴滝が玄関に現れる。士朗も鳴滝が現れることに気づいて玄関に来る。

士朗

「鳴滝さん……」

鳴滝

「ディケイド、君となれ合うつもりはない。だが当面の敵を倒すためなら仕方がない。見たまえ」

刹那、鳴滝が宙に手をかざすと突然灰色のオーロラが現れ、オーロラには無数の地球が融合しているのが見える。そこにアポロガイストも映し出される。

鳴滝

「世界の融合を加速させているのはアポロガイストだ。それを止めるには、大シヨッカーを倒すしかない……!!」

士

「まさか……あんだ……俺に」

鳴滝

「頼む、世界を救ってくれ」

その言葉を最後に、鳴滝はその場から消えてしまう。

なのは

「ちよつと！」

士朗

「世界を救うには大ショッカーを倒すしかない、ってことか」

なのは

「そのためにもライダー同士が力を合わせなきゃ……」

士朗

「俺はアレンを説得しに行く。士は準一を頼む」

士

「わかった。そっちも頼むぞ」

次回、『ブレイド消滅』全てを破壊し、全てを繋げ！

ライダー大戦・序章（後書き）

ED『RIDE THE WIND』

やっとディケイド編……次回も頑張ります！

ブレイド消滅（前書き）

ディケイド本編『ライダー大戦・序章』も遂に後編となりました！
それでは最新話、ご覧ください。

OP『REAL ACTION』

ブレイド消滅

BOARD 本社の社長室、以前仮面ライダーカリス……いや、準一の妹『ながせみなと長瀬湊』が座っていたデスクに準一がノートパソコンを操作している。ふいに扉が開くと士が姿を現した。

準一

「士！」

準一は士が部屋に入ったことに気づくと、ノートパソコンを閉じて士に話し始める。

準一

「よく来てくれたな」

士

「準一、久しぶりだな」

窓から見える景色を見ながら士と準一は再会を喜ぶ。

準一

「さっそく何だが、お前に頼みたいことがある。お前にも俺たちと一緒に戦ってほしい」

士

「準一、そのことで逢わせたいやつがいる」

その時、アレンを連れて士朗が社長室に入る。アレンと準一はたがい目を見合わせると睨みあう。

準一

「お前は……！」

アレン

「士朗、どういうこと！？」

そして士は目的を2人に話すため、口を開く。

士

「単刀直入に言う。アレン、準一。今すぐに戦いをやめて俺たちと一緒に大ショッカーを倒すんだ」

準一

「大ショッカー？」

士朗

「世界の融合は全ての悪の秘密結社、大ショッカーの仕業なんだ」

準一の疑問に士朗が簡潔に答える。さらに士が再び口を開く。

士

「世界を救うには大ショッカーを倒すしかないんだ」

準一

「さてよ。たとえその大ショッカーを倒したとしてもキバがいる限り俺たちの世界は消えてしまう！」

士朗

「準一！やめろ。そんなの嘘っぱちに決まってる」

士朗になだめられて準一はアレンにつかみかかろうとするが、やめる。

士

「奴らの狙いはライダー同士を戦わせて、消耗したところで消し去ろうとすること」

アレン

「何故そう言い切れるんですか!?!」

士

「俺の言ってることは大体正しい」

士と士朗はライダー大戦を止めたい。そう思って2人を説得する。しかし2人は……

準一

「俺は納得できない。キバはレンゲルを……冬彦を消し去った!」

アレン

「そっちだってブレイドにイクサ……師匠はやられた!」

準一とアレンはお互いを攻め合う。

士朗

「よせよ。それはお互い様だろ」

すると、士が士朗の肩を引っ張って士朗を後ろに追いやる。

士

「自分の世界だけに固執していると、世界全体を救うことなんてできない。今は自分の世界のことだけを考えるな」

そして、士は言われたくないことを準一とアレンに言われてしまう。

準一

「それは自分の世界がないから言えることだろ!？」

アレン

「そうです。あなたには守るべき世界がない。まして、自分が何者かさえもわかっていない」

準一

「お前に俺たちの気持ちは分からない……」

そう言うと、準一はデスクに戻ろうとして、アレンはBOARDを出ていく。

その時、キバーラが慌てて社長室に入ってくる。

キバーラ

「大変大変！アポロガイストが、ファンガイアの女王と結婚式を挙げるんですって！」

士朗

「アレン……どういうことだ!？」

アレン

「仕方がないんだ。強い組織と組まなければ、生き残れない」

準一

「てめえら……そうまでしてブレイドの世界を消したいのか!？」

アレン

「そつちだつて!」

2人はたがいに怒号をぶつけ合う。

士

「チツ!もういい。俺がカタを付けてくる」

士朗

「士!俺も行く」

士朗は士とともに行こうと、同行を申し出る。しかし、士は士朗の動向を断る。

士

「いや、俺1人でいいさ。……よくわかった。…旅をして、仲間ができたつもりでいたが……士朗以外はただの勘違いだったみたいだな。…仲間なんか士朗だけで十分だ」

吐き捨てるように言うと、士はBOARD社長室を後にする。そんな中、士朗はアレンと準一に声をかける。

士朗

「アレン、準一、……お前らこれでいいのか?」

そのころ、森ではなのはが歩いているとサガとファンガイアたちがファイズ、デルタ、オーガを襲っていた。ファイズはファイズエッジを、デルタはデルタムーバーを、オーガはフォンブラスターとオーガストランザーを相手に向かってそれぞれ振るう。

なのは

「キバとブレイド、ファイズの世界も融合したの……！？」

すると、サガがジャコーダービュートでオーガに必殺技『スネーキンデスブレイク』を放ってオーガギアを残してオーガは爆散する。

ファイズ

「シャナ！」

サガはデルタにもその牙を向けてスネーキンデスブレイクでデルタは爆発する。

ファイズ

「池！」

なのは

「このままじゃライダーたちが潰し合っちゃう……」

そこに茶髪に黒スーツを着た青年が姿を現す。

青年

「お前たちは何か勘違いしているようだ。本当の敵は大ショッカー

ではない」

なのは

「君は！？それってどういうこと！？」

そのころ、ファイズはサガの振るうジャコーダーロッドによる猛攻に対してファイズエッジで防ぐ一方だった。それを見たなのは辺りを見回すが青年は消えていた。まるでその場に元々居なかったように。

そしてジャコーダーをビュートに変えてスネーキンデスブレイクを放とうとするが、蒼いビーム光弾がサガに放たれてその隙にファイズは起き上がる。

ファイズ

「あなたは……」

????

「まだまだ甘いね、坂井悠二君」

銃・ディエンドライバーを持った士と同じ年ごろの少女で自称・トレジャーライダー『海東葵』がファイズを助ける。その時、サガが再びスネーキンデスブレイクを放とうとするがファイズはベルトに装着してある携帯電話型のギア『ファイズフォン』を開いてエンターキーをプッシュする。

「EXCEED CHARGE」

電子音が鳴ると、フォトンストリームを経由してフォトンブラッドがファイズエッジに転送されてジャコーダービュートをファイズエ

ツジで弾くと、サガークベルトを『スパークルカット』で切り裂いてサガの胸部を斬るとサガはΦの文字とともに爆発する。

ファイズ

「葵さん、この世界は一体……どうなってるんですか？」

ファイズは変身を解いて坂井悠二の姿に戻ると葵は悠二にこの世界はライダー同士の世界が融合してファイズとブレイドとキバの世界が融合したことを説明する。

悠二

「そんな……ライダーとライダーの世界が融合を始めたなんて……」

悠二はオーガストランザーとデルタムバーを見つめながら悲しそうに言う。

葵

「君たちは、生き残りをかけたライダー同志の戦いに巻き込まれたの」

悠二

「生き残り……？」

葵

「彼らは他のライダーを倒さないと、自分の世界が消えてしまうと思うっているのよ」

悠二

「そんなことのために……シャナや……池が……」

すると、悠二は俯いてしまふ。葵は悠二に声をかける。

葵

「泣いてるの？」

悠二

「池とは、大の仲良しで……シャナは……とても大切な娘だったから……それに2人は、大切な仲間だったんです……」

葵

「仲間、か……そのお宝は、まだ持っていないな……」

（BOARD社長室）

そのころ、準一は土が以前言ってくれたことを思い出す。

土

『失敗しても成功しても、共に働く仲間を励まし合い、助けあい、一緒に進化していく。その為に働いているんだ！』

準一

「仲間か……」

準一は土の思っていることに気づいて部屋を飛び出す。その時、ギヤレンの変身者で準一の秘書『片桐優姫』かたぎりゆうひが来る。

優姫

「準一、どうしたの！？そんなに急いで…」

準一

「優姫！土が大変なんだ。行くぞ！」

優姫

「え、ええ！」

2人はバイクに乗って結婚式場を目指す。

結婚式場、遂にアポロガイストとファンガイアの女王・ユウキの結婚式が始まるうとしていた。参列者は全員黒いローブとフードを身にまとっている。

部屋の外では土が燕尾服を身にまとい階段を上がってきている。

アポロガイスト

「参列者の諸君、よく来てくれた。この契の日を境に君たちは永遠のものとなるのだ」

ユウキ

「お前たちはアポロガイストの中で、永遠に生きるのだ」

アポロガイスト

「見よ、これがファンガイアの力なのだ」

すると、アポロガイストの顔にステンドグラスの紋章が浮かび上がる。そして上空には無数の吸命牙が現れて参列者たちの首に突き刺す。するとライフエナジーがアポロガイストに吸収されていく。

アポロガイスト

「乾ききった命に……ライフエナジーが沁み渡ってくるのだ。燃える……命の炎がもう1度燃えていく！」

ユウキはアポロガイストを見ると、微笑をする。

アポロガイスト

「この日が、復活の記念日となるのだ……！」

すると、何者かが扉を開けると立ててあった十字架を蹴り倒す。やったのは士だった。

士

「その記念日を命日にしてやるよ」

アポロガイスト

「現れたな、ディケイド」

ユウキ

「貴様の命日にしてやる！」

ユウキは花束を放り投げると、ソーンファンガイアに変化する。その瞬間、辺りに電子音が響く。

「BULLET」

その時、ソーンファンガイアに強化銃弾が撃ち込まれていく。銃弾を撃ったのは優姫だった。後ろから準一も駆けてくる。

準一

「士！お前は俺に大切なことを教えてくれた。俺たちは励まし合い、助けあい、一緒に進化していく仲間だ！」

士

「その言葉……！憶えていてくれたんだな」

準一

「ああ！お前はいつも大体正しい」

準一は笑顔で士に答える。

士

「準一、いくぞ」

士はディケイドのカードを構えて準一もブレイバツクルにエースのカードを装填してバツクルを腰に当てる。

士

「変身」

「KAMEN RIDE DECADE！」

ディケイドライバーにカードを装填すると士はバツクルを閉じる。すると、士はディケイドに変身する。

準一

「優姫、俺たちも行くぞ！」

優姫は準一の言葉に笑顔でうなづく。

準一＆優姫

「「変身！」」

「「TURN UP」」

電子音が鳴ると、バックルからオリハルコンエレメントが射出されて2人は通り抜けるとブレイドとギャレンに変身する。

ソーンファンガイアの後ろにファンガイアが大勢現れる。

ディケイド

「来い」

ディケイドはファンガイアたちを挑発すると打撃で攻撃を繰り返す。ギャレンも至近距離での射撃と格闘を主体とした戦闘スタイルでファンガイアを蹴散らす。ブレイドは突然現れたアンデッドたちに驚きながらもブレイラウザーを振るう。

ブレイド

「アンデッド！お前たち、最初から大ショッカーと組んでいたのか！？」

アポロガイスト

「ふん、知れたことを。我々の敵は未来永劫、ライダーだけなのだ！」

森の中、悠二は走っていた。その時、青年が現れる。

青年

「君が悠二君か」

悠二

「あなたは一体…」

一真

「俺は剣崎一真だ」

青年……剣崎一真は悠二に名乗るとサングラスを外す。

悠二

「剣崎…一真？」

一真

「この世界を本当に救いたいのか？」

教会の外では、3体多数という数の差でディケイド、ブレイド、ギヤレンは苦戦する。だが、それでもあきらめずにディケイド達は戦

っている。

ディケイド

「ハアッ!!」

ディケイドはライドブッカーをソードモードにして振るうが、ソーンファンガイアの強さに圧倒される。その時、ソーンファンガイアにビーム弾が撃ち込まれる。撃ったのはディエンドライバーを手にした葵だった。

葵

「士に手出しする奴らは、あたしが倒す。憶えておきなさいよ。変身!」

「KAMEN RIDE DI-END!」挿入歌『TREASURE SNIPER』

葵はディエンドに変身すると、走りながら銃弾をソーンファンガイアたちに放つとディケイドの隣に立つ。

ディケイド

「葵、今度は何を企んでるんだよ…!」

ディエンド

「仲間なら当然のことでしょう。仲間なら、ね!」

ディエンドは喋り終わるとさらにディエンドライバーを発砲する。それに続いてディケイドもライドブッカーソードモードをファンガイアたちに振るう。互いに支援をしながら戦う。まるでディケイドとディエンドは昔から戦っていたようなコンビネーションを発揮す

る。

2人はソーンファンガイアを追い詰めるが、アンデッドやファンガイアがソーンファンガイアを守るようにソーンファンガイアの前に立ちふさがる。ディエンドはディエンドライバーにカードをスライドする。

「FINAL ATTACK RIDE di di di DI
END!」

電子音が鳴ると、ディエンドはディエンドライバーのトリガーを引いてディメンジョンシュートを放ってアンデッドやファンガイアは爆散して、ソーンファンガイアもダメージを喰らった。
すると、ディケイドはケータッチを取り出してコンプリートカードを挿入する。

「KIVA! KAMEN RIDE EMPEROR」

バックル部分にケータッチを装着するとディケイドはコンプリートフォームに最終変身する^{ファイナルカメンライド}と、電子音とともにキバ・エンペラーフォームが現れる。ソーンファンガイアはディケイド・コンプリートフォームに斬撃を加えようとするが、ディエンドの援護射撃によって怯む。

「FINAL ATTACK RIDE ki ki ki KI
VA!」

電子音が鳴ると、至近距離でソーンファンガイアにファイナルザンバット斬を直撃させるとソーンファンガイアは断末魔を上げて碎け散る。それと同時にキバ・エンペラーフォームは消える。

ブレイド

「やったな、士！」

ディケイド・コンプリートフォーム

「ああ！」

その時、なのはと士朗、アレンがディケイド・コンプリートフォーム達の方に駆け寄る。

アポロガイスト

「おのれ…よくも我が花嫁を……アポロチェンジ！」

アポロガイストは怪人体になる。

アポロガイスト

「世界よ動け。1つになるのだー！」

その時、世界の全てが融合した。刹那、ブレイドとギャレンが粒子となって消える。

士朗

「もしかして、ブレイドの世界が消えてしまったのか！？」

アポロガイスト

「ふははは！！！」

遠くで一真はブレイド達が消えるのを見る。

一真

「遂に…始まったか」

アポロガイスト

「これが永遠の命を持った、スーパーアポロガイストの力なのだ！」

次回、『決戦の舞台へ』次回に向かってGet Ride！

ブレイド消滅（後書き）

ED『BREAK THE CHAIN』

感想待ってます！

決戦の舞台へ（前書き）

今日、『仮面ライダー×仮面ライダー W&ディケイド MOVIE大戦2010』を見に行きました！ネタバレですが、ディケイド完結編ではディケイド激情体はギガントとサイドバツシャーを普通に使うし、仮面ライダーキバはディケイドを殺しちゃうわでありえないくらいすごいです！W・ビギンズナイトの方は過去の回想編がとても迫力がありません！新しい小型恐竜型メモリ『フアングメモリ』を使ってフィリップがW・フアングジョーカーに変身して驚きました！MOVIE大戦編ではディケイドとWサイクロンサイクロン&ジョーカージョーカーの『トリプルエクストリーム』がとても凄かったです！最後には『A』と刻まれていた紅いガイアメモリ『アクセルメモリ』を持った青年が……まだご覧になっていない人はぜひ見て下さい！

それでは、ディケイド本編の最終話『世界の破壊者』全編、ご覧ください。

OP『TREASURE SNIPER』

決戦の舞台へ

ディケイド・コンプリートフォームとディエンドはライドブッカーとディエンドライダーを構えて、クウガとキバに変身した士朗とアレノもこぶしを構える。数秒の沈黙の後、4人の仮面ライダーはアポロガイストに向かって走り出してディケイド・コンプリートフォームはソードモードのライドブッカーを振るい、ディエンドは格闘と至近銃撃を、クウガとキバはキックやパンチをアポロガイストに食らわせていく。だが、4人の攻撃は易々とアポロガイストに避けられてしまう。さらには反撃されてマグナムショットによる強化銃弾がディケイド・コンプリートフォームたちに襲いかかり、変身を強制的に解除されてしまう。その時、4人に駆け寄ろうと下なのはアポロガイストに捕まってしまった。

士

「なのは！」

アポロガイスト

「ディケイドに命を授けたというこの女を我が花嫁にしよう。貴様との決着をつけてやるのだ！」

次の瞬間、アポロガイストはなのはの鳩尾を殴って気絶させると、気絶したなのはとともに歪みに消えてしまう。

士

「なのはア！」

士朗

「どうにかして……なのはちゃんを助けないと……」

士

「わかってる！！だが、何故準一と優姫は消えてしまったんだ……」

アレン

「それは……アポロガイストが、世界を融合させたからではないでしょうか？」

アレンは士に準一たちが消えた理由を説明知る。

一真

「違うな！アポロガイストは世界の融合をさらに加速させたにすぎない。準一が消えたのは、士！お前のせいだ」

突如現れた一真は準一たちが消えたのは士のせいだという。

士

「なんだと……？」

一真

「本当に世界を救いたいのなら……この世界からディケイドを排除するしかない」

士朗

「士を！？」

一真の告げた言葉によって士朗とアレンは驚く。一真は士のほうに歩きながら言う。

一真

「そもそも世界が融合を始めたのは、ディケイドが誕生したからだ。……この世界から出ていけ」

サングラスを外しながら士に冷酷に告げる。

士

「随分と……勝手なことを言ってくれるな……！何なんだ」

士は立ちあがると一真に問う。一真は何処からか、ブレイバツクルとカードを取り出す。

一真

「俺の名は剣崎一真」

士

「一真？」

一真

「またの名を……仮面ライダーブレイド！」

ブレイバツクルにカードを装填しながら一真は士の問いに答えている。

一真

「変身」

「TURN UP」

一真がブレイバツクルのターンアップハンドルを操作すると電子音が鳴って、バツクルからオリハルコンエレメントが射出される。た

だ、射出されたオリハルコンエレメントは通常のオリハルコンエレメントとは違い、青ではなく金色になっている。黄金のオリハルコンエレメントは士を弾き飛ばして、一真を通り抜けると一真の姿は全てのスピードスートのアンデッドと融合した姿『仮面ライダーブレイド・キングフォーム』変身する。そして士の方に向かうとキングラウザーを向ける。

ブレイド・キングフォーム

「どうする？出てくのか」

士

「俺は指図されるのが一番嫌いなんだよ」

士はブレイド・キングフォームの問いには答えずに指図されたことに文句を言う。すると、ブレイド・キングフォームはキングラウザーを士に向けて刺そうとするが、避けられる。

士

「変身！」

「KAMEN RIDE DECADE！」

カードをディケイドライバーに装填すると士はキングラウザーによる猛攻をよけながらバックルを閉じてディケイドに変身するとキングラウザーを受け止める。

ディケイド

「グッ……！」

ディケイドが怯むと一瞬のすきについて、ブレイド・キングフォー

ムはディケイドの腹を蹴る。続けてキンググラウザーを何度も振るつて、ディケイドを傷つけていく。ディケイドの反撃するが、防がれて攻撃は何の意味もなかった。再び、ブレイド・キングフォームはキンググラウザーでディケイドを斬り付ける。

アレン

「土さん…」

士朗

「土！」

ディケイドのピンチに士朗とアレンは駆け寄ろうとするが、突如現れた悠二に止められてしまう。

悠二

「行っちゃいけない！」

士朗

「悠二！どうして？」

悠二

「ディケイドに手を貸せば、準一さん達のように消えてしまっんだ！それでもいいの！？」

悠二の告げた言葉によって士朗とアレンはディケイドを助けることに躊躇いを感じる。葵はただ見ているだけだった。その目に見えた者は一方的にディケイドがやられている姿だった。

「SPADE10 SPADE・JACK SPADE・QUEEN SPADE・KING SPADE・ACE ROYALS

TR A I G H T F L A S H !」

キングラウザーに5枚のギルドラウズカードを装填するブレイド・キングフォーム。電子音が鳴ると5枚の3Dカードが出現して、カードに黄金の粒子のようなものを纏ったキングラウザーで斬ると衝撃波が出て、ディケイドに直撃する。

ディケイド

「うわあああああつ!!」

ディケイドは立っていた鉄橋からロイヤルストレートフラッシュをまともに受けてしまい、橋の下に落ちてしまつて身体を強打する大怪我を負つた。

そのころ、アポロガイストのアジトではなのはが両手を薔薇で拘束されていて、気絶している。

アポロガイスト

「憎きディケイドの前に倒ていつた悪の勇者たちよ、我がライフエナジーによつて蘇えるのだ!」

すると、アポロガイストの身体からライフエナジーが放出されて、キバの世界で倒したビートルファンガイア、電王の世界で倒したアリゲーターイマジン、カブトの世界で倒したフィロキセラフォーム、ブレイドの世界で倒したパラドキサアンデッド、アギトの世界で倒したバッファローロード、ファイズの世界で倒したタイガーオルフ

エノクが蘇える。

アポロガイスト

「フハハ、フハハハハハ！」

アジトにはアポロガイストの笑い声が響き渡っていた。

光写真館、栄次郎がアルバムを見ていると扉が開く音がする。

栄次郎

「あ、お帰り」

帰ってきたのはぼろぼろになった燕尾服を纏い、血で染まったシャツを着ている土だった。すると、土は痛む右腕を抑えながら壁にもたれかかると眠るように倒れてしまう。

栄次郎

「土君！大丈夫かい！？」

10分程経つと、栄次郎は土の傷を治療して今は栄次郎が持つてきてくれた冷水を飲んでいる。

土

「もう大丈夫だ。ありがとう、栄次郎さん」

栄次郎

「それはよかった」

士の回復に安心した栄次郎。ふと、アルバムを見ると驚く。

士

「どうしたんですか？」

栄次郎

「じゃ、写真が……」

写真がどうかしたか気になって士も見てみると、写真から準一とブレイドが消えてしまつて代わりに悠二とファイズが写真に写る。

士

「一真が！……ブレイドの世界が完全に消えたということなのか……！？」

さらに士はアルバムのページをめくつて写真を見ると、他の写真までもが消えかかっていた。

士

「他のライダーの世界までもが消えかかっている……世界が融合すれば俺たちの廻つた世界は消え去るといふことなのか！？だとしたら……！だとしたら、俺たちの旅は一体何だったんだよ！！」

自暴自棄になる士に栄次郎が優しく士に声をかける。

栄次郎

「いや、どんな旅にも無駄は無いよ。どんな人生にも無駄がないのと同じようにね。このなのはの写真を見てごらん」

栄次郎はアルバムの最後のページからなのは笑顔が映っている写真
を土に見せる。

栄次郎

「ほら、良い表情してるだろ？なのははこんな表情を見せるようになったのは、土君達仲間との旅のおかげなんだ」

栄次郎が喋り終わると、土はなのはの写真を見つめる。笑顔の表情をしているなのはの写真を見ていると土はなのはを助けられなかったことを悔やむ。

栄次郎

「土君、頼む。なのはをなんとしても救ってくれ」

土

「栄次郎さん、当然です。あなたも俺や土朗たち旅の仲間ですから」

栄次郎

「ありがとう」

土に笑いかけながら栄次郎は土に感謝の言葉を述べる。土も栄次郎の笑っている表情を見て自身も栄次郎に微笑む。そのとき、キバラが来る。

キバラ

「土君、お客様がお待ちかねよ」

土

「客？誰なんだ」

士がキバーラに連れてこられた場所には悠二とアレンがいた。

アレン

「士さん！」

悠二

「士さん、お願いします。この世界から出て行って下さい！」

アレン

「ディケイドが居ると僕たちの世界が消えてしまうんです」

悠二

「犠牲は僕たちだけじゃないんです！僕たちの仲間も犠牲になるんです」

アレンと悠二に言われて士は怒りを覚える。

士

「俺に…出て行けというのかよ……！」

2人は制定する反応を士に見せる。士はその場を出て行くこととするが、一真に声をかけられる。

一真

「もはや一刻の猶予もない。お前を野放しにした結果、世界の融合

はさらに進んだ。これが最後のチャンスだ。この世界から出て行け！」

士

「俺は消えない。俺が世界そのものだからな」

一真

「強がるな！お前の気持ちは分かっている。なのはという子を救いたいんだろう？だがお前がなのはを助けたとしても、そのなのはさえもが消えてしまつかも知れないんだぞ！？」

一真は士に自分が思っていることを言われてしまう。

士

「どうかな？大体、知ってても知らないふりをするのは症に合わないんだよ」

一真

「口で聞いてもわからないなら…！」

吐き捨てるように言うと、一真は悠二とアレンに変身するよう促す。アレンはキバットをキバットベルトの止まり木にセットして悠二はトランクケースからファイズギアを取り出してファイズフォンに555と変身コードを入力する。

「COMPLETE」

2人はそれぞれキバ、ファイズに変身すると、士に格闘主体の攻撃を浴びせる。陰で見っていた士朗は飛び出しそうになるが、躊躇う。

キバ

「士さん、なんで変身しないんですか!？」

士はキバの問いには答えず、ただ一方的に攻撃を受けている。士朗は見ていられず、クウガに変身してキバとファイズの追撃を抑える。

ファイズ

「士朗さん、邪魔をしないでください!」

クウガ

「士…行くんだ!」

士

「士朗……ごめんな!」

士はクウガに謝ると走ってその場を後にする。士が去った後クウガ、ファイズ、キバは変身を解く。

一真

「まだディケイドの味方をするのか!？」

士朗

「…なのはちゃんは、俺にとって大切な仲間なんだ!せめてなのはちゃんを助けるまでは……!」

一真

「そのあとはどうなる?お前がいたクウガの世界が消えてもいいのか?お前の世界の人間を見殺しにするのか?」

士朗

「それは！……」

士朗はそれ以上、何も言えなくなってしまう。

一真

「士は世界を見捨てた。こうなったら我々の力で消し去るのみ」

その場に沈黙が流れる。

次回予告

士

「俺たちはこれからも旅を続ける。世界の壁を越えて……仲間を作る！その旅はやがて、未来を変える」

ディケイド

「来るなら来い！全てを破壊してやる！！！」

次回、最終話『世界の破壊者』。全てを破壊し、全てを繋げ！

決戦の舞台へ（後書き）

やっと最終話まで行けた……ラストもお楽しみに！

ED 『ROOTS OF THE KING』

世界の破壊者（前書き）

とうとう最終話です！長かった……

最後は予告ですので、最後までご覧ください。

OP『JOURNEY THROUGH THE DECADE』

世界の破壊者

荒野、土はなのはを助けるために1人荒野をさまよう。ある建物が見えると足を止めてその建物……大シヨッカーのアジトを睨みつけると再び歩き始める。すると、葵が土が向かっている方向から姿を現す。

葵

「土、なのはちゃんはこっちじゃないよ」

土

「そうか」

葵

「アポロガイスト君から決闘状を預かっているの。彼は一騎打ちを望んでる」

葵は土にアポロガイストから受け取った決闘状を土に手渡しする。土は葵に渡された決闘状を手に持つ。

葵

「けど行かないで。一騎打ちなんて嘘っぱち。彼が呼びだした怪人がうようよいるの。行けば、確実に死ぬことになるわ」

お互いは顔を合わせようとはしない。すると、土が口を開く。

土

「俺は全てを破壊する。死ぬのは奴らだ……！」

静かなる怒りとともに士は怒りを込めた発言でアポロガイストに言う。

アポロガイスト

「そうはいかん。この女を花嫁にして世界にとって、最高に迷惑な奴になるのだ」

士

「迷惑な奴になるなら消えやがれ」

アポロガイストの発言に士は初めて突っ込む。

なのは

「花嫁つて……まさか！」

なのはは必死で拘束から逃れようとするが、拘束は固くしてあるためになのはは逃げられない。

アポロガイスト

「お前は、私の中で永遠に生きるのだ」

アポロガイストがなのはの傍を離れると、上空に吸命牙が2つ現れてなのはのライフエナジーを吸収しようとする。しかし、それは士が『カメンライド・ディケイド』のカードをブーメランのように投げて吸命牙を弾いて、さらに『アタックライド・ブラスト』と『アタックライド・スラッシュ』のカードを投げてなのはを拘束しているツタを切り裂く。なのはは自力でツタを剥がして士の方に駆け寄る。

なのは
「土君！」

士はカードを3枚キャッチする。その時、アポロガイストの背後からアリゲーターイマジン、フィロキセラワーム、タイガーオルフェノク、ビートルファンガイア、バッファローロード、パラドキサアンデッドが武器を持って姿を現す。

なのは
「土君……」

士
「なのは…ごめんな」

なのはに謝罪すると士はなのはを自分の背後にして自身がなのはを守るように立つ。

士
「葵の言っていた通りだな。……一騎打ちが聞いてあきれる」

アポロガイスト
「フフフ、ライダーさえも敵に回した貴様とは大違いなのだ」

士
「たとえば、世界のすべてを敵に回したとしても……たった1人を守るために戦う。それが仲間ってもんだろ」

アポロガイスト
「その女を助けたとしても、結局はその女を……いや、その女の世界を破壊する定めなのだ」

士

「俺たちは仲間だ！だから守る！！……それだけのことだ……！！！！」

アポロガイストはフツツと鼻で笑う。

すると、何処からか葵がディエンドライバーを持って現れる。

葵

「士！あたしもお宝のために戦うわ。……世界なんてもらったってつまらない。あたしたちはやっぱり……仲間ってやつかもしれないわね」

葵の言葉に士は微笑をする。そして士朗も士の許に来る。

士朗

「俺も同じだ！士」

士

「士朗……お前……」

士朗

「俺は自分の世界と、仲間の命を天秤にかけて……迷っていたんだ。でもそれは間違いだったんだ。……たった1人の笑顔を守れないんじや、正義の味方なんかになんかになれないし……世界中の人たちを笑顔になんてできない！」

なのは

「私たちは、そのことを旅で学んだんだ」

だが、アポロガイストはそんな士たちのやり取りを見て口を開く。

アポロガイスト

「黙れ。お前らの旅など、全く無意味な……愚かな行為だったのだ」

それと同時に蘇生怪人たちも動き始める。

士

「俺たちはこれからも旅を続ける。世界の壁を越えて……仲間を作る！その旅はやがて、未来を変える」

アポロガイスト

「何なんだ、貴様は？」

士

「通りすがりの仮面ライダーだ。憶えておけ！」

士朗は腹部にアークルを出現させて、葵はディエンドライバーにカードをスライドして、士はディケイドライバーにカードを装填する。

士&葵&士朗

「『変身！』」

「K A M E N R I D E D E C A D E !」

「K A M E N R I D E D I - E N D !」

士朗はクウガ・マイティフォームに、葵はディエンドに、士はディケイドにそれぞれ変身する。

挿入歌『RIDE THE WIND』 or 『TREASURE SNIPER』

アポロガイスト

「アポロチェンジ！」

3人が変身すると、アポロガイストも怪人体に変化する。刹那、アポロガイスト率いる怪人たちとディケイド、ディエンド、クウガが走り出して、クウガはパラドキサアンデッドとビートルファンガイアを、ディケイドはバッファローロードとアリゲーターイマジンを、ディエンドはフィロキセラワームとタイガーオルフェノクを相手に戦闘をしている。そこにアレンと悠二がなのはの方に駆けてくる。

なのは

「アレン君！悠二君！」

アレン

「土さんの言葉、僕たちの心に届きました！」

悠二

「僕たちも未来を変えるために……賭けてみます！」

2人の言葉になのははうなずいて、そのあとアレンはキバットに魔力を注入してアレンの腰にキバットベルトが巻かれて、悠二はファイズギアを全て取り出して装着するとファイズフォンに555と変身コードを入力する。

アレン&悠二

「「変身！」」

「COMPLETE」

アレンはキバに、悠二はファイズドライバーにファイズフォンをセツトして体中に紅いフォトンストリームが巡るとファイズに変身すると、キバは苦戦しているクウガに攻撃しているパードキサアンデッドとビートルファンガイアにキックを食らわせて、ファイズも苦戦しているディエンドに攻撃しようとするフィロキセラワームとタイガーオルフェノクに打撃攻撃を浴びせる。ディケイドは突然加勢してきた2人に驚く。

キバ&ファイズ

「「土さん」」

ディケイド

「悠二……アレン……よし、行くぞ！」

キバとファイズはディケイドの呼びかけに答えると、クウガとディエンドとともにディケイドの周りに集まる。そしてディケイドはキータッチを取り出してライダークレストを順番にタッチしていく。

「FINAL KAMEN RIDE DECADE!」

キータッチをバックル部にセツトしてディケイドは最終フォーム・コンプリートフォームに最終変身する。ファイナルカメンライドそしてクウガは右足に炎を纏わせてマイティキックの態勢に入るとディエンドとともにビートルファンガイアとフィロキセラワームに必殺キックを食らわせてビートルファンガイアとフィロキセラワームは爆散する。ファイズもファイズポインターにミッシュンメモリーを装填してファイズポインターを起動させる。

「READY」

そして足に取り付けるとファイズフォンを開いてエンターキーをプッシュする。

「EXCEED CHARGE」

電子音が鳴ると、ファイズフォンからフォトンブラッドがファイズポインターに送られてくる。キバも紅いフェッスルを取り出すとキバットに吹かせる。

キバット

「ウェイク、アップ！」

すると、キバの右足についている拘束具ヘルズゲートが砕けて蝙蝠の翼のようなものが現れて2人はパラドキサアンデッドとバツファローロードに『クリムゾンスマッシュ』と『ダークネスムーンブレイク』を2体に当てて爆散する。

「FINAL ATTACK RIDE de de de DE
CADE！」

最後にディケイド・コンプリートフォームはキックをアリゲーターイマジンとタイガーオルフェノクに喰らわせようとするが、2体は波動をディケイド・コンプリートフォームに当てて抵抗しようとするが、力押しで『コンプリート・ディメンジョンキック』を直撃させてアリゲーターイマジンとタイガーオルフェノクは爆散する。そして残ったのはアポガイスト1体だけだった。ディケイド・コンプリートフォームは2回手を払うとキバ、ファイズ、ディエンド、クウガが集まる。

アポロガイスト

「スーパー、ガイストカッター!!」

盾のようなブーメランがディケイド・コンプリートフォームに向かってくる。だが、クウガがディケイド・コンプリートフォームに当たる数瞬でディケイド・コンプリートフォームをかばってカッターあくウガに直撃するとクウガはユウスケの姿に戻ってぐったりと倒れてしまう。

ディケイド・コンプリートフォーム

「士朗!士朗……おい士朗!し……ろ……」

何度揺さぶっても士朗は目覚めない。なぜなら士朗の意識は既にこの世から消え去って士朗の身体はただの衛宮士朗という名の死体だけが残った。

アポロガイスト

「とどめだ」

なのは

「士君!」

アポロガイストは隙だらけのディケイド・コンプリートフォームを銃撃する。すぐにディケイド・コンプリートフォームの前になのはがディケイド・コンプリートフォームを守るように立つ。そしてマグナムショットが2人に向かって放たれるが、とっさにディケイド・コンプリートフォームがなのはを庇いながら地に回避する。

ディケイド・コンプリートフォーム

「なのは、大丈夫か!？」

なのははディケイド・コンプリートフォームの問いにうなずく。アポロガイストはもう1度ディケイド・コンプリートフォームにマグナムショットを打とうとするがキバ、ファイズ、ディエンドがアポロガイストに攻撃して邪魔をする。ディエンドは自分にアポロガイストが気づいていないうちにディケイド・コンプリートフォームの方に駆け寄って来る。

ディエンド

「士、このカードを受け取って」

ディエンドからカードを受け取ったディケイド・コンプリートフォームはディケイドライバーの右側のバックルに装填してプッシュする。

「FINAL ATTACK RIDE di di di DI
END!」

電子音が鳴ると両肩と胸部のヒストリーオーナメントのカードがディエンドに変わってライドブッカードをガンモードにして取り出す。

ディケイド・コンプリートフォーム

「葵、これが俺とおまえの力だ!」

2人が同時にそれぞれライドブッカードガンモードとディエンドライバーを構えるとアポロガイストをロックオンするように3Dカードが展開する。アポロガイストはそれに気が付いてマグナムシユートを放つが、ディケイド・コンプリートフォームとディエンドの連携必殺技『ダブルディメンジョンシユート』を撃ってマグナムシユ

トが消えてデイメンジョンシュートはアポロガイストを飲み込む。

アポロガイスト

「……私は…宇宙で最も迷惑な奴として、蘇えるのだア!!」

それだけ言うとアポロガイストは爆散して肉体と意識が爆発の炎に焼かれて消える。

デイケイド・コンプリートフォーム

「迷惑な奴として蘇えるならも蘇んじゃねーよ……バカ野郎!」

なのは

「土君、そこ突っ込んだじゃう? そんなことより遂にアポロガイストを倒せたんだね」

デイケイド・コンプリートフォーム

「やったな」

デイエンド

「そうね」

キバとファイズもうなずく。ふと、なのはが周りを見ると自分たちがいる場所は自身が見たヴィジョンに出てきたライダー大戦の舞台だった。それを思い出してなのはの表情は次第に暗くなっていく。

なのは

「この場所……ヴィジョンで見たのと同じ……まさか!」

なのはは嫌な予感がする。そのとき、キバとファイズが粒子レベルに身体が分解されて消える。

ディケイド・コンプリートフォーム

「アレン、悠二！」

すると、何処からか男性の音がする。

「ディケイドの存在が、キバとファイズの世界を消し去ったのです……」

辺りが突然夜のように暗くなる。すると、場所が夜のビル街になっていてディケイド・コンプリートフォームの姿から士の姿に戻っていた。そこに白い服を着た青年『くれないわたる紅渡』が現れる。

渡

「僕の言葉を覚えてますか？……『あなたは全ての仮面ライダーを破壊するものです。破壊からは創造しか生まれませんからね』と。あなたは全ての仮面ライダーを破壊しなければいけなかった。だが仲間にしてしまった。それは、大きな過ちでした……」

士

「どう言うことだ……！」

渡

「今から僕の仲間が、あなたの旅を終わらせます。」

渡が右手を宙に掲げると、別世界のキバットバット3世が現れて渡の手をかむ。

キバット

「ガブッ！」

するお、渡はアレンのように顔にステンドグラスの紋章が現れてキバットベルトにセットする。

渡

「変身」

渡はキバに変身して身構えると士に襲いかかる。士は攻撃を避けたが、いきなり元の荒野に戻ってしまった。そこにはアギト・グランドフォーム、龍騎、ファイズ、響鬼、カブト・ライダーフォーム、電王・ソードフォーム、キバがいた。さらに一真も現れる。

一真

「ディケイド、お前を倒す。変身」

一真は・ブレイドキングフォームに変身してキングラウザーを構える。

士

「結局こうなる運命^{さだめ}か。変身」

「KAMEN RIDE DECADE！」

電子音が鳴ると士もディケイドに変身する。この場にクウガ以外の仮面ライダーがそろつ。なのははその光景を見ていた。

なのは

「これじゃあ…ヴィジョンと同じ……士朗君！」

なのははすでに死んでいる士朗の身体を揺さぶる。そこにキバール

が現れる。

キバーラ

「私が、蘇らせてあげる♪フッフ、カプ」

キバーラが士朗の頬を噛むと永遠に開かれないと思われていた士朗の目が開かれる。

キバーラ

「ただし、アルティメットクウガとしてね」

すると、士朗が起き上がる。士朗の目には混沌が渦巻いていた。誰かに操られているように。立ち上がると士朗はアークルを出現させる。だが、通常のアークルとは違って『アークルアーマー』が付けられていて、アマダムの色も闇のような漆黒となっている。

士朗

「……変身……！」

士朗が不敵に笑いながらつぶやくと、アークルから黄金のスパークとどす黒い霧に包まれて低音の音声を鳴らしながら4つの金の角に禍々しい黒と金の鎧、漆黒に染まった自我のない黒い複眼を持った最凶のクウガ『クウガ・アルティメットフォーム』に変身する。キバーラは高らかに笑っている。

クウガ・アルティメットフォーム

「ウワアアアアアアアア！」

ディケイド

「士朗なのか……！？」

その様子を見ていた鳴滝。

鳴滝

「ディケイドが全ての世界を滅ぼす。全ての仮面ライダーを！そして門矢士を滅ぼすのだ！」

ディケイド

「来るなら来い！全てを破壊してやる！！！」

そして9人の仮面ライダーはディケイドに攻撃しようと向かって行く。ディケイドは仮面ライダーたちの攻撃を避けて猛攻を加える。他の仮面ライダーもディケイドに攻撃を食らわせる。すると、ビーム弾が放たれて爆発が起こる。それでもディケイド達は戦い続ける。刹那、ディエンドがディケイドにディエンドライバーを構える。

ディエンド

「士」

ディエンドはそれだけ言うと容赦なくディエンドライバーのトリガーを引いてビーム弾をディケイドに撃つ。

なのは

「ディケイドーッ！！！」

この戦いの行く末は……まだだれにもわからない。

予告

最後の物語……仮面ライダーディケイド・完結編。それは本当の終わり

士

「俺は全ての破壊者だ。俺はそれを受け入れた」

仮面ライダーディケイド、本当の終わり。

仮面ライダーJの攻撃をマシンディケイダーに乗って易々と避けるディケイド・激情体。

なのは

「どうしてライダーを破壊するんですか……………？」

士が仮面ライダーを破壊する理由を聞こうとするなのは。士は何も答えずにカードを見ている。

士朗

「アイツはもう…………俺たちの知ってる士じゃない」

ライオトルーパー軍団と戦うディケイド。大勢のライオトルーパーはディケイド・激情体によって次々と駆逐されていく。

なのは

「私が、士君を絶対に止める…………！」

なのははキバーラの力を借りて『仮面ライダーキバーラ』に変身してサーベルを構えると連続でディケイドを斬る。

そしてディケイドに手を貸すストロンガーの世界の住人『電波人間
タツクル』。彼女が世界の破壊者・ディケイドに手を貸す理由とは？

数多の世界を旅してきた仮面ライダーディケイドの本当の姿、目撃
せよ。

そしてもう1つの物語……仮面ライダーW・ビギンズナイト。それ
は学生探偵『左光哉』^{ひだりこうや}とその相棒兼義妹『愛希』^{あき}が紡ぐ始まりの物
語。

死んだはずの大切な人が蘇えったら、あなたはどうしますか？

壮吉

「半熟には帽子は似合わねえって言ったよな……光哉」

光哉

「おやつさん……」

蘇えった光哉の師匠・鳴海壮吉。

壮吉

「変身……」

起動したスカルメモリを腰のロストドライバーに挿入して骸骨のよ
うな仮面ライダー『仮面ライダースカル』に変身する壮吉。そして
W・サイクロントリガーに猛攻を加える。

観月

「お父さんが仮面ライダー!?!」

『鳴海観月』^{なるみつき}は父である壮吉が仮面ライダーだったことに驚いてしまっ。

壮吉

「…お前は今まで自分で決めて何かをしようとしたことがあるか？」

愛希

「ボクの罪……」

愛希は壮吉の言葉に困惑する。

そして光哉は自分の思いを決意に変える！

光哉

「俺は依頼人のために戦う。命がけで……あんたの教えを守る……！」

光哉はジョーカーメモリを、愛希はサイクロンメモリを構える。

光哉&愛希

「「変身！」」

2人はWに変身する。

本当のWは此处から始まる。今明らかになるW誕生の謎！

光哉は始まりの日をこう呼んでいる。…ビギンズナイトと。

そしてディケイドとW、2つの物語が重なる時、最後の決戦が始まる。

世界の破壊者（後書き）

それでは皆さん、この小説を最後まで読んでいただいて本当に心から感謝します。

ED 『THE NEXT DECADE』

世界の破壊者のもう1つの結末（前書き）

今回はバッドエンドのストーリーです。

OP『RIDE THE WIND』

世界の破壊者のもう1つの結末

ライダー大戦から2カ月が過ぎようとしていたところだった。仮面ライダーを次々と抹殺してカードに封印している世界の破壊者・門矢士はひたすら専用のバイク『マシンディケイダー』を走らせていた。すると、ライオトルーパー部隊が現れて専用武器のアクセレイガンで銃撃する。

士

「チツ……まだ居たか。ゴミ共め！そんなに死にたいか……変身……！」

士はディケイドライダーと呼ばれるバツクルを腰にセットして同時に出現したライドブッカードをソードモードにしてライオトルーパーに斬りかかる。何度も修羅場を潜りぬけてきた士は変身しなくても安易にライオトルーパーの攻撃を避けてライドブッカードソードモードで斬る。しかし、数が増えてきてケータッチを取り出すと直接コンプリートフォームに変身すると思われたが、すでに失われたフォームに変身した。

「END KAMEN RIDE DECADE！」

電子音が鳴ると士は破壊者としてのディケイド『仮面ライダーディケイド・エンドフォーム』に変身した。だが、以前の姿とは異なりディケイド・激情体と同じようにディメンジョンヴィジョン禍々しくなっていたり、シグナルポインターが紫色になっている。さらに胸のヒストリーオーナメントのカードが黒眼のクウガ、アナザーアギト、リュウガ、オーガ、グレイブ、歌舞鬼、ダークカブト、ネガ電王、ダークキバとなっている。

ディケイド・エンドフォーム

「お前ら、魔導師か？魔力反応がしたから……まあいい。来い」

ディケイド・エンドフォームの挑発と同時にライオトルーパー達はディケイド・エンドフォームに向かってアクセレイガンで攻撃をするが、攻撃をかわすとディケイド・エンドフォームはカードを装填する。

「ATTACK RIDE JET SLINGER！」

電子音が鳴るとマシンディケイダーが超高性能バイク『ジェットスライガー』に変化して乗り込むとバトルモードにモードチェンジする。高速でライオトルーパー達の真後ろまで来ると搭載されていたミサイルを全弾発射する。巨大な爆発が起こるとその場に残っていたものはアクセレイガンとスマートバツクルだけだった。ディケイド・エンドフォームは変身を解くとアクセレイガンを踏みつぶし、スマートバツクルを投げ捨てる。

士

「……仮面ライダーは俺が全て破壊する」

吐き捨てるように発言をすると、マシンディケイダーに乗って何処かへと走らせる。

数時間が経つと、土はライダーたちの追手を逃れようとしてマシン
ディケイダーを走らせたが、銀色のオーロラがマシンディケイダー
ごと土を包みこんで他の場所に転移させる。

土

「またここか……」

転移してきた場所は最後の戦いが起こった荒野だった。そこに10
人の人影が現れる。アークルアーマーを装着して霊石が漆黒の色に
なっているベルト『アークル』を腰に装着している少年『衛宮士朗^{えみやしろう}』
、ドラゴンズネイルという装飾を装備しているベルト『オルタリン
グ』を腰に装着しているポニーテールの女性『シグナム』、銀色の
ベルト『Vバックル』を装着して紅いデッキケースを所持している
紅い髪の少年『エリオ・モンディアル』、ファイズギアとファイズ
ブラスターと言うトランク型のトランスジェネレーター、ファイズ
フォンという携帯電話型のトランスジェネレーターを持っている蒼
い髪の少女『スバル・ナカジマ』、ブレイバックルと言うベルトを
腰に装着している金髪の女性『フェイト・テスタロッサ・ハラオウ
ン』、音叉と小振りの剣を持っている男性『ユーノ・スクライア』、
ライダーベルトにカブトゼクターと呼ばれる昆虫型のコアの角を展
開した状態でベルトの左側に『ハイパーゼクター』というツールを
付けているツインテールの少女『ティアナ・ランスター』、ケータ
ロスと言う携帯電話を付けた電王ベルトを腰に装着して4つの電仮
面が付いている剣『デンカメンソード』をもった茶髪の女性『八神
はやて』、蝙蝠のようなモンスター『キバットバット3世』をもつ
て腰に赤いベルト『キバットベルト』を付けている赤髪の少女『ヴ
イータ』、そして最後に現れたのはキバット族のモンスター『キバ
ーラ』を従えたサイドポニーの女性『高町なのは』が土の前に立ち
はだかる。

士

「士朗……シグナム……エリオ……スバル……フェイト……ユーノ……ティア……はやて……ヴィータ……なのは……！俺の邪魔をする気か？」

士朗

「その通りだ！」

シグナム

「貴様のせいで何人もの人間が命を落とした」

エリオ

「だからあなたを倒します」

スバル

「もう2度とこんなことがないように！」

フェイト

「士……もうあなたは後戻りできない」

ユーノ

「……」

ティアナ

「士さん……あなたは罪を犯しました」

はやて

「士君……これ以上離すことはない」

ヴィータ

「此処でお前を倒さなきゃ平和になんかならねえ!」

なのは

「土君……私が土君を止めて見せる」

10人は変身ポーズをとってそれぞれ叫ぶ。

10人

「「「「「「「「「「変身!」「」「」「」「」

「STANDING by AWAKENING」

「TURN UP」

「HYPER CAST OFF! CHANGE HYPER B
EETLE!」

「LINER FORM」

士朗はスパークとどす黒い霧に包まれて最凶最悪のクウガ『仮面ライダークウガ・ライジングアルティメットフォーム』に、シグナムはオルタリングの両腰の部分をタッチするとオルタリングから光があふれだしてオルタリングから『シャイニングカリバー』と言う剣を持つてアギトの最終フォーム『仮面ライダーアギト・シャイニングフォーム』に、エリオはVバックルに龍騎の紋章が刻まれたアドベントデッキを装填すると3つの虚像がオーバーラップして龍騎の最強フォーム『仮面ライダー龍騎・サバイブ』に、スバルはファイズブラスターに変身コードを入力してエンターキーをプッシュすると電子音が鳴ってファイズブラスターのスロット部分にファイズフオンをセットして再び電子音が鳴るとスバルの身体をフォトンスト

リームが巡ってスバルの身体は『仮面ライダーファイズ・ブラスタ
ーフォーム』に、フェイトはブレイバツクルのターンアップハンド
ルを操作すると前方に通常とは異なるコーカサスビートルアンデッ
ドの絵柄が映っている黄金のオリハルコンエレメントを潜るとフェ
イトの身体は13体のスピードストのアンデッドと融合した特殊
なキングフォーム『仮面ライダーブレイド・キングフォーム』に、
ユ一ノは1度響鬼に変身して小振りの剣『装甲声剣』に「響鬼、装
甲」と音声入力すると響鬼の身体が紅に染まってアームドディスク
アニマルと呼ばれるディスクアニマルが響鬼の身体を覆って響鬼は
『仮面ライダー装甲響鬼』に、ティアナはハイパーゼクターのゼク
ターホーン倒して電子音が流れると一旦カブト・ライダーフォーム
に変身してタキオン粒子がカブト・ライダーフォームの体中を巡る
とカブトホーンは鋭くなつて全身のアーマーにタキオンプレートと
言う装備を収納したカブテクターと言うアーマーが追加されて『仮
面ライダーカブト・ハイパーフォーム』に、はやてはデンカメンソ
ードの刀身部の峰にあるパススロットにライダーパスを挿入する
と電子音が鳴ってはやての身体をフリーオーラが包んで電王・プラ
ットフォームに変身するとデンライナーが現れて電王・プラットフ
ォームを通り抜けるとキングライナーに酷似したオーラアーマーが
装備されて頭部にはデンライナー・ゴウ力を模したデンカメンが付
けられてはやては『仮面ライダー電王・ライナーフォーム』に、ヴ
イータはキバットバット3世に掌をかませて自身の身体に魔皇力を
注入させてステンドグラス状の紋章が浮かび上がるとキバットバッ
ト3世をキバットベルトに装着してキバがファイナルウェイクアップした
キバの本来の姿『仮面ライダーキバ・エンペラーフォーム』に、な
のははキバーラが起こした波動に包まれるとキバ・キバフォームと
かなり酷似していてキバーラサーベルという専用の剣を所持した『
仮面ライダーキバーラ』にそれぞれ変身する。

士

「クウガにアギト、龍騎、ファイズ、ブレイド、響鬼、カブト、電王、キバの最強フォームにキバラか。お前ら……そんなに死にたいか？なら俺が殺してやる。変身！」

「END KAMEN RIDE DECADE！」

士はケータッチが付いているデイクイドライダーを腰に装着してケータッチのデイクイドのライダークレストをタッチすると電子音が鳴ってデイクイド・エンドフォームに変身する。11人の仮面ライダーはライジングタイタンソード、シャイニングカリバーシングルモード、ドラグバイザーツバイ、ファイズブラスターフォトンブレイカーモード、重醒剣キングラウザー、アームドセイバー、カブトクナイガンクナイモード、デンカメンソード、ドツガハンマー、キバラサーベル、ライドブッカーソードモードを構えて数秒の沈黙の後、デイクイド・エンドフォームが駆けだすと同時にクウガ・ライジングアルティメットフォームたちも駆けだして10対1のライダー大戦が起こった。

デイクイド・エンドフォーム

「雑魚が」

デイクイド・エンドフォームはライドブッカーソードモードで攻撃を適当にあしらうと、ライドブッカーからカードを取り出して装填する。

「ATTACK RIDE ILLUSION！INVISIBLE
E！」

電子音が鳴るとデイクイド・エンドフォームが10人に分身すると

インビジブルのカードの効果で10人は消える。

クウガ・ライジングアルティメットフォーム

「くそ！何処行っただ！」

ディケイド・エンドフォーム

「俺はここだ」

インビジブルの効果が切れて突如現れたディケイド・エンドフォームはクウガ・ライジングアルティメットフォームを蹴り飛ばすと、ライドブッカードモードで近くにいたキバ・エンペラーフォームを連続で斬り裂く。さらにディケイド・エンドフォームは『アタックライド・サヴェジガッツシャー』を使って召喚したサヴェジガッツシャーをソードモードに組み立てるとライドブッカードモードも持って2刀流のような持ち方でキバ・エンペラーフォームを斬り裂いて幽汽のファイナルアタックライドカードを使って『ターミネイトフラッシュ』をキバ・エンペラーフォームに直撃させて変身を強制解除させる。

キバーラ

「ヴィータちゃん！」

キバーラはヴィータを守ろうとして駆け出そうとするが、ディケイド・エンドフォームがライドブッカードで放ったビーム光弾を喰らって倒れる。

ディケイド・エンドフォーム

「邪魔だ。失せろ」

吐き捨てるように言うとディケイド・エンドフォームはヴィータに

目を向けてケータツチのキバのクレストをタッチする。

「KIVA!CALL RIDE DARK」

ケータツチから電子音が鳴るとディケイド・エンドフォームの隣にキバ・エンペラーフォームに酷似した漆黒のキバ『仮面ライダーダークキバ』が召喚される。そしてライドブッカードからキバのクレストが付いたカードを装填してブッシュする。

「FINAL ATTACK RIDE k i k i k i K I
VA!」

電子音が鳴るとディケイド・エンドフォームとダークキバが上空に飛びあがってそこから強烈な飛び蹴りを放つダークキバとのファインアルタックライド『キングスバーストエンド』がヴィータに直撃して爆発が起るとそこに残っていたのはヴィータが封印されたカードだけだった。

ディケイド・エンドフォーム

「1人消えたか。……次の相手は誰だ?…俺が全て破壊してやる!」

電王・ライナーフォーム

「次の相手は私や!」

言葉とともに電王・ライナーフォームがデンカメンソードでディケイド・エンドフォームを斬る。しかし、ディケイド・エンドフォームは深手を負わずに済んで一旦後退するとカードを取り出して装填する。

「ATTACK RIDE SHOOT VENT!」

すると、ディケイド・エンドフォームの手に巨大な大砲『ギガランチャー』が召喚されて電王・ライナーフォームに向けて弾丸を発射する。またともに食らった電王・ライナーフォームはデンカメンソードを構えてデンライナー・ゴウカのオーラライナーが飛び出すとデンカメンソードでディケイド・エンドフォームを斬り殺そうとする。

ディケイド・エンドフォーム

「はやて……これで終わりだ。消える」

「DEN・O!CALL RIDE NEGATIVE」

電子音が鳴るとディケイド・エンドフォームの隣に電王・ソードフォームに酷似した『仮面ライダーネガ電王』が召喚されるとディケイド・エンドフォームはライドブッカードからカードを取り出して装填する。

「FINAL ATTACK RIDE de de de DEN・O!」

ネガ電王とディケイド・エンドフォームがネガデンガッシャーロッドモードとライドブッカードモードを電王・ライナーフォームに投げると亀の甲羅に似たオーラキャストに拘束されてデンカメンスラッシュが発動せずに電王・ライナーフォームはそのまま動けなくなる。そしてネガ電王とディケイド・エンドフォームがファイナルアタックライド『ネガデンライダーキック』を電王・ライナーフォームに放って、またともに攻撃を喰らってしまった電王・ライナーフォームはダメージに耐えきれずにカードに封印されてしまう。

カブト・ハイパーフォーム

「八神部隊長！ディケイド、よくも！！」

怒り狂ったカブト・ハイパーフォームはディケイド・エンドフォームにカブトクナイガンに向けて攻撃しようとする。ディケイド・エンドフォームはまだ残っていたサヴェジガッシャーソードモードでカブトクナイガンを弾いてサヴェジガッシャーで斬りつけようとする。

「HYPER CLOCK UP！」

カブト・ハイパーフォームがスラップスイッチと言う赤いボタンをプッシュすると電子音が鳴って、カブテクターを展開してハイパークロックアップ状態になってクロックアップよりもスピードを上げてその場から消える。実際には超高速のスピードで移動した。

ディケイド・エンドフォーム

「ハイパークロックアップを使ったか。ならこっちも」

眩きの後、ディケイド・エンドフォームはライドブッカーからカードを取り出してバツクルに装填する。

「ATTACK RIDE HYPER CLOCK UP！」

電子音が鳴るとディケイド・エンドフォームもカブト・ハイパーフォームのように超高速のスピードで移動する。それに驚いたカブト・ハイパーフォームはすぐに必殺技を繰り出そうとしてハイパーゼクターのゼクターホーンを倒す。

「MAXIMUM RIDER POWER」

カブト・ハイパーフォームの体中にマキシマムライダーパワーを送り込んで、カブトゼクターのスイッチを押す。それと同時にディケイド・エンドフォームはカブトのクレストをタッチしてコイルクレストをタッチする。

「1・2・3」

「KABUTO!CALL RIDE DARK HYPER」

電子音が鳴ると黒と赤を基調としたカブトと瓜2つの姿を持つ『仮面ライダーダークカブト・ハイパーフォーム』を召喚する。カブト・ハイパーフォームはそれと同時にカブトゼクターのゼクターホーンをマスクドフォームの状態に倒す。

カブト・ハイパーフォーム

「ハイパーキック!」

「RIDER KICK」

カブトゼクターのゼクターホーンを倒すとカブト・ハイパーフォームの足にタキオン粒子が集束する。それと同時にディケイド・エンドフォームは黄色のカードを装填してプッシュする。

「FINAL ATTACK RIDE da da da DARK KABUTO!」

電子音が鳴るとディケイド・エンドフォームとダークカブト・ハイパーフォームの足にカブト・ハイパーフォームのように右足にタキオン粒子が集束する。そしてカブト・ハイパーフォームは『ハイパーライダーキック』を、ディケイド・エンドフォームは飛び蹴りを

放つダークカブト・ハイパーフォームとのファイナルアタックライド『ハイパーダークライダーキック』をぶつけ合い、爆発すると衝撃とダメージでカブト・ハイパーフォームはカードになって封印される。

装甲響鬼

「皆！クソ！」

カブト・ハイパーフォームと同じく怒り狂った装甲響鬼はアームドセイバーを振り回してディケイド・エンドフォームに攻撃する。単調な攻撃のため、アームドセイバーによる攻撃をよけると、至近距離でライドブッカーからビーム弾を撃ってパンチやキックを装甲響鬼に当てる。

ディケイド・エンドフォーム

「戦闘経験もないのによく俺に攻撃できたな。消えろ」

ディケイド・エンドフォームは冷徹に言葉を吐き捨てると装甲響鬼を踏みつぶしてケータッチのクレストをタッチする。

「HIBIKI！CALL RIDE KABUKI」

電子音が鳴るとディケイド・エンドフォームの隣に赤と緑を基調とした鬼の仮面ライダー『仮面ライダー歌舞鬼』が召喚されてFのクレストをタッチすると歌舞鬼はファイナルフォームライドしてケシズミガラスのような姿の『カブキケシズミガラス』となり、装甲響鬼の身体に纏わりつくと言撃鼓に変化してディケイド・エンドフォームはライドブッカーからカードを取り出して装填する。

「FINAL ATTACK RIDE ka ka ka KA

BUKI!」

ディケイド・エンドフォームは歌舞鬼の音撃棒『烈翠』を構えて音撃鼓を烈翠で太鼓のように叩く『ダークネスウェイブ』を食らわせて装甲響鬼は爆散してカードとなる。すると、後ろから斬られてディケイド・エンドフォームは倒れてしまう。ディケイド・エンドフォームを斬った仮面ライダーはフェイトが変身したブレイド・キングフォームだった。

ブレイド・キングフォーム

「士……私は貴方を愛していた。でも……此处で貴方を倒さないと、世界は滅びるから……倒させてもらっ！」

ディケイド・エンドフォーム

「フェイト……俺は誰にも倒されない。最強の仮面ライダーは俺だけだ。だから、お前に倒されるほど俺は弱くない」

少しの沈黙の後、破壊者と黄金の戦士が武器を携えて互いを斬り付け合う。そしてブレイド・キングフォームはラウズカードを使わずにスラッシュリザードの力を使って強化されたりザードスラッシュでディケイド・エンドフォームに斬りかかる。ディケイド・エンドフォームも負けておらず、『アタックライド・スラッシュ』と『アタックライド・コピーベント』を使って強化されたライドブッカーソードモードとコピーベントの効果でコピーしたキングラウザーでブレイド・キングフォームの攻撃を受け止めると弾き返してディケイドスラッシュをブレイド・キングフォームに食らわせる。

ブレイド・キングフォーム

「くっ……」

ディケイド・エンドフォーム

「フェイト、サヨナラだ」

「BLADE! CALL RIDE GLAVE」

電子音が鳴るとブレイドに似た剣士のようでAをモチーフとした仮面ライダー『仮面ライダーグレイブ』が現れる。ディケイド・エンドフォームはライドブッカーソードモードを、グレイブはグレイブラウザーを構えると接近してくるブレイド・キングフォームを同時に斬り付ける。そしてカードを取り出して装填する。

「FINAL ATTACK RIDE g g g GLAVE
！」

電子音が鳴るとライドブッカーソードモードとグレイブラウザーに『マイティグラビティ』のカードの効果が付加してバインドで拘束したブレイド・キングフォームにグレイブのファイナルアタッククライド『グラビティスラッシュ』を放つとブレイド・キングフォームはカードに封印される。

ディケイド・エンドフォーム

「次は…スバル、お前だ」

フェイトを封印したディケイド・エンドフォームは次にファイズ・ブラスターフォームを戦闘相手として指名する。

「READY」

ファイズショットを起動させたファイズ・ブラスターフォームはファイズブラスターに5232と入力してエンターキーを押す。

「FAIZ SHOT EXCEED CHARGE」

ファイズショットにフォトンブラッドがエクシードチャージされると、ファイズ・ブラスターフォームは得意な打撃攻撃『ブラスター・グランインパクト』をディケイド・エンドフォームに当てるが、アタックライド・バリアの効果で防がれるが、すぐにバリアは破壊されてしまう。さらにファイズ・ブラスターフォームは103とファイズブラスターに入力してエンターキーを押す。

「BLASTER MODE」

ファイズブラスターをトランクの状態から砲撃が可能なブラスターモードにしてもう1度エンターキーを押す。

「EXCEED CHARGE」

電子音が鳴るとファイズブラスターにフォトンブラッド粒子がエクシードチャージされて必殺技『フォトンバスター』をディケイド・エンドフォームに放とうとする。その時、ディケイド・エンドフォームはカードを1枚装填する。

「FINAL FORM RIDE r y u r y u r y u R YUKI!」

突然、龍騎サバイブがサバイブドラグランザーに超絶変形してさらにはファイアーウォールを発動してフォトンバスターを防ぐ。

「ATTACK RIDE SHOOT VENT!」

電子音が鳴るとライドブツカーガンモードから殺傷能力がないビームが発射されるとサバイブドラグランザーが巨大な火球『メテオバレット』の灼熱の炎がファイズ・ブラスターフォームを焼き尽くす。死にはしなかったがファイズ・ブラスターフォームの身体に大きなダメージが残る。そしてディケイド・エンドフォームはケータッチのクレストをタッチする。

「FAIZ!CALL RIDE ORGA」

ヒストリーオーナメントのカードがオーガに変わるとディケイド・エンドフォームの隣にΩを模した黒いライダー『仮面ライダーオーガ』が姿を現す。そしてオーガストランザーとライドブツカーソードモードでファイズ・ブラスターフォームを斬り付けるとカードを取り出して装填する。

「FINAL ATTACK RIDE o o o ORGA!」

電子音が鳴るとライドブツカーソードモードとオーガストランザーの刀身からフォトンブラッドでできた粒子の剣が出てくると同じタイミングでオーガとディケイド・エンドフォームはファイズ・ブラスターフォームにオーガのファイナルアタックライド『オーガストラッシュ』を発動させる。ファイズ・ブラスターフォームは必死でフォトンバスターで対抗しようとするが、フォトンバスターの粒子砲がオーガストラッシュによって引き裂かれるとファイズ・ブラスターフォームもオーガストラッシュを喰らって爆発するとカードに封印される。

龍騎サバイブ

「スバルさん!!よくもスバルさんを!消えろ、ディケイド!」

怒号とともに龍騎サバイブはバツクルのアドベントデッキからアドベントカードを引き抜いてドラグバイザーツバイに挿入する。

「SWORD VENT」

エコーが掛った音声が鳴るとドラグバイザーツバイから『ドラグブレード』に変形してもう1度ソードベントを使って炎を纏ったドラグブレードでディケイド・エンドフォームを斬り裂こうとするが、インビジブルによって消えるとステルス状態でディケイド・エンドフォームは龍騎サバイブにディケイドブラストとアタックライドで召喚したデンガッシャーガンモードを連射して確実に龍騎サバイブにダメージを与える。そしてケータツチのクレストをタッチする。

「RYUKI!CALL RIDE RYUGA」

電子音が鳴るとヒストリーオーナメントのカードが全てリュウガに変わると龍騎に酷似した黒い龍騎『仮面ライダーリュウガ』が召喚される。

「FINAL ATTACK RIDE r y u r y u r y u
RYUGA!」

突如、黒いドラグレッダー『暗黒龍ドラグブラッガー』が現れてディケイド・エンドフォームとリュウガが空高く跳びあがるとドラグブラッガーが放った黒い炎を纏ってジャンプキックを放つリュウガのファイナルアタックライド『ドラゴンライダーキック』を喰らって龍騎サバイブは爆発してカードに封印される。

ディケイド・エンドフォーム

「残ったのは後3人。アギト、来い。俺と…俺と戦え!」

アギト・シャイニングフォーム

「士……貴様と話すことはもうない。私はお前を倒す。それだけだ」

アギト・シャイニングフォームは持っていたシャイニングカリバーをエマージュモードにしてブーメランのように投げるが、ディケイド・エンドフォームはギリギリでシャイニングカリバーエマージュモードの攻撃を避けてシャイニングカリバーエマージュモードはアギト・シャイニングフォームの手に戻る。

ディケイド・エンドフォーム

「来い。時間がない」

ディケイド・エンドフォームの発言の意味がわからないままアギト・シャイニングフォームはシャイニングカリバーをエマージュモードからシングルモードに変えると長いリーチを生かしてディケイド・エンドフォームに攻撃をしようとするが、ライドブッカード簡単に受け止められてしまう。ディケイド・エンドフォームはアギト・シャイニングフォームの懐にパンチやキックを連打するとケータッチのクレストをタッチする。

「AGITO! CALL RIDE アナザー」

電子音の後、ヒストリーオーナメントのカードがアナザーアギトに変化してイナゴやバッタ、龍に似た緑の獣に似たライダー『仮面ライダーアナザーアギト』が召喚されてディケイド・エンドフォームと同時にアギト・シャイニングフォームを蹴り飛ばす。

「FINAL ATTACK RIDE a a a AGITO
！」

足元にアナザーアギトの紋章が浮かぶと右足に吸収されてアナザーアギトのファイナルアタックライド『アサルトキック』をアギト・シャイニングフォームに放ってアギト・シャイニングフォームは爆発してカードとなる。

クウガ・ライジングアルティメットフォーム

「土ア！！何人人を殺せば気が済むんだよ！……だから俺はお前を倒すためなら、悪魔にだってなつてやる！！」

そう宣言したクウガ・ライジングアルティメットフォームはライジングタイタンソードを構えるとディケイド・エンドフォームもライドブッカードソードモードを構える。そして2人の仮面ライダーはぶつかり合つて激しい攻防戦を繰り返す。そしてディケイド・エンドフォームとクウガ・ライジングアルティメットフォームは後ろへ下がるとディケイド・エンドフォームはケータッチを操作する。

「KUUGA!CALL RIDE RISING ULTIMATE」

究極の闇を越えた闇のクウガ『仮面ライダークウガ・ライジングアルティメットフォーム』が現れる。そしてディケイド・エンドフォームはカードを装填する。

「FINAL FORM RIDE k u k u k u KUUGA!」

ディケイド・エンドフォーム

「堪える……！」

ディケイド・エンドフォームが召喚したクウガ・ライジングアルティメットフォームの背中に触れるとゴウラムのように変化していつて通常のゴウラムよりも2本の角が荒々しくなっていて外見も雷のようになっているクウガ・ライジングアルティメットフォームのフアイナルフォームライド『ライジングアルティメットゴウラム』に超絶変形するとライジングアルティメットゴウラムはクウガ・ライジングアルティメットフォームを上空で挟み込む。その間、ディケイド・エンドフォームはカードを装填する。

「FINAL ATTACK RIDE k u k u k u K U
UGA！」

ライジングアルティメットゴウラムが1度クウガ・ライジングアルティメットフォームを地上にたたき落とすと再び上空に行つて途中で離すとディケイド・エンドフォームはディメンジョンキックを放つて、ライジングアルティメットゴウラムは角で攻撃する『ディケイドダークネス』が直撃してクウガ・ライジングアルティメットフォームはカードとなつて封印された。

キバーラ

「土君……」

ディケイド・エンドフォーム

「なのは……お前も俺の邪魔をするなら…消す」

キバーラ

「私は土君を止める。だから自分の命を引き換えにしても土君を絶対に止める！」

互いは最終必殺技を放つ態勢に入る。

「FINAL ATTACK RIDE de de de DE
CADE!」

電子音が静寂の地に流れるとキバーラはキバーラサーベルを構えて、
ディケイド・エンドフォームは前方に無数の3Dカードが出現して
ディケイド・エンドフォームは『エンド・ディメンジョンキック』
を、キバーラは『ソニックスタンプ』を放つ。そして爆発が起きる。
残っていたのはディケイド・エンドフォームだけだった。ディケイ
ド・エンドフォームは変身を解くとクウガ、アギト、龍騎、ファイ
ズ、ブレイド、響鬼、カブト、電王、キバ、キバーラに変身したか
つての仲間たちが描かれている10枚のカードを拾う。

士

「皆ごめんな……皆を守るにはこれしかなかったんだ。……犠牲に
なるのは俺だけで十分だ」

すると、スーパー死神博士率いるスーパーショッカーの軍勢が現れ
る。

士

「来たか。俺は全ての破壊者だ。立ちふさがる者は……全て破壊し
てやる!……変身!」

「END KAMEN RIDE DECADE!」

士はディケイド・エンドフォームに変身をする。ライドブッカードソ
ードモードを構えてスーパーショッカーの怪人軍団に攻撃を仕掛け
る。

数日後、ディケイド・エンドフォームとスーパーシヨッカーとの大乱戦の荒地ではカードに封印されていた10人の姿があった。

フェイト

「ここは……」

士朗

「そう言えば士は何処だ！」

士朗の言葉に皆はハツとする。なぜなら皆を倒したディケイド……士の姿がないのだから。そして皆が士を探しまわっているとなのはとフェイトは倒れている士を見つける。

フェイト

「士！士！」

なのは

「士君、目を覚まして！」

士からの返事はない。なぜなら、士の身体からはところどころから大量に出血していてもうすでに世界の破壊者は息を引き取っていた。

さらに数年の月日が立っていた。ミッドチルダの郊外に1つの墓標があつた。そこには『世界を救つた破壊者・門矢士、永遠に眠る』と刻まれていた。

世界の破壊者のもう1つの結末（後書き）

今回の物語はもしも士が死んだらと言うことを考えてみたらと少し考えていたらいつの間にか執筆していました。書いていた自分でも結構悲しいなと思いました。

ED『STAY THE RIDE ALIVE』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5135i/>

魔法少女リリカルなのはStrikerS 世界の破壊者の最後の旅

2010年10月10日18時05分発行